

推定 上野国府

～令和4年度調査報告～

上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅱ

推定
上野国府

～令和4年度調査報告～



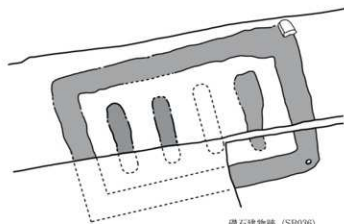
2024.3

前橋市教育委員会

前橋市教育委員会

推定上野国府

～令和4年度調査報告～



礎石建物跡 (SB036)

2024.3

前橋市教育委員会



1 78トレンチ 1号礎石建物跡掘込地畧全景（北から）



2 78トレンチ 1号礎石建物跡掘込地畧断面（北から）



3 79トレンチ 1号・2号溝跡断面 (南東から)



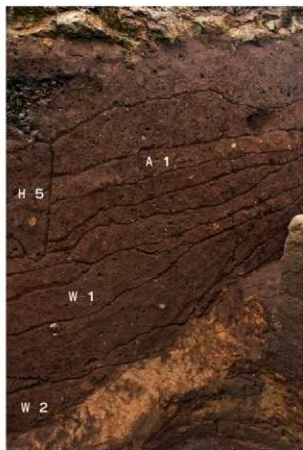
4 79トレンチ西調査区 1号・2号溝跡全景 (東から)



5 79トレンチ東調査区 1号・2号溝跡全景（東から）



6 79トレンチ 1号溝跡の底面下層の2号溝跡検出状態（東から）



7 1号溝跡の上層の遺構 (79トレンチ西壁)



8 79トレンチ 僅かに残る1号道路跡 (西から)



9 80トレンチ 2号柱穴列全景 (西から)



10 80トレンチ 布振り(P₃付近)の土層堆積(南から)



11 80トレンチ 布振り(P₄付近)の土層堆積(南から)

はじめに

前橋市の総社・元総社地区周辺は、宝塔山古墳や蛇穴山古墳をはじめ山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺などの諸施設が立ち並ぶ古墳時代から律令期にかけての上野国の中枢地域と考えられ、上野国府もその一角にあったと推定されています。

国府とは、律令制の下に各国に置かれた国司の役所で、特に上野国府は平安時代の中頃に起きた平将門の乱の舞台となるなど、記録にも度々その名前が登場します。しかしながら、その中心施設の国庁の位置や、国府城の範囲など、その内容については、詳しいことが分かっていません。

この問題を解決し、後世にわたり保存・活用するための基礎的な資料を得るために文化庁、群馬県の指導を受けつつ、「上野国府等調査委員会」において毎回検討を繰り返しながら、平成23年度から継続的な確認調査を行っております。令和2年度をもって5か年計画の第2期調査が終了しましたが、調査開始から10年が経過し調査成果が積み重なる一方で、新たな課題も生まれました。そうした状況の中で、さらなる調査が必要なことから、調査計画を5か年延長し、引き続き調査を行うこととしました。

今回、上梓する報告書は、その第3期の2か年目の調査内容をまとめたものです。令和4年度は、過去に実施された区画整理事業に伴う調査で重要な遺構が確認された地点の隣接地を中心に実施したものです。今回の調査では、かつてこの場所に存在した古代の役所に関連する遺構が確認されるであろうことは想定されていました。その遺構を発掘調査によって確認し、検討して新たな解釈を加えることにより、今まで未知だった真実を明らかにすることができました。まさに、バールによって隠された上野国府の真実を垣間見ることができたといえるような調査成果をあげることができました。この調査と検討の成果を上野国府の解明へのステップとすることができればと考えております。

最後に、本事業の推進にあたり、国・県・市の関係各位のご理解とご協力に対して深く感謝する次第です。また、地元の元総社地区各自治会をはじめ土地所有者の皆さんからも惜しみない協力をいただくことができましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和6年3月

前橋市教育委員会

教育長 吉川 真由美

例 言

- 1 本報告書は、上野国府等範囲内容確認調査計画に基づき、第3次5か年の調査計画（令和3～7年度）の2年次調査として、令和4年度に実施した発掘調査の報告書である。
 - 2 遺跡は群馬県前橋市元総社町2127-1ほかに所在する。
 - 3 発掘調査は、上野国府等調査委員会の指導のもと前橋市教育委員会が実施した。調査の要項は以下のとおりである。
 - ①発掘調査期間 令和4年6月1日～令和5年1月30日
 - ②整理・報告書作成期間 令和5年1月31日～令和5年3月31日
 - ③調査組織（令和4年度）
上野国府等調査委員会
(1) 委員会
委員長 梅澤重昭（元前橋市文化財調査委員）
副委員長 須田 勉（元国士館大学文学部教授）
委員 林部 均（国立歴史民俗博物館考古研究系教授）、前澤和之（群馬県地域文化研究協議会会長）、右島和夫（群馬県文化財保護審議会委員・群馬県立歴史博物館特別館長）、松田 猛（一般財団法人群馬県地域文化振興会常務理事）
幹事 小原俊行（群馬県地域創生部文化財保護課文化財活用係主任）、青木亮子（群馬県地域創生部文化財保護課埋蔵文化財係主事）、藤井一幸（前橋市教育委員会事務局教育次長）、上野克巳（前橋市教育委員会事務局文化財保護課長）
顧問 吉川真由美（前橋市教育委員会教育長）
指導 文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門文化財調査官、植松啓祐（群馬県地域創生部文化財保護課長）
(2) 調査部会
幹事 田中広明（公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査部部长）、出浦 崇（伊勢崎市教育部文化財保護課係長）
(3) 事務局（担当課 前橋市教育委員会事務局文化財保護課）
課長(幹事) 上野克巳
係長 神宮 聡
係員 阿久澤智和、阿久澤友之、池田史人、齋藤 颯、梅澤克典
 - ④発掘担当者 阿久澤智和・阿久澤友之
 - ⑤整理担当者 阿久澤智和・阿久澤友之・池田史人・淺野孝利
- 4 本書の編集は阿久澤（智）・阿久澤（友）・池田・淺野が行った。
- 5 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
阿久澤陽子、市村政夫、碓井俊夫、桑原和衛、小池 賢、小林千恵美、代田綾子、奈良啓子、町田妙子、松岡利雄
- 6 上野国府城の既調査区集合作業にかかわった方々は次のとおりである。
寺内勝彦（平成30年～令和元年）、梅澤克典（令和2年～）、船津弘幸
- 7 調査及び報告書作成にあたっては下記の諸機関・諸氏の御教示・御指導・御協力があった。
群馬県地域創生部文化財保護課、前橋市都市計画部区画整理課

出浦 崇、梅澤重昭、大橋泰夫、小宮俊久、須田 勉、田中広明、永井智教、林部 均、前澤和之、松田 猛、右島和夫

- 8 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会事務局文化財保護課で保管されている。

凡 例

- 1 挿入中に使用した北は、座標北である。
2 挿入に国土交通省国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮、長野)、1:50,000地形図(前橋)を使用した。

3 本遺跡の略称は、4A147である。略称の後に枝番を付し、トレンチ番号を示した。

4 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳～平安時代の竪穴建物跡 B…建物跡(掘立柱建物・礎石建物等) W…溝跡
T…竪穴状遺構 A…道路跡(遺構) I…井戸跡 D…土坑 P…ピット・柱穴・貯蔵穴
O…落ち込み

- 5 遺構・遺物の実測図の基本的な縮尺は次のとおりである。ただし、図の配置上、他の縮尺を使用したほうが妥当な場合は、その他の縮尺を適宜使用した。

遺構 全体図・遺構配置図…1:200 遺構断面図…1:60 竪穴建物跡等…1:60(竈…1:30)
溝…1:60 土坑・ピット等…1:60

遺物 1/4、1/2

- 6 計測値については、()は現存値、[]は復元値を表す。

7 遺物観察表については、以下のとおり記述した。

①層位は遺構出土の場合、「床直」・「底面」：遺構底面より10cm未満の層位からの検出、「覆土」：床面より10cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。

②口径、器高の単位はcmである。現存値を()、復元値を[]で示した。

③胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0～1.9mm)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④焼成は、基本的に極良・良好・不良の三段階とした。ただし、須恵器について酸化焰焼成によるものは「酸化焰」と記載した。

⑤色調は土器外面で観察し、色名は『新版標準土色帳』(小山・竹原 1967)によった。

- 8 遺構平面図の-----は推定線を表し、-----は堅緻面(硬化面)の範囲を表す。

9 スクリーントーンの使用は、次のとおりである。特別な場合は図版ごとに凡例を設けた。

遺構平面図 粘土分布… 炭化物分布… 焼土分布… 灰分布…

遺構断面図 構築面… 灰分布…

遺物実測図 須恵器断面… 陶器断面… 煤付着面…

陶器表面… 黒色処理…

- 10 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年)

Hr-FP (榛名ニッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉)

Hr-FA (榛名ニッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭)

As-C (浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半)

目 次

1	遺跡の立地と環境	1
(1)	遺跡の立地	1
(2)	歴史的環境	1
2	調査に至る経緯	5
(1)	調査のあらまし	5
(2)	これまでの調査成果	5
(3)	令和4年度調査	6
3	調査方法と経過	9
(1)	調査方法	9
(2)	調査経過	10
4	基本層序	11
5	遺構と遺物	11
(1)	各トレンチの概要	11
(2)	各トレンチの検出遺構	16
6	まとめ	68
	宮鍋神社周辺の様相について	68
(1)	建物跡について	68
	①礎石建物跡(SB036)の調査成果	68
	②80トレンチ検出の柱穴列について	68
(2)	区画溝について	70
	①南区画溝で検出された2条の区画溝の解釈	70
	②西区画溝との比較	71
	③前期区画溝に関する予察	71
	④区画溝上位の硬化面(道路跡)から	73
(3)	「倉庫群」付近の様相について	74
	①宮鍋神社周辺の倉庫群の状況	74
	②宮鍋神社付近における竪穴建物跡の分布状況	76
(4)	まとめ	82
	①「倉庫群」の区画溝について	82
	②「倉庫群」を構成する建物について	82

挿図目次

Fig.1	推定上野国府位置図	2	Fig.24	79トレンチ各遺構00、80・81トレンチ各遺構(1)	45
Fig.2	周辺遺跡	4	Fig.25	80・81トレンチ各遺構(2)	46
Fig.3	グリッド設定図とトレンチ位置図	7	Fig.26	80・81トレンチ各遺構(3)	47
Fig.4	2m小グリッドの呼称	9	Fig.27	80・81トレンチ各遺構(4)	48
Fig.5	各トレンチ土層柱状図	11	Fig.28	80・81トレンチ各遺構(5)	49
Fig.6	各トレンチ詳細位置図	12	Fig.29	80・81トレンチ各遺構(6)	50
Fig.7	78トレンチ全体図	13	Fig.30	遺物実測図(78トレンチ①)	51
Fig.8	79トレンチ全体図	14	Fig.31	遺物実測図(78トレンチ②)	52
Fig.9	80・81トレンチ全体図	15	Fig.32	遺物実測図(79トレンチ①)	53
Fig.10	78トレンチ各遺構(1)	31	Fig.33	遺物実測図(79トレンチ②)	54
Fig.11	78トレンチ各遺構(2)	32	Fig.34	遺物実測図(79トレンチ③)	55
Fig.12	78トレンチ各遺構(3)	33	Fig.35	遺物実測図(80・81トレンチ①)	56
Fig.13	78トレンチ各遺構(4)	34	Fig.36	遺物実測図(80・81トレンチ②)	57
Fig.14	79トレンチ各遺構(1)	35	Fig.37	遺物実測図(80・81トレンチ③)	58
Fig.15	79トレンチ各遺構(2)	36	Fig.38	礎石建物跡(SB036)と類似した礎石建物跡	69
Fig.16	79トレンチ各遺構(3)	37	Fig.39	80トレンチ検出の柱穴列	70
Fig.17	79トレンチ各遺構(4)	38	Fig.40	区画溝の様相	72
Fig.18	79トレンチ各遺構(5)	39	Fig.41	宮鍋神社周辺の様相(令和4年度調査終了時点)	75
Fig.19	79トレンチ各遺構(6)	40	Fig.42	宮鍋神社周辺の竪穴建物の分布(7世紀代)	78
Fig.20	79トレンチ各遺構(7)	41	Fig.43	宮鍋神社周辺の竪穴建物の分布(8世紀代)	79
Fig.21	79トレンチ各遺構(8)	42	Fig.44	宮鍋神社周辺の竪穴建物の分布(9世紀代)	80
Fig.22	79トレンチ各遺構(9)	43	Fig.45	宮鍋神社周辺の竪穴建物の分布(10世紀代)	81
Fig.23	79トレンチ各遺構00	44			

表目次

Tab.1	年度別の調査目的	5	Tab.6	遺物観察表	63
Tab.2	地点・目的別の調査成果	6	Tab.7	元総社蒼海道跡群(143)2号溝跡と 前期南区画溝(下段の区画溝)の比較	71
Tab.3	各調査トレンチの面積と調査目的	9	Tab.8	宮鍋神社周辺の礎石建物跡一覧	74
Tab.4	調査経過図	10	Tab.9	宮鍋神社周辺の掘立柱建物跡一覧	74
Tab.5	遺構計測表	59			

図版目次

【巻頭図版1】

- 78トレンチ 1号礎石建物跡掘込地業全景(北から)
- 78トレンチ 1号礎石建物跡掘込地業断面(北から)

【巻頭図版2】

- 79トレンチ 1号・2号溝跡断面(南東から)
- 79トレンチ 西調査区1号・2号溝跡全景(東から)

【巻頭図版3】

- 79トレンチ 東調査区1号・2号溝跡全景(東から)
- 79トレンチ 1号溝跡の底面下層の2号溝跡検出状態
(東から)

【巻頭図版4】

- 71号溝跡の上層の遺構(79トレンチ西壁)
- 79トレンチ 僅かに残る1号道路跡(西から)
- 80トレンチ 2号柱穴列全景(西から)
- 80トレンチ 布厨り(P₁付近)の土層堆積(南から)
- 80トレンチ 布厨り(P₁付近)の土層堆積(南から)

【遺構写真】

- PL-1-1 78トレンチ全景(南東から)
- 78トレンチ1号礎石建物跡根石検出状態①(南から)

- 3 78トレンチ1号礎石建物跡根石検出状態②(東から)
- 4 78トレンチ1号礎石建物跡南辺掘込地業断面(東から)
- 5 78トレンチ1号竪穴建物跡・1号溝跡全景(北から)
- PL.2-1 78トレンチ2号竪穴建物跡全景(北から)
- 2 78トレンチ2号竪穴建物跡カマド全景(西から)
- 3 78トレンチ3号竪穴建物跡全景(北から)
- 4 78トレンチ4号竪穴建物跡全景(北から)
- 5 78トレンチ4号竪穴建物跡カマド全景(北西から)
- 6 78トレンチ5号竪穴建物跡焼土分布状態(北から)
- 7 78トレンチ6号竪穴建物跡全景(北から)
- 8 78トレンチ7号竪穴建物跡全景(北から)
- PL.3-1 78トレンチ8号竪穴建物跡床面検出状態(北から)
- 2 78トレンチ9号・10号竪穴建物跡床面検出状態(西から)
- 3 78トレンチ2号土坑全景(北から)
- 4 78トレンチ1号土層葛検出状態(東から)
- 5 79トレンチ西半全景(南から)
- PL.4-1 79トレンチ東半全景(北から)
- 2 79トレンチ1号・2号竪穴建物跡全景(北から)
- 3 79トレンチ3号・4号・7号・8号竪穴建物跡全景(西から)
- 4 79トレンチ5号竪穴建物跡全景(西から)
- 5 79トレンチ5号竪穴建物跡カマド全景(西から)
- PL.5-1 79トレンチ5号竪穴建物跡2号炉全景(東から)
- 2 79トレンチ6号竪穴建物跡(西半)全景(東から)
- 3 79トレンチ6号竪穴建物跡(東半)全景(北から)
- 4 79トレンチ7号竪穴建物跡カマド全景(西から)
- 5 79トレンチ9号・10号(西半)竪穴建物跡全景(西から)
- 6 79トレンチ10号(東半)・17号竪穴建物跡全景(西から)
- 7 79トレンチ11号竪穴建物跡全景(南から)
- PL.6-1 79トレンチ14号竪穴建物跡(東半)全景(北から)
- 2 79トレンチ14号竪穴建物跡(西半)全景(北から)
- 3 79トレンチ15号竪穴建物跡全景(西から)
- 4 79トレンチ16号竪穴建物跡全景(西から)
- 5 79トレンチ16号竪穴建物跡カマド全景(西から)
- 6 79トレンチ18号竪穴建物跡全景(東から)
- 7 79トレンチ19号竪穴建物跡全景(北から)
- 8 79トレンチ21号竪穴建物跡・11号土坑全景(東から)
- PL.7-1 79トレンチ20号・23号竪穴建物跡全景(東から)
- 2 79トレンチ22号竪穴建物跡全景(東から)
- 3 79トレンチ23号竪穴建物跡全景(東から)
- 4 79トレンチ1号溝跡覆土の硬化部分土層堆積(北から)
- 5 79トレンチ1号溝跡覆土の硬化部分(南東から)
- 6 79トレンチ1号溝跡覆土の硬化部分(北西から)
- 7 79トレンチ1号土坑全景(南から)
- 8 79トレンチ2号土坑全景(南から)
- PL.8-1 79トレンチ3号土坑全景(東から)
- 2 79トレンチ4号土坑全景(東から)
- 3 79トレンチ5号土坑全景(北から)
- 4 79トレンチ11号土坑全景(南から)
- 5 80トレンチ(北半)全景(東から)
- 6 80トレンチ(南半)全景(西から)
- 7 80トレンチ(拡張部)全景(南から)
- 8 81トレンチ全景(南から)
- PL.9-1 80トレンチ2号竪穴建物跡全景(西から)
- 2 80トレンチ2号竪穴建物跡遺物出土状態(北西から)
- 3 81トレンチ3号竪穴建物跡全景(東から)
- 4 81トレンチ4号竪穴建物跡全景(西から)
- 5 81トレンチ6号竪穴建物跡全景(東から)
- 6 80トレンチ7号竪穴建物跡全景(西から)
- 7 80トレンチ8号竪穴建物跡全景(西から)
- 8 80トレンチ10号竪穴建物跡全景(北から)
- PL.10-1 80トレンチ11号竪穴建物跡全景(北から)
- 2 80トレンチ12号竪穴建物跡全景(北から)
- 3 81トレンチ13号竪穴建物跡全景(南から)
- 4 80トレンチ14号・15号竪穴建物跡検出状態(南東から)
- 5 81トレンチ16号竪穴建物跡全景(東から)
- 6 80トレンチ1号掘立柱建物跡全景(北から)
- 7 80トレンチ2号掘立柱建物跡(柱穴) P₁土層堆積(北西から)
- 8 80トレンチ2号掘立柱建物跡(柱穴) P₂全景(東から)
- PL.11-1 80トレンチ2号掘立柱建物跡(柱穴) P₁土層堆積(北西から)
- 2 80トレンチ2号掘立柱建物跡(柱穴) P₂土層堆積(西から)
- 3 2号掘立柱建物跡(柱穴) から78トレンチを望む
- 4 80トレンチ4号土坑全景(南から)
- 5 80トレンチ22号ピット全景(北から)
- 6 80トレンチ23号ピット全景(西から)
- 7 調査風景(78トレンチ)

【遺物写真】

PL.12 78・79・80・81トレンチの出土遺物

PL.13 80・81トレンチの出土遺物

1 遺跡の立地と環境

(1) 遺跡の立地

前橋市は、関東平野の北西部、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を抜けて関東平野へと至るところに位置する。市域は、その地形や地質の特徴から、西端部・北東部の火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南東部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

上野国府推定地のある元総社地区は、前橋台地から榛名山の山麓地形へと変化する場所に位置している。前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立ち、台地の東部は、旧利根川により形成された広瀬川低地帯と直線的な崖で画されている。台地の中央部は現在利根川が貫流しているが、利根川の流路は中世以降に現在の広瀬川低地帯から変流したものと推定されている。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山に源を発する中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、かつては桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

元総社地区は、前橋市街地から利根川を隔てた対岸に位置し、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。上野国府推定地はこれらの幹線道路から奥に入った場所に位置している。かつては周囲に田畑も多く存在し養蚕農家が往年のたたずまいを残す静かで落ち着いた環境であったが、近年の区画整理事業の進捗に伴い急速な住宅地化・市街地化が進む地域である。

(2) 歴史的環境

本遺跡地周辺には、総社古墳群、山王廃寺、上野国分僧寺・尼寺のほか普海城跡など多くの遺跡が存在し、歴史的環境に優れている。また継続して実施されている埋蔵文化財発掘調査によって新しい知見が集積されている。

縄文時代 縄文時代の遺跡としては、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡や元総社普海遺跡群で前期・中期の集落跡が検出されているほか、元総社普海遺跡群（9）で晩期の住居が検出されている。

弥生時代 弥生時代の遺跡は、水田・集落跡等が検出された日高遺跡のほか、新保遺跡や新保田中村前遺跡など、染谷川沿いで拠点的な集落が営まれるが、現在前橋市域となっている範囲では、後期の住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけで少ない。

古墳時代から奈良・平安時代 古墳時代の集落については4世紀代と6世紀代を中心に展開しており、大塚敷遺跡や元総社普海遺跡群で集落が確認されている。元総社普海遺跡群では、牛池川沿いの低地で古墳時代の水田も確認されているほか、墓域や祭祀跡も確認されており、同時代の集落・生産域・墓域がそれぞれ展開していたことがうかがえる。

これら集落を支配したであろう家族の被葬地として総社古墳群が考えられる。総社古墳群は大型の前方後円墳である遠見山古墳、上野国地域でも導入期の横穴式石室をもつ王山古墳、二つの横穴式石室をもつ前方後円墳の総社二子山古墳、家形石棺をもつ方墳の愛宕山古墳、上野国地域における古墳の終末期に位置づけられている方墳の宝塔山古墳と蛇穴山古墳が存在する。王山古墳以外は平成29年度から令和4年度にかけて行われた範囲内容確認調査により、各古墳の周堀も含めた規模や墳丘の構造が判明している。

また、宝塔山古墳の南西約500mには古代寺院の山王廃寺が存在する。山王廃寺は、平成18年度から22年度までの範囲内容確認調査の結果、約80m四方を回廊で囲み、講堂・金堂・塔が法起寺様式の伽藍配置をとることが判明した。山王廃寺の特徴である石製の塔心礎や石製鵝尾、根巻石等は、宝塔山古墳の石棺や、蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されており、このことから、この寺院を建立した氏族と宝塔山古墳・蛇穴

山古墳の被葬者は同一の氏族と考えられている。

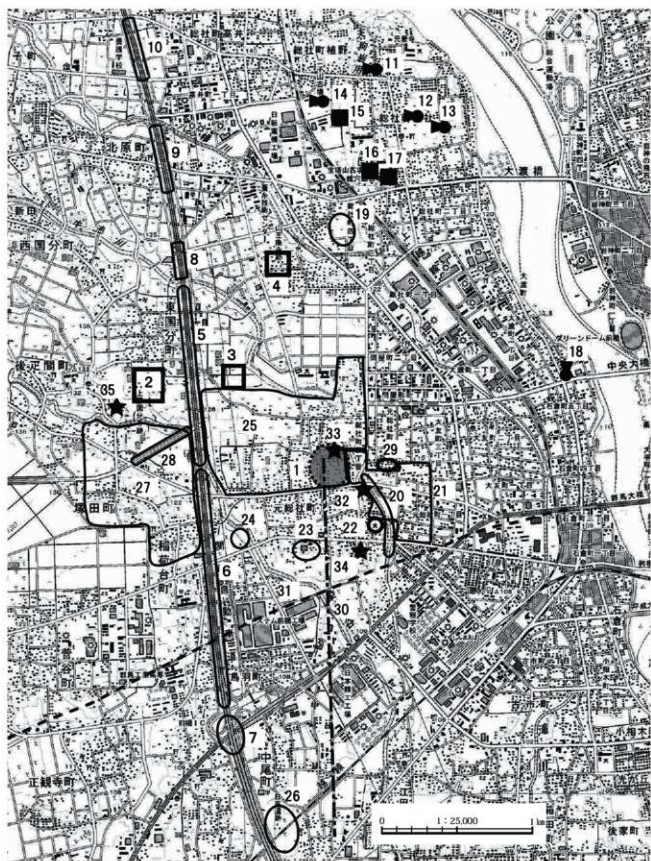
また、山王庵寺の下層には北西に主軸をもつ基壇建物や掘立柱建物跡が検出されている。これらの建物群についての評価は「車(群馬)評家」等諸説あるが、寺院の変遷を考える上で重要なものとなっている。

奈良・平安時代になると、上野国分僧寺、上野国分尼寺が建立されるなど、本地域は古代の政治・経済・文化の中心地としての様相を呈する。大正15年に国指定史跡となった上野国分僧寺は昭和55年から63年度にかけての発掘調査で主要伽藍の配置や築垣、塀等が確認された。さらに平成24年から28年度にかけて二度目の発掘調査が行われ、伽藍配置について新たな知見が得られている。上野国分尼寺は、昭和44・45年の発掘調査、平成12年の寺域確認調査、さらには平成28年度から令和2年度にかけて実施された範囲内容確認調査によって詳細な伽藍配置が判明しつつある。上野国分僧寺、上野国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

なお、元総社地域には総社神社が鎮座するほか、上野国府が存在したことが推定されているが、掘立柱建物跡や掘込地業(礎石建物跡)が元総社普海道跡群、元総社小学校校庭とその西方で確認されている。これらの建物の性格は明確ではないが、元総社周辺でも分布がスポット的であることから、国府等の官衙関連施設の存在が推定できる。また、これらの各施設の区画溝と推定される古代の溝跡が検出されている。この遺構は関系掘遺跡・元総社明神遺跡・元総社普海道跡群等で確認されており、上野国府等範囲内容確認調査の平成23年度調査(1次)でも確認されている。この区画溝は覆土上位に浅間B軽石が堆積するという时期的な特徴をもち、規模も近似することや、確認された地点が連続的なことから、一連のものと考えられる区画溝も存在する。その他に、国府推定域でも西に位置する鳥羽遺跡では、神社遺構とされる周囲に方形の溝をもつ掘立柱建物が存在するほか、大規模な工房跡も確認されている。国府関連の遺物としては、牛池川沿いの元総社明神遺跡Ⅷと元総社寺田遺跡では人形、元総社寺田遺跡では「国厨」や「曹司」などの国府関連施設名が墨書された須恵器が出土している。また、元総社普海道跡群(26)では「大館」、元総社小学校では「大家」の墨書土器が出土している。その他に、緑釉陶器が染谷川左岸の天神遺跡・弥勒遺跡・元総社普海道跡群の西寄りの調査区で出土するほか、宮鍋神社から元総社小学校にかけての牛池川右岸でも多く出土する。この宮鍋神社から元総社小学校にかけての地域は、白磁や緑釉陶器のほかに、坏部穿孔の上師質土器の高坏、「て」字状口縁の皿の破片、碁石と推定される白・黒の小礫、須恵器甕破片転用の小円盤等の10・11世紀代の特殊な遺物が出土している。

高崎市内の調査や平成28年度上野国府等範囲内容確認調査により、元総社地区の南部にN-64°-Eの方向で東山道駅路国府ルートが存在したことが推定されている。その他に日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を北方へ延長した通称「日高道」も存在する。

中世以後 中世、元総社には普海城が築城され、総社長尾氏の居城となっていた。また総社を中心としたこの付近一帯は奈良・平安時代から引き続いて上野国の府中として栄える。普海城の築城年代については、伝承では鎌倉時代に千葉上総介常胤により築かれたとされているが詳しいことは分かっていない。ただし、何らかの城郭的なものは存在していたと考えられており、室町時代の永享元年(1429)に長尾景行が城の修築を行っている。普海城の特徴は、館のような方形の曲輪が碁盤の目のように配置されている点である。これらの曲輪は「○○屋敷」という名称で呼ばれている。なお、普海城は、江戸時代に秋元氏が現在の総社の地に総社城を築城して城下町等を移転させたことにより、完全に廃城となったと考えられる。普海城からは、元総社町普海地区の区画整理事業に伴う発掘調査で、堀跡や掘立柱建物跡・井戸が検出されているほか、青白磁梅瓶や青磁・白磁片、穀物白や茶白などの石製品などが出土している。その他に、上野国分僧寺・尼寺地域では、寺院跡や土壌墓が検出されている。元総社普海道跡群(5)でも土壌墓がまとめて検出されており、普海城の周囲に寺院や墓地が営まれていたと推定される。



1. 国府調査重点調査区域 2. 上野国分寺 3. 上野国分寺 4. 山王庵 5. 上野国分寺・尼寺中間 6. 鳥羽遺跡 7. 中尾遺跡
 8. 国分庵遺跡 9. 北原遺跡 10. 下東西遺跡 11. 稲荷山古墳 12. 大小路山古墳 13. 達見山古墳 14. 総社二子山古墳 15. 愛宕山古墳
 16. 宝塔山古墳 17. 蛇穴山古墳 18. 王山古墳 19. 大原教遺跡 20. 元総社寺田遺跡 21. 元総社明神遺跡 22. 元総社小学校庭遺跡
 23. 天神口遺跡 24. 勢動口遺跡 25. 元総社普海遺跡群 26. 日高遺跡 27. 国府南遺跡群 28. 元総社西川・塚田中原遺跡
 29. 上野国府調査地点 (昭和42年) 30. 通称「日高道」 31. 推定東山道駅路国府ルート 32. 総社神社 33. 宮跡神社 34. 釈迦尊寺 35. 妙見寺

Fig. 2 周辺遺跡

2 調査に至る経緯

(1) 調査のあらまし

前橋市の元総社・総社地区は古墳時代から中世にかけて上野国の中心地として栄えた地域で、上野国府についても元総社町に推定地を求めている。こうした歴史的環境をふまえ、前橋市教育委員会では元総社・総社地区の歴史遺産を有機的に関連付けた保存・活用を目指し、平成18年度から5年間山王麿寺の範囲内容確認調査を実施し、その伽藍配置を解明することができた。その一方、国府推定地である元総社町普海地区では土地区画整理事業の進捗にあわせて発掘調査を継続してきたが、国府関連遺構の検出には至っていなかった。こうした状況の中で上野国府の解明が急務となったことから、平成23年度から5か年計画で上野国府等範囲内容確認調査が実施されるに至った。この平成27年度までの5か年の発掘調査で、元総社小学校校庭遺跡の1号掘立柱建物跡の再検出のほか、布地業の礎石建物跡の検出など、相応の成果を得ることはできたが、目標である国庁の検出には至らなかった。そうしたことから、翌平成28年度から第2期5か年計画を策定し発掘調査を継続した。その成果として、元総社小学校校庭やその西方において掘立柱建物跡の検出数が増加したほか、宮鍋神社周辺では元総社普海遺跡群の調査も含めて総地業・布地業の礎石建物跡を複数棟検出することができた。これら礎石建物「規則性をもって配置されていると考えられることから、宮鍋神社周辺の様相の解明を目的として第3期5か年計画を策定し、上野国府の調査を継続することとなった。令和4年度調査は第3期5か年計画の2次調査となる。

(2) これまでの調査成果

平成23年度実施の第1期1年次調査から令和3年度の第3期1年次調査までの調査目的及びその成果の概要をTab. 1、Tab. 2にまとめた。

Tab. 1 年度別の調査目的

調査目的	第1期5か年				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
殿小路周辺 (A案)	1a～7				
推定普海城本丸周辺 (B案)					
宮鍋神社周辺 (C案)		8～11, 13, 14		27, 28, 33, 34	35～39
阿弥陀寺周辺 (D案)					
総社神社・元総社小学校			17～22	30	40, 41
元総社小学校西方		15, 16		31a～32	43, 44
天神地区			(26)		
区画溝	(6)	12	23, 26	29	42
東山道駅路国府ルート関連			24a・24b・25		
上野国分尼寺跡範囲確認					
調査目的	第2期5か年				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
殿小路周辺 (A案)					
推定普海城本丸周辺 (B案)		50		66	
宮鍋神社周辺 (C案)				63, 64, 66ab	69～74
阿弥陀寺周辺 (D案)					
総社神社・元総社小学校	48	51	56, 57, 58		
元総社小学校西方	49	54	55, 59, 60	62	
天神地区	46				
区画溝	47			67, 68	
東山道駅路国府ルート関連	45a, 45b	52, 53			
上野国分尼寺跡範囲確認			61a, 61b		

※カッコ書きのトレンチNoは、副次的な目的

調査目的	第3期5か年
	令和3年度
宮鍋神社周辺(倉庫群)	75, 76, 77
総社神社・元総社小学校	
元総社小学校西方	

Tab. 2 地点・目的別の調査成果

調査地点	該当トレンチ	主な調査成果(その他の調査結果含む)
船小路周辺(旧A案)	1a, 1b, 2, 3, 4, 5, 6	官衙関連施設の遺構の検出なし。 6・7世紀代、10世紀以降の竪穴建物跡は検出されるが、8・9世紀代の竪穴建物跡は検出されていない。 その他、古代の小規模な溝跡が検出されている。
新海城本丸周辺(旧B案)	50, (29), 66	特殊な遺物は出土したが官衙関連遺構の検出なし。 6・7世紀代、10世紀以降の竪穴建物跡は検出されるが、8・9世紀代の竪穴建物跡は検出されていない。
宮鍋神社周辺(倉庫群)	7, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 27, 28, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 63, 64, 65a, 65b, 69, 70, 71a, 71b, 73, 74, 75, 76, 77	元総社宮海遺跡群検出のものを含めて礎石建物跡10棟(畑地業4棟、布地業6棟)、掘立柱建物跡5棟検出。また、それら建物群と同時期と推定される南北の区画溝跡1条と、建物群よりも古い斜方向の溝跡1条検出。6・7世紀代、10世紀以降の竪穴建物跡は検出されているが、8・9世紀代の竪穴建物跡は皆無に等しい。また、10世紀以降の遺構層土から緑輝陶器、白磁の破片や土師質土器が出土する。その他、土師質土器の遺物集(廃棄遺構)を2ヶ所検出。
阿弥陀寺周辺(旧D案)	なし。	なし。
総社神社・元総社小学校	17, 18, 19, 20, 21a, 21b, 22, 30, 41, 42, 48, 51, 56, 57, 58	元小校庭で掘立柱建物跡6棟、南北の区画溝跡2条、東西の区画溝跡1条、道路跡と考えられる硬化面検出。溝跡から多量の土器と「大家」「本」の墨書土器が出土。4～6世紀代、10世紀以降の竪穴建物跡が確認されている。
元総社小学校西方	15, 16, 31a ~ d, 32, 43, 44, 49, 54, 55, 59, 60, 62	掘立柱建物跡1棟検出。東西の区画溝跡と、直角に曲がる斜方向の区画溝跡を検出。 9～11世紀代の竪穴建物跡、粘土探窟坑、道路跡を検出。
天神地区	(26), (46)	官衙関連遺構の検出なし。 8～10世紀代の竪穴建物跡、斜方向の道路跡を検出。
区画溝の探索	南北溝(北から西へ10度の溝) : 12, (6), 26, 29, 40	12・26トレンチ以外で区画溝跡を検出。 宮鍋神社周辺の礎石建物跡・掘立柱建物より構成される施設の西区画溝と推定される。
	東西溝(国庁推定地C案南) : 47, 67, 68	別途検出されている区画溝跡の延伸を検出。 宮鍋神社周辺の礎石建物跡・掘立柱建物より構成される施設の南区画溝と推定される。
	東西溝(推定国衙城區画溝の南限東西溝) : 23	南北溝(北から西へ10度の溝)を西区画溝、関泉樋遺跡検出の区画溝を北区画溝とした方形区画を想定した場合の南区画溝の検出を目的としたもの。 この道路跡は東山道駅路国府ルートと推定される。 南区画溝の検出なし。
東山道駅路国府ルート	21a, 21b, 25, 45a, 45b, 46, 52, 53	鳥羽町で2時期の重複する古代の道路跡を検出。 この道路跡は東山道駅路国府ルートと考えられる。
上野国分尼寺跡範囲確認	61a, 61b	寺城南区画溝跡を検出。

これまでに実施した調査に、同時進行で行われている区画整理事業等で実施した発掘調査の成果を総合すると、礎石建物跡や掘立柱建物跡が検出されているのは、宮鍋神社周辺(国庁推定地C案)、元総社小学校校庭とその西方である。特に、礎石建物跡については、現時点では宮鍋神社周辺のみで検出されている。なお、そうした官衙に関連する建物跡の分布する周辺を中心に、研究史的に「古代の大溝」と呼ばれてきた区画溝跡も系統的に検出されている。なお、研究史的にも推定国府城の南端を通過すると考えられている東山道駅路国府ルートについても、鳥羽町でそれに該当すると考えられる古代の道路跡が検出されたが、染谷川以東での道路跡の検出事例はなく、推定国府城付近でのその位置は不明と言わざるを得ない。

(3) 令和4年度調査

令和4年度は、これまでに実施された範囲内確認調査や区画整理事業に伴う発掘調査により、宮鍋神社周辺で礎石建物跡・掘立柱建物跡・区画溝跡の検出が相次いだことから、引き続き宮鍋神社周辺にその存在が推定さ

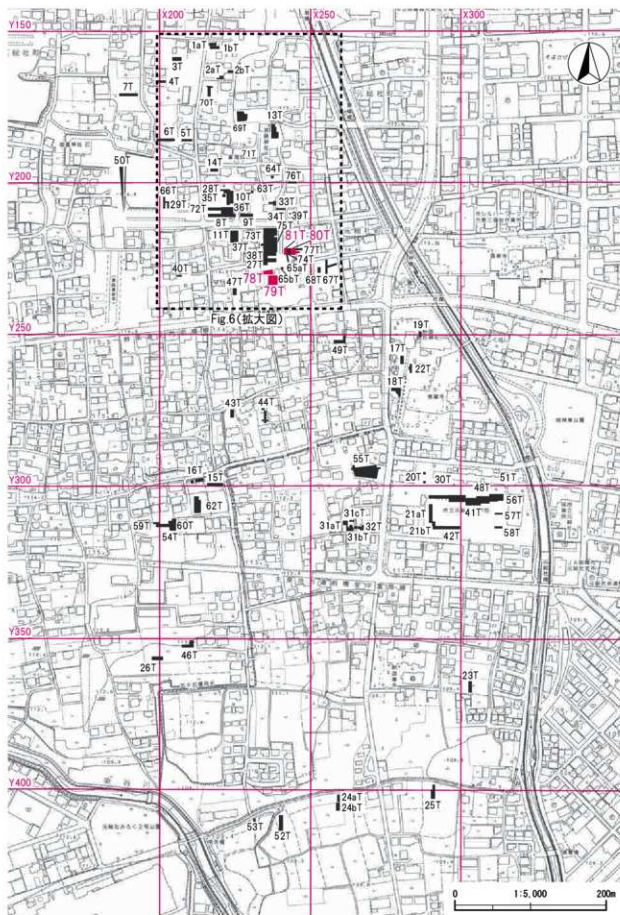


Fig. 3 グリッド設定図とトレンチ位置図

れる施設の解明と範囲確認を目的として発掘調査を実施した。

①既出の礎石建物跡の範囲内容確認調査（78トレンチ）

令和3年度に実施した元総社蒼海遺跡群（146）8区の調査で、布地業の礎石建物跡が検出された。この礎石建物跡は宮鍋神社周辺で検出される所謂「枠形の布地業」をもつ礎石建物跡で、蒼海（146）8区の調査では、布地業のうち北辺全体、西・東辺の一部および内側の布地業の一部が検出された。西・東辺の一部と南辺が蒼海（146）の調査区外となっていたことから、現状、調査可能な布地業南東隅付近を検出し、礎石建物跡の布地業の規模を確定することを主な目的として調査を実施した。また、令和2年度上野国府等範囲内容確認調査73トレンチで検出された1号道路跡について、その範囲確認も必要であることから、トレンチをその延伸に達する地点まで含めて調査を行った。

②南区画溝の範囲内容確認調査（79トレンチ）

平成26年度実施の元総社蒼海遺跡群（95）の調査で北から西へ13度傾く区画溝が検出されて以来、この区画溝の範囲内容確認調査を行ってきた。この区画溝が宮鍋神社周辺で検出されている礎石建物や掘立柱建物により構成される施設の南側の区画溝である可能性が高くなってきた。また、令和2年度上野国府等範囲内容確認調査73トレンチで検出された1号道路跡について、78トレンチと同様にその範囲確認も必要であることとあわせて、仮にそ1号道路跡の延伸が検出された場合、門などの入口施設の有無についても確認する必要があることから、南区画溝と73トレンチ1号道路跡の延伸との交点付近を中心として調査区を設定した。

③宮鍋神社周辺における官衙関連遺構（礎石建物跡・掘立柱建物跡）の検出（80・81トレンチ）

令和3年度までに、宮鍋神社周辺では礎石建物跡（総地業・布地業）が8か所、掘立柱建物跡が5か所検出されている。このほかにも同様の遺構の検出が見込まれることから、調査可能な地点においてトレンチを設定し確認調査を実施した。なお、80・81トレンチは令和2年度上野国府等範囲内容確認調査74トレンチを挟みこんで両側に位置し、80トレンチの北辺は、令和3年度上野国府等範囲内容確認調査77トレンチの位置に当たる。

3 調査方法と経過

(1) 調査方法

上野国府等範囲内容確認調査のこれまでの調査成果と令和4年度調査の調査目的については第2章で述べたとおりであるが、その目的を達成するために3か所にトレンチを設定し調査を行った。各トレンチの面積及び調査目的はTab. 3のとおりで、調査面積の合計は295m²である。なお、各トレンチの位置についてはFig. 3・6のとおりである。

発掘調査は「上野国府等範囲内容確認調査基準」に基づいて行った。以下に調査方法について要点を記す。

グリッド設定 (Fig. 3) 調査区のグリッド設定は以下のとおりである。①単位は4m四方とする。②国家座標第IX系(日本測地系)を用い、 $X=+44000$ 、 $Y=-72200$ を基点($X0$ 、 $Y0$)とする。③西から東へ4mごとにXの数値が増大し($X1$ 、 $X2$ 、 $X3$ ……)、北から南へ4mごとにYの数値が増大する($Y1$ 、 $Y2$ 、 $Y3$ ……)。④各グリッドの呼称基点は北西杭とする。なお、このグリッド設定は、区画整理に伴い継続的に調査が行われている元総社普海遺跡群のグリッド設定と共通するものである。

トレンチ設定 各トレンチの設定幅については、掘立柱建物の柱穴間隔を考慮して原則3mとしていたが、平成24年度の調査から4m幅へと拡大した。トレンチ名は、原則として調査順に数字で呼称することとし、平成23年度調査からの通し番号とした。

遺構の確認 遺構確認については、基本層序I層及びII層直下で行い、その後、上野国府の遺構面が存在するIII層(Hr- $FP \cdot As - C$ 混土層)を細分しながら確認することとした。遺構の確認にあたって、必要な場合はサブトレンチを設定することにし、サブトレンチの規模は遺構保護のため必要最小限とした。

測量 遺構平面図については縮尺1/20を原則とし、必要に応じて1/10~1/50の縮尺を適宜使用することとした。また、土層図についても縮尺1/20とし、遺構ごとの図面とは別に、グリッド杭のあるトレンチ壁面ですべて作成することにした。

出土物の取り上げ 遺構ごとを原則とし、遺構に属さない遺物は4mグリッド単位で記録を作成し取り上げることとした。なお、状況に応じて4mグリッドをFig. 4のように4分割し、2mの小グリッド一括で取り上げた遺物もある。小グリッドの呼称は、北西から反時計回りでA~Dとした。なお原位置を保つ礎石等、施設を構成する遺物については、原則として現状保存することとした。

写真撮影 遺構の写真撮影については、35mmフィルム(モノクロ、カラーリバーサル)およびデジタルデータを常時使用した。また、必要に応じて6×9サイズフィルムを使用した。空中写真撮影には6×6サイズフィルムもしくはドローンによるデジタルカメラ撮影を行った。

埋め戻し 調査終了後は、今後の調査と区別できるように石灰を散布してから埋め戻しを行った。重要と思われる遺構は保護のためにゴンベ砂もしくは川砂を入れた上で埋め戻しを行った。

Tab. 3 各調査トレンチの面積と調査目的

トレンチ	調査面積(m ²)	主な調査目的
78	63	国府関連施設(建物)の範囲確認
79	131	国府関連施設(区画溝)の確認
80	69	国府関連施設(建物)の確認
81	32	国府関連施設(建物)の確認
計	295	

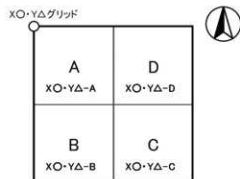


Fig. 4 2m小グリッドの呼称

(2) 調査経過

本年度の発掘調査は令和4年6月1日から開始し、令和5年1月30日に終了した。

発掘調査は78トレンチ、79トレンチから実施した。79トレンチは発掘調査時に発生する排土の置き場を考慮し、調査予定地を東西に分け、その西半分から調査を開始した。両トレンチとも6月1日に掘削した。

掘削終了後は、79トレンチを厳重に養生し、78トレンチから遺構確認作業と遺構の掘り下げを開始した。78トレンチは、礎石建物跡の掘込地業が検出されることが見込まれていたため、遺構の確認は慎重に行い、浅間B軽石混入土層下部付近から手作業により掘り下げた。6月下旬になる頃には78トレンチの調査もかなり進捗したことから、79トレンチの養生を開け、遺構確認と遺構の掘り下げを開始した。78トレンチでは当初の見込みどおり礎石建物跡の掘込地業が検出され、79トレンチでも見込みどおり倉庫群の南区画溝と考えられる古代の溝跡が検出された。

夏も過ぎ秋の気配が漂い始める8月の末頃には、78・79トレンチの発掘作業もかなり進捗したことから、80・81トレンチを設定し9月6日に両トレンチの掘削を行った。80トレンチは土置き場の関係で、北半分の調査を先行して実施した。80・81トレンチでは9月時点で官衝に関連する遺構は検出されず、古墳時代と平安時代の竪穴建物跡を中心とした遺構が検出された。

各トレンチの調査が一段落した時点で、トレンチ全景写真を撮影した。80トレンチ北半分は9月27日、78トレンチは9月29日、79トレンチ西半分と81トレンチは10月3日に撮影した。9月23日に付近で調査中であった元総社首海遺跡群とあわせて現地説明会を開催した。また、9月26日に調査委員会を開催した。

81トレンチについては、その後遺構の記録を仕上げ、10月6日に埋め戻した。80トレンチ北半分についても遺構の記録が終了した後の10月6日に反転させ南半分の調査を開始した。80トレンチ南半分では、平安時代の竪穴建物跡の下層から柱穴列が検出された。80トレンチでは、この柱穴列の延伸を確認するためにトレンチの東側を拡張した。拡張作業は12月2日に79トレンチの反転作業と同時に実施した。拡張部分では柱穴は確認できず、80トレンチの調査は12月22日に全景写真を撮影し、12月26日に終了した。また、79トレンチ東半分においても南区画溝と考えられる古代の溝跡が検出された。79トレンチ東半分の調査は17日に調査区的全景を撮影し1月中で調査が終了した。

そして、78トレンチ、79トレンチ東半分及び80トレンチは1月30日に埋め戻し、調査は終了した。なお、78トレンチの埋め戻しの際は、礎石建物跡の掘込地業の上に川砂を入れ、遺構を保護してから埋め戻した。

Tab. 4 調査経過図

	トレンチ名称				備考
	78トレ	79トレ	80トレ	81トレ	
6月	掘削	掘削			
7月	掘削	掘削			
8月	掘削	掘削			
9月	掘削	掘削	掘削	掘削	現地説明会 調査委員会
10月	掘削	掘削	掘削	掘削	
11月	掘削	掘削	掘削	掘削	
12月	掘削	掘削	掘削	掘削	
1月	掘削	掘削	掘削	掘削	

- ◎ トレンチ掘削
- 埋め戻し
- ◆ 全景撮影
- 遺構確認・遺構掘り下げ
- 写真撮影・図面作成

4 基本層序

78・79トレンチは、元総社普海遺跡群（146）8区の南に隣接することから、基本層序はほぼ同様である。また、80・81トレンチは令和2年度に調査した74トレンチの東西に隣接することから、基本層序は同様である。以下に各トレンチの基本層序を示した。

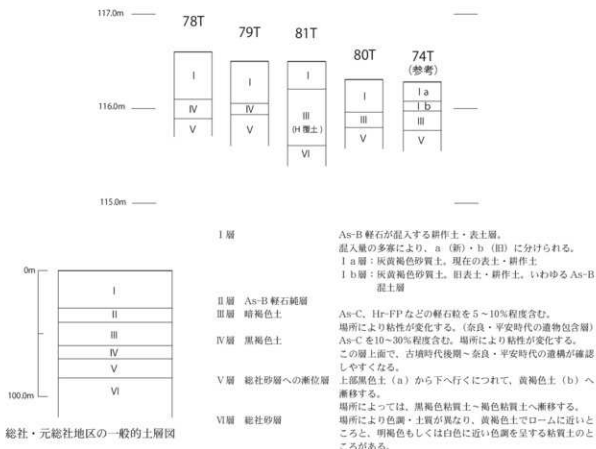


Fig. 5 各トレンチ土層柱状図

5 遺構と遺物

(1) 各トレンチの概要

以下に調査目的ごとにトレンチの概要について述べていく。

宮鍋神社周辺における国府関連遺構の確認調査

① 既出の礎石建物跡の範囲内容確認調査

78トレンチ (Fig. 7, PL.1)

78トレンチは宮鍋神社の南約100mに位置し、令和3年度に調査した元総社普海遺跡群（146）8区の南に位置する。78トレンチは元総社普海遺跡群（146）8区で検出された礎石建物跡の範囲確認を主目的として実施した。調査区は東西方向に長い台形を呈し、調査面積は63m²である。

検出された遺構は、当初の見込みのとおり礎石建物跡の布地業のほか、6世紀代の竪穴建物跡1軒、10世紀から11世紀にかけての竪穴建物跡9軒、溝跡1条、土壇墓1基、土坑2基、ピット1基である。

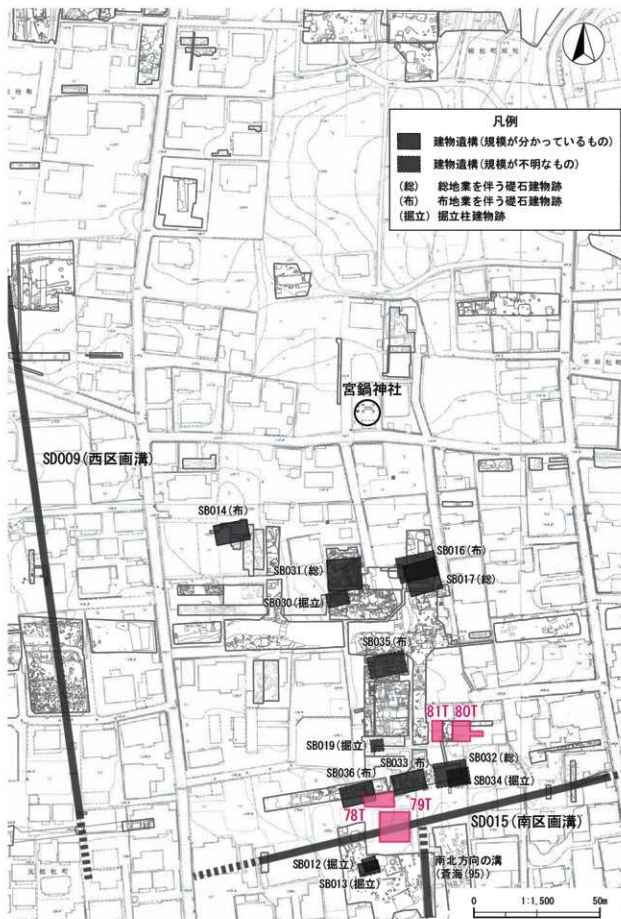
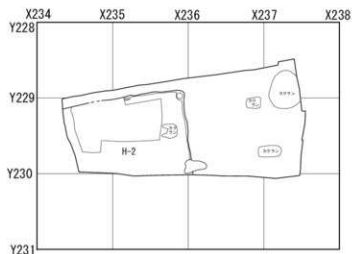


Fig. 6 各トレンチ詳細位置図

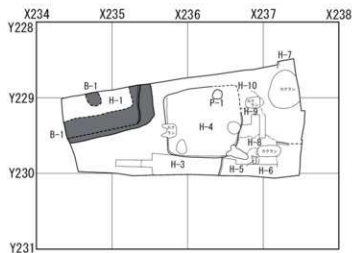
78トレンチ

(6世紀～7世紀代)



78トレンチ

(8世紀～11世紀代)



78トレンチ

(中世以降)

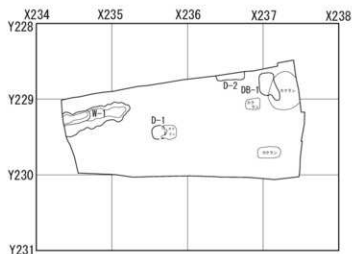
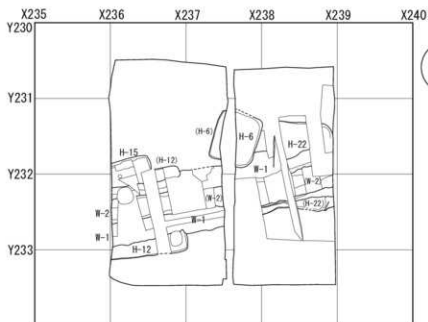
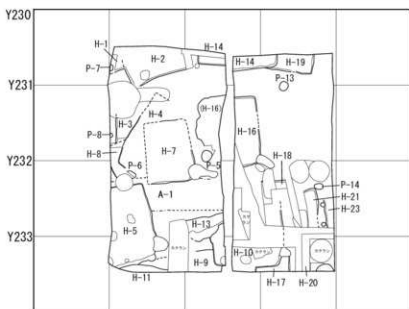


Fig. 7 78トレンチ全体図

79トレンチ
(6世紀～9世紀代)



79トレンチ
(10世紀～11世紀代)



79トレンチ
(中世以降)

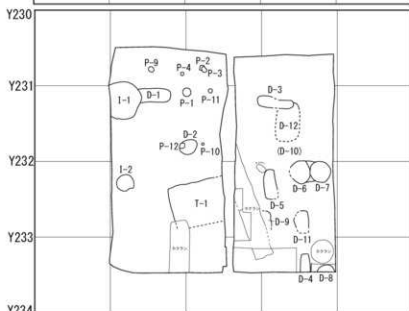
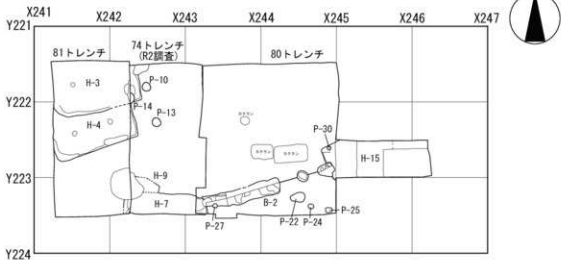
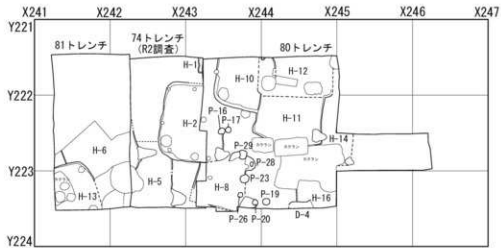


Fig. 8 79トレンチ全体図

80・81トレンチ (6世紀~9世紀代)



80・81トレンチ (10世紀~11世紀代)



80・81トレンチ (中世以降)

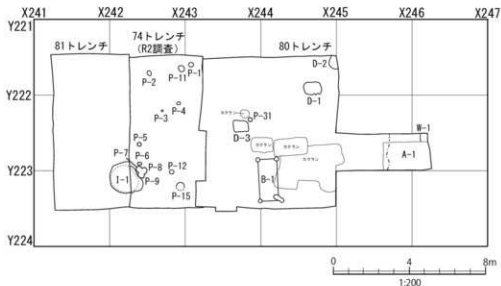


Fig. 9 80・81トレンチ全体図

②区画溝の範囲内容確認調査

79トレンチ (Fig. 8, PL. 3・4)

79トレンチは78トレンチの南に隣接する。このトレンチは存在が推定される「南区画溝」の範囲内容確認を目的として、東西12m、南北12mの正方形に調査区を設定したが、実際に調査した面積は131㎡である。調査にあたっては、排土の置き場等を考慮して調査区を東西に二分して、西側から先に発掘調査を実施した。

検出された遺構は、見込みどおり「南区画溝」に該当する古代の溝跡2条のほか、その上位で古代の道路跡1条が検出された。竪穴建物跡では、6世紀のものが4軒、10世紀から11世紀にかけてのものが19軒検出された。その他、近世以降の井戸跡2基、中世以降の土坑12基、古代から中世にかけてのピット14基が検出された。

③官衙関連遺構の確認調査

80・81トレンチ (Fig. 9, PL. 8)

80・81トレンチは、令和2年度に調査した74トレンチを挟み込むように設定した。80トレンチは74トレンチの東、81トレンチは74トレンチの西にそれぞれ隣接し、80トレンチは東西7m、南北8mの範囲を調査し、その後東側に長さ5m、幅2mの範囲を拡張し、最終的には69mの範囲を調査した。81トレンチは東西4m、南北8m、32mの範囲を調査した。

検出された遺構については、74トレンチの調査で検出された遺構の未調査部分のほか、新たに検出された遺構も含め、竪穴建物（可能性が考えられる遺構も含む）は6世紀のものが4軒、7世紀のものが1軒、10世紀から11世紀にかけてのものが11軒検出された。その他、古代・中世の土坑やピットのほか、蒼海城に関連すると考えられる中世の大溝とその上位に位置する硬化面（道路跡）、近世以降の井戸や掘立柱建物跡が検出されたほか、特筆される遺構として、古代の柱穴列（2号掘立柱建物跡）が検出された。この柱穴列は連続する2基の柱穴と布掘りで構成される。

(2) 各トレンチの検出遺構

以下に各トレンチにおいて検出された遺構に関して、トレンチの番号順に述べていきたい。

78トレンチ

(1) 礎石建物跡

1号礎石建物跡 (Fig.10, 巻頭図版1, PL. 1)

位置 X234・235、Y228・229グリッド。 **主軸方向** N-12°-W。 **形状等** 宮舘社付近で検出例が増えつつある所謂「枠形」の布地業で、元総社蒼海道跡群(146)8区の1号礎石建物跡と同一の建物跡である。78トレンチで検出されたのは所謂「枠形の掘込地業」のうちの南辺と東辺の一部と、側柱の内側に4条平行する布地業のうち一番東の布地業の南端が検出された。

「枠形の掘込地業」の南辺は1号竪穴建物や1号溝跡により上部が削られており、東辺は内側が1号竪穴建物により削られていたが、比較的上部まで残存していた。調査区内で検出された掘込地業の規模は東西4.85m、南北2.20mを測る。なお、東辺は78トレンチと蒼海道跡群(146)8区の間が側溝の敷設にともなう掘削により破壊されている。掘込地業の各辺は、東辺は最大幅1.15m、サブトレンチで確認した掘込地業の厚さ（深さ）は掘り方まで含めると65cm、南辺は最大幅1.25m、サブトレンチで確認した掘込地業の厚さ（深さ）は50cm。掘込地業各辺の版築はきれいな互層となっており、版築最下層から上位約10cmは非常に堅く締まっていた。南辺の掘り方の底面は平坦であったが、東辺の掘り方の底面は中央部分が二段になっており、底面付近には整地層と考えられるブロックが比較的多く締まりがやや強い層がみられた。なお、掘込地業の南東隅ではその上部で長軸30cm、短軸25cmの扁平な川原石が1点検出された。その北側の掘込地業を精査したところ、20cm程度の円形で土が比較

の軟らかい部分が5か所確認できたことから、これらは礎石の根石もしくはその痕跡と推定される。

内側の平行する布地業は、調査区内で検出された規模は長さ0.60m、幅0.70m。掘込地業は締まりがなかった。

重複関係 1号・2号竪穴建物跡、1号溝跡と重複する。2号竪穴建物跡よりも新しい。1号竪穴建物跡と1号溝跡よりも古い。**出土遺物** プラン確認時に土師器(坏・甕)破片、須恵器(甕)破片が出土し、掘込地業内からは土師器(坏・甕)破片、須恵器小片が出土した。**時期** 古代に属するが詳しい時期は不明。遺構との重複関係から8世紀から9世紀にかけて存在したと推定される。

(2) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡 (Fig.11, PL.1)

位置 X234・235、Y228・229グリッド。**主軸方向** 東壁は検出されたが南壁が判然としななためプランは明確ではないが、全体的なバランスからW-10°-N程度と推定される。**形状等** 方形。東西(4.40)m、南北(2.15)m、残存する壁高は東壁で最大24.5cm。**床面** 総社砂層への漸移層(基本層序V層)、1号礎石建物跡の掘込地業及び2号竪穴建物跡の覆土に構築された地山床。床面の硬化は多少認められたが顕著ではなかった。なお、調査区内において検出された範囲の東壁寄りで灰の分布が認められたほか、調査区北西寄りで床面の被熱スポット及び灰の分布が認められた。**カマド** 未検出。**出土遺物** 土師器(坏・甕)破片、須恵器(甕)破片、酸化焰焼成須恵器(椀・羽釜)破片、灰釉陶器(段皿・小瓶)破片、土師質土器(皿・坏)破片、瓦(平瓦)破片、磁石、円礫が出土。**重複関係** 1号溝跡、1号礎石建物跡、2号竪穴建物跡と重複する。1号溝跡よりも古い。1号礎石建物跡、2号竪穴建物跡よりも新しい。**時期** 11世紀前半と推定される。**その他** 検出位置から、元総社普海遺跡群(146)8区の10号竪穴建物跡と同一の竪穴建物と考えられる。

2号竪穴建物跡 (Fig.11, PL.2)

位置 X234~236、Y228・229グリッド。**主軸方向** N-82°-E。**形状等** 方形。西壁及び南壁は調査区外。東西(6.40)m、南北(4.60)m、残存する壁高は最大32cm。**床面** 総社砂層(基本層序VI層)に構築された貼床。床面はカマド前面から中央にかけて比較的硬化していた。**ピット** 竪穴建物北東付近でピットが1基検出された。計測値等はTab.5のとおり。その他、北東隅の壁付近にピット状の窪みが認められたが、ピットと認定しなかった。長軸55.0cm、短軸45.0cm、床面からの深さ9.5cm。**カマド** 東壁に構築されていた。主軸方向はN-82°-E、全長1.50cm、最大幅(80cm)を測る。両袖に粘土が認められた。**出土遺物** 土師器(坏・高坏・甕)破片、須恵器(甕)破片、灰釉陶器小片が出土。**重複関係** 1号溝跡、1号礎石建物跡、1号竪穴建物跡、1号土坑と重複する。本遺構が一番古い。**時期** 6世紀後半と推定される。

3号竪穴建物跡 (Fig.12, PL.2)

位置 X235・236、Y229グリッド。**主軸方向** 検出された東壁からN-82°-Eと推定される。**形状等** 東壁の一部を検出したのみで遺構の形状を明確に把握できなかったが、方形と推定される。検出された竪穴面の範囲は東西4.2m、南北1.0m以上、残存する壁高は最大20cm。**床面** 総社砂層漸移層(基本層序V層)に構築された地山床及び2号竪穴建物跡の覆土に構築された貼床。竪穴面が検出された。**カマド** 調査区内では検出できなかった。調査区外南側に存在すると推定される。**出土遺物** 土師器(坏・甕)破片、須恵器(甕・転用碗)破片、黒色土器(椀)、酸化焰焼成須恵器(坏・椀・羽釜)破片、土師質土器(皿・坏)破片、瓦(軒丸瓦、軒平瓦、平瓦)破片、円礫が出土。**重複関係** 2号・4号・6号竪穴建物跡と重複する。4号・6号竪穴建物跡よりも古い。2号竪穴建物跡よりも新しい。**時期** 10世紀後半と推定される。**その他** 本遺構の検出された位置から、79トレンチ1号竪穴建物跡との同一性が考えられるが、遺構の主軸方向や床面の高さから推測すると、同一の竪穴建物とは認めがたい。

4号竪穴建物跡 (Fig.12, PL.2)

位置 X235・236、Y228・229グリッド。**主軸方向** N-90°-E。**形状等** 形状は若干歪むが方形。東

西4.20m、南北3.80m、残存する壁高は最大36.5cm。床面 総社砂層面（基本層序VI層）に構築された地山床及び2号竪穴建物の覆土に構築された貼床。堅緻面が認められた。ピット プラン南西隅でピットが1基（P₁）検出された。その他、東壁カマド北側付近でピットが1基（P₂）検出された。計測値等はTab.5のとおり。P₂底面に灰の分布が認められた。また、P₂は検出位置的に本遺構に伴わない可能性も考えられる。カマド 竪穴建物南東隅で検出された。主軸方向はN-114°-E、全長145cm、最大幅60cmを測る。焼土の堆積及び構築材の礫が認められた。出土遺物 土師器（甕）破片、須恵器（甕）破片、酸化焙焼成須恵器（椀・羽釜）破片、土師質土器（皿・坏）破片、灰陶陶器（皿・小瓶・長頸瓶）破片、埴輪（円筒埴輪？）破片、瓦（平瓦・丸瓦）破片、軟質土器破片、陶器破片が出土。重複関係 2号・3号・5号・6号・8号・9号・10号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番新しい。時期 11世紀前半と推定される。

5号竪穴建物跡 (Fig.13, PL.2)

位置 X236、Y229グリッド。主軸方向・形状等 8号竪穴建物跡の調査中、礫と焼土の分布が認められた。カマドと認定し付属する竪穴建物の検出に努めたが、そのプランを明確に確認することはできなかった。カマド カマドの可能性が考えられる礫と焼土の堆積が認められた。焼土の堆積は南北軸を取る楕円形で、南北44cm、東西20cm、厚さ15cmの範囲に認められた。礫は握り拳大で4個程度が不規則な位置で検出された。出土遺物 土師質土器（皿）が出土。重複関係 位置的には4号・6号・8号竪穴建物跡と重複する。6号・8号竪穴建物跡よりも上層で検出されていることから、新旧関係としては新しいことが考えられる。同様に遺構の切り合い状況から4号竪穴建物跡よりも古いことが考えられる。時期 11世紀代か。その他 8号・9号竪穴建物跡のカマドの残骸の可能性も考えられる。

6号竪穴建物跡 (Fig.13, PL.2)

位置 X236・237、Y229・230グリッド。主軸方向 N-97°-E。形状等 方形。プランの北西隅を中心とした部分を検出。東西(4.10)m、南北(2.10)m、残存する壁高は最大17.5cm。床面 総社砂層面（基本層序VI層）に構築された地山床。堅緻面は認められなかった。カマド 調査区内では確認できなかった。出土遺物 須恵器（瓶？・甕）破片、酸化焙焼成須恵器（椀・羽釜）破片、灰陶陶器（椀）、土師質土器（皿・鉢？）破片、焼けた礫片が出土。重複関係 3号・4号・5号・8号竪穴建物跡と重複する。4号・5号・8号竪穴建物跡よりも古い。3号竪穴建物跡よりも新しい。時期 11世紀代と推定される。その他 本遺構の検出された位置の南では、79トレンチ2号・14号竪穴建物跡が検出されている。それぞれ別の竪穴建物と推定される。

7号竪穴建物跡 (Fig.13, PL.2)

位置 X237、Y228グリッド。主軸方向・形状等 竪穴建物の西壁の一部が検出されたのみで全体は不明であるが、形状は方形と推定される。主軸方向は検出された西壁からN-90°-Eと推定される。残存する範囲は東西(0.90)m、南北(0.90)m、残存する壁高は最大31cm。床面 総社砂層漸移層（基本層序V層）に構築された地山床。堅緻面が認められた。カマド 調査区内では認められなかった。出土遺物 須恵器（甕）破片、酸化焙焼成須恵器（羽釜）破片、砥石が出土。重複関係 なし。時期 10世紀後半と推定される。

8号竪穴建物跡 (Fig.13, PL.3)

位置 X236・237、Y229グリッド。主軸方向・形状等 堅緻面のみを検出で、遺構のプランは不明。確認された堅緻面の範囲は、東西2.15m、南北1.60m。床面 総社砂層漸移層（基本層序V層）及び6号竪穴建物跡の覆土に構築された地山床。堅緻面が認められた。カマド 未検出。出土遺物 土師質土器（皿）、瓦（平瓦）破片。瓦は表面の状態からカマドの構築材と推定される。重複関係 4号・5号・6号・9号竪穴建物跡と重複する。4号・5号竪穴建物跡よりも古い。6号竪穴建物跡よりも新しい。9号竪穴建物跡との新旧関係は不明瞭。時期 11世紀前半代と推定される。その他 5号・9号竪穴建物跡と同一の遺構である可能性もある。

9号竪穴建物跡 (Fig.13, PL.3)

位置 X236, Y229グリッド。**主軸方向・形状等** 堅緻面のみを検出で、遺構のプランは不明。確認された堅緻面の範囲は、東西1.25m、南北2.05m。**床面** 総社砂層漸移層（基本層序V層）に構築された地山床。堅緻面が認められた。**カマド** 未検出。**出土遺物** 土師器（坏）破片、須恵器（甕）破片、酸化焰焼成須恵器（羽釜？）破片、土師質土器（皿）破片、瓦（平瓦）破片が出土。**重複関係** 4号・8号・9号・10号竪穴建物跡と重複する。4号・10号竪穴建物跡よりも古い。8号竪穴建物跡との新旧関係は不明瞭。**時期** 11世紀前半代と推定される。**その他** 5号・8号竪穴建物跡と同一の遺構である可能性もある。

10号竪穴建物跡 (Fig.13, PL.3)

位置 X236, Y228・229グリッド。**主軸方向・形状等** カマドの一部が検出されたのみで、遺構のプランは不明。**カマド** 攪乱により煙道の先端部が検出されたのみで全体の規模は不明。主軸方向はN-137°-E。**出土遺物** 須恵器（甕）破片が出土。**重複関係** 4号竪穴建物跡、2号土坑と重複する。2号土坑よりも古い。4号竪穴建物跡との新旧関係は本遺構が古いと考えられるが判然としない。**時期** 判然としないが11世紀代と推定される。

(3) 溝跡

1号溝跡 (Fig.11, PL.1)

位置 X234・235, Y228・229グリッド。**主軸方向** N-80°-E。**形状等** 落ち込み状であったが、東西方向に長いことから溝跡とした。遺構の西端は調査区外へと続く。断面形状は浅いU字状。長さ3.6m、最大上幅(1.34)m、最大下幅(0.50)m、深さ29.5cm。**出土遺物** 土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕・提瓶？）破片、酸化焰焼成須恵器（椀・鉢・羽釜）破片、土師質土器（坏）破片、鉄滓が出土。**重複関係** 1号礎石建物跡、1号・2号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番新しい。**時期** 中世。

(4) 土坑、土坑墓、ピット (Fig.11・13, PL.3)

土坑が2基、土坑墓が1基、ピットが1基検出された。各遺構の規模等については計測表 (Tab.5) に記載した。

79トレンチ

(1) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡 (Fig.14, PL.4)

位置 X236, Y230グリッド。**主軸方向** N-69°-E。**形状等** 南壁の一部と堅緻面が確認されたことから竪穴建物跡と認定した。その場合、調査区北及び西側へと遺構は続いている。遺構の形状は方形と推定される。調査区内で確認できた規模は東西(1.15)m、南北(1.25)m、残存する壁高は最大3.5cm。**床面** 総社砂層漸移層（基本層序V層）に構築された地山床。堅緻面が検出された。**カマド** 未検出。**出土遺物** 土師器（坏）破片、酸化焰焼成須恵器（椀・羽釜）破片、土師質土器（皿）破片。**重複関係** 2号竪穴建物跡と重複する。新旧関係は判然としない。**時期** 判然としないが10世紀代と推定される。**その他** 本遺構の検出された位置から、78トレンチ3号竪穴建物跡との同一性が考えられるが、遺構の主軸方向や床面の高さから判断すると、同一の竪穴建物跡とは認めがたい。

2号竪穴建物跡 (Fig.14, PL.4)

位置 X236・237, Y230グリッド。**主軸方向** N-67°-E。**形状等** 西壁と南壁の一部を検出。方形と推定される。東西[3.80]m、南北(2.50)m、残存する壁高は最大9cm。**床面** 総社砂層漸移層（基本層序V層）に構築された地山床。硬化面が確認された。P₁の北で被熱スポットと灰の分布が認められた。また床面のやや上位でも広範囲に亘る灰の分布が認められた。**ピット等** 南西隅で1点検出。規模等はTab.5に記した。

カマド 未検出。 **出土遺物** 須恵器(甕・転用硯)破片、酸化焰焼成須恵器(椀)破片、土師質土器(皿・土釜?)破片、灰軸陶器(椀・器種不明・転用円盤)破片、瓦(丸瓦)破片、砥石が出土。 **重複関係** 1号・14号竪穴建物跡と重複する。14号竪穴建物跡よりも古いと推定される。1号竪穴建物跡との新旧関係は判然としない。 **時期** 11世紀前半と推定される。 **その他** 本遺構の検出された位置の北では、78トレンチ6号竪穴建物跡が検出されている。それぞれ別の竪穴建物と推定される。

3号竪穴建物跡 (Fig.14, PL.4)

位置 X236, Y231グリッド。 **主軸方向** N-90°-E。 **形状等** 西壁が検出されたのみであるが方形と推定される。東西(1.88)m、南北(2.20)m、残存する壁高は最大16cm。 **床面** 総社砂層漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。堅緻面が認められた。 **カマド** 未検出。他の遺構により破壊されたと推定される。 **出土遺物** 土師器(甕)破片、須恵器(甕)破片、酸化焰焼成須恵器(椀)破片が出土。 **重複関係** 4号・8号竪穴建物跡、1号井戸跡、1号土坑と重複する。本遺構が一番古い。 **時期** 10世紀代と推定される。

4号竪穴建物跡 (Fig.14, PL.4)

位置 X236, Y231・232グリッド。 **主軸方向** N-34°-E。 **形状等** 方形。東西2.50m、南北4.30m、残存する壁高は最大5cm。 **床面** 総社砂層漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。堅緻面が確認された。 **カマド** 未検出。他の遺構により破壊されたと推定される。 **出土遺物** 須恵器(甕)破片、酸化焰焼成須恵器(椀・羽釜)破片、黒色土器(椀・鉢?)破片、土師質土器(皿)破片、銅製品(椀?)破片、土製品(土器片転用円盤(碁石か))、瓦(平瓦)破片、羽目破片が出土。 **重複関係** 3号・7号・8号・12号・15号竪穴建物跡、1号土坑、1号溝跡、1号道路跡と重複する。3号・8号・12号・15号竪穴建物跡、1号溝跡、1号道路跡よりも新しい。7号竪穴建物跡、1号土坑より古い。 **時期** 11世紀前半と推定される。

5号竪穴建物跡 (Fig.15, PL.4・5)

位置 X236, Y232・233グリッド。 **主軸方向** N-77°-E。 **形状等** 方形。プランは調査区西側へ続く。東西(2.83)m、南北4.20m、壁高は最大35cm(壁高は西側壁面で計測)。 **床面** 総社砂層面(基本層序VI層)、1号溝跡覆土及び1号道路跡に構築された地山床。堅緻面が確認できた。なお、プラン中央部やや西とカマドの西約1m付近で被熱スポットを検出した。規模等は計測表(Tab.5)に記載。 **ビット等** 6基検出された。規模等はTab.5のとおり。このうちP₃はビット内に礎が検出された。P₄は覆土中に灰が多量に堆積し、東には床の被熱スポットが隣接している。P₅は覆土に砂層ブロックを多く含み堅く締まっていたことから床下土坑と考えられる。 **壁周溝** 南壁及び北壁で検出された。(北壁は断面で検出。)最大上幅20cm、最大下幅8cm、深さ10cm(深さは西側壁面で計測)。 **カマド** 竪穴建物プラン南東隅に構築されていた。主軸方向はN-90°-E、全長75cm、最大幅75cmを測る。カマド右側に構築材の痕跡と考えられる小ビットを検出。焚口前面に灰の分布が認められた。 **出土遺物** 土師器(坏・甕)破片、須恵器(皿・甕)破片、瓦(丸瓦・平瓦)破片、酸化焰焼成須恵器(椀・羽釜)破片、灰軸陶器(椀・瓶)破片、土師質土器(坏・土釜)破片。 **重複関係** 9号・11号・12号・15号竪穴建物跡、1号・2号溝跡、1号道路跡、2号井戸跡と重複する。2号井戸跡よりも古い。他の遺構とでは本遺構が新しい。 **時期** 11世紀前半と推定される。

6号竪穴建物跡 (Fig.16, PL.5)

位置 X237, Y231グリッド。 **主軸方向** N-18°-E。 **形状等** 方形。東西2.36m、南北2.92m、残存する壁高は最大32cm。 **床面** 総社砂層面(基本層序VI層)に構築された地山床。 **カマド** 北壁北西隅付近に構築されていたと推定される。カマドは調査区中央ベルト内のため規模等は不明。 **出土遺物** 土師器(坏・甕)破片、須恵器(蓋)破片が出土。 **重複関係** 16号竪穴建物跡、1号溝跡と重複する。本遺構が一番古い。 **時期** 7世紀前半と推定される。

7号竪穴建物跡 (Fig.14・15, PL.4・5)

位置 X236・237, Y231・232グリッド。 **主軸方向** N-85°-E。 **形状等** 判然としない点もあるが下底を西に向けた台形と推定される。東西2.67m、南北3.30m、残存する壁高は最大7.5cm。 **床面** 総社砂層漸移層（基本層序V層）に構築された地山床。南壁及びカマド付近は1号道路跡及び1号溝跡覆土上に構築された地山床。プラン東半分で堅緻面が確認できた。また、西壁中央部で灰の分布が認められた。 **壁周溝** 南壁で検出されたほか、北壁の東隅及び東壁のカマド寄りでそれと推定される遺構を検出。南壁の壁周溝は最大上幅25cm、最大下幅10cm、深さ10cm。 **カマド** 竪穴建物プラン南東隅に構築されていた。カマドの主軸方向はN-102°-E、全長(1.45)cm、最大幅90cmを測る。両袖に構築材の礎が検出された。焚口付近に燃焼により堅く締まったスポットが認められた。また、焚口の手前で灰の分布が認められた。 **出土遺物** 石器(剥片)、須恵器(蓋・坏)破片、酸化焰焼成須恵器(椀・羽釜)破片、土師質土器(皿・坏・鉢・土釜)破片、灰輪陶器(皿)、鉄製品(不明)破片。 **重複関係** 4号・12号・15号竪穴建物跡、1号・2号溝跡、1号道路跡と重複する。本遺構が一番新しい。 **時期** 11世紀後半と推定される。

8号竪穴建物跡 (Fig.14, PL.4)

位置 X236, Y231・232グリッド。 **主軸方向** N-25°-W。 **形状等** プランの北西隅部分と推定される遺構を検出。方形と推定される。東西(1.35)m、南北(1.70)m、残存する壁高は最大7cm。 **床面** 総社砂層漸移層（基本層序V層）及び15号竪穴建物跡の覆土に構築された地山床。堅緻面が検出された。 **カマド** 未検出。他の遺構により破壊されたと推定される。 **出土遺物** 縄文土器(前期、深鉢)、土師器(坏)破片、須恵器(坏)破片、酸化焰焼成須恵器(羽釜)破片、土師質土器(皿)破片、瓦(平瓦・丸瓦)破片が出土。 **重複関係** 3号・4号・7号・15号竪穴建物跡、1号溝跡、1号道路跡、2号井戸跡、6号ピットと重複する。3号・15号竪穴建物跡、1号溝跡、1号道路跡よりも新しい。それ以外の遺構よりも古い。 **時期** 10世紀前半と推定される。

9号竪穴建物跡 (Fig.16, PL.5)

位置 X236・237, Y233グリッド。 **主軸方向** N-79°-E。 **形状等** 堅緻面及び総社砂層への漸移層への掘方が確認されたのみであるが、その検出状況から方形と推定される。東西(3.24)m、南北(1.32)m。 **床面** 総社砂層漸移層（基本層序V層）に構築された貼床。堅緻面が確認できた。 **カマド** 未検出。調査区外と推定される。 **出土遺物** 土師質土器(皿)破片。 **重複関係** 10号・11号・17号竪穴建物跡と重複する。10号竪穴建物跡よりも古い。11号・17号竪穴建物跡よりも新しい。 **時期** 11世紀代と推定される。 **その他** 10号竪穴建物跡の南辺で、10号竪穴建物跡に属すると考えにくい壁・床面が検出された。その位置関係から本遺構である可能性が考えられるが、その場合、本遺構の規模は東西(5.04)mとなる。

10号竪穴建物跡 (Fig.17, PL.5)

位置 X237・238, Y232・233グリッド。 **主軸方向** N-88°-E。 **形状等** 方形。東西3.80m、南北(4.30)m、残存する壁高は最大14.5cm。 **床面** 総社砂層漸移層（基本層序V層）に構築された貼床。堅緻面が確認できた。 **ピット等** プラン南西隅付近及び南壁中央付近でそれぞれ1基検出。その他に西壁寄りで2基検出。合計4基検出された。規模等は計測表(Tab.5)に記載。 **カマド** 竪穴建物プラン南東隅寄りの東壁に構築されていた。主軸方向はN-109°-E、全長(60)cm、最大幅[60]cmを測る。 **出土遺物** 石器(石核)、酸化焰焼成須恵器(坏・椀・羽釜)破片、須恵器(甕)、瓦(平瓦)破片、黒色土器(椀)破片、土師質土器(皿・椀・土釜)破片、軟質土器破片。 **重複関係** 9号・13号・17号・18号・21号竪穴建物跡、1号・2号溝跡、1号道路跡、1号竪穴状遺構と重複する。1号竪穴状遺構より古い。その他の遺構よりも新しい。 **時期** 11世紀前半と推定される。 **その他** 南壁中央付近の壁が検出できず、竪穴建物のプランを逸脱して床面が検出された。検出状況から本遺構の突出部と考えるよりも、他の竪穴建物と推定され、その位置関係から9号竪穴建物跡

との関連性が指摘できる。

11号竪穴建物跡 (Fig.16, PL.5)

位置 X236, Y232グリッド。**主軸方向** N-100°-E。**形状等** 床面及び北壁の壁周溝のみの検出。方形と推定される。東西(2.60)m、南北(0.48)m、壁高は不明。**床面** 総社砂層(基本層序VI層)に構築された地山床。**壁周溝** 北壁で検出。最大上幅15cm、最大下幅5cm、深さ15.5cm。**カマド** 未検出。調査区外と推定される。**出土遺物** 土師器(甕)破片、須恵器(転用硯)、土師質土器(皿)破片が出土。**重複関係** 5号・9号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番古い。**時期** 10世紀代か。

12号竪穴建物跡 (Fig.17)

位置 X236, Y232・233グリッド。**主軸方向** N-83°-E。**形状等** 方形。東西[3.92]m、南北(1.20)m、壁高は最大36cm。**床面** 総社砂層(基本層序VI層)に構築された地山床及び貼床。**壁周溝** 南壁の一部で検出。最大上幅18cm、最大下幅5cm、深さ12.5cm。**ピット等** ブラン南東隅付近で1基、それよりやや中央寄り1基検出。規模等は計測表(Tab.5)に記載。**カマド** 東壁中央付近に存在したと推定されるが、1号・2号溝跡により破壊されているため不明。**出土遺物** 土師器(坏・甕・小甕)破片、菰石が出土。**重複関係** 4号・5号・7号・15号竪穴建物跡、1号・2号溝跡、1号道路跡、1号竪穴状遺構と重複。本遺構が一番古い。**時期** 6世紀後半と推定される。

13号竪穴建物跡 (Fig.17)

位置 X236・237, Y232・233グリッド。**主軸方向・形状等** 1号溝跡の南側法面で竪穴建物状の平坦面を検出したため、竪穴建物跡としたもの。形状は判然としなない。1号溝跡の法面である可能性もある。平坦面は東西(2.00)m、南北(0.60)m、高さ24cm。**床面** 総社砂層漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。**出土遺物** 土師器(坏)、須恵器(甕)破片が出土。**重複関係** 1号・2号溝跡、10号竪穴建物跡、1号竪穴状遺構と重複する。10号竪穴建物跡、1号竪穴状遺構よりも古い。1号・2号溝跡との新旧関係は明瞭ではないが、両溝跡よりも新しいか。**時期** 古代(詳細不明)。

14号竪穴建物跡 (Fig.18, PL.6)

位置 X237・238, Y230グリッド。**主軸方向・形状等** 調査区中央のベルトを挟んで南壁の位置が若干異なるため、主軸方向が判然としなないが、概ねN-90°-Eに主軸を取る方形のプランと考えられる。検出した状態から、その規模は東西(4.20)m、南北(1.04)m、壁高は最大30cm。**床面** 総社砂層(基本層序VI層)に構築された地山床。**カマド** ブラン南東隅付近の床面に灰の分布が認められたが、カマドは未検出。**出土遺物** 土師器(坏)破片、須恵器(甕)破片、酸化焙焼成須恵器(椀・羽釜)破片、土師質土器(皿・椀)破片、瓦(丸瓦・平瓦)破片、鉄滓が出土。**重複関係** 19号竪穴建物跡と重複する。本遺構が新しいと考えられる。2号竪穴建物跡については、本遺構が新しいか。**時期** 11世紀前半と推定される。

15号竪穴建物跡 (Fig.17, PL.6)

位置 X236, Y231・232グリッド。**主軸方向** N-74°-E。**形状等** 方形。東西(2.32)m、南北(1.50)m、壁高は最大43.5cm。**床面** 総社砂層(基本層序VI層)に構築された地山床。堅緻面が認められた。**ピット等** 1基検出。規模等は計測表(Tab.5)に記載。**出土遺物** 土師器(坏・甕)破片が出土。**重複関係** 4号・7号・8号・12号竪穴建物跡、1号・2号溝跡、1号道路跡と重複する。12号竪穴建物跡よりも新しい。それ以外の遺構よりも古い。**時期** 6世紀末と推定される。

16号竪穴建物跡 (Fig.16, PL.6)

位置 X237・238, Y231・232グリッド。**主軸方向** N-86°-E。**形状等** 方形。ただし調査区中央ベルト以西のプランは判然としななかった。東西[3.20]m、南北(3.78)m、壁高は最大36cm。**床面** 6号竪穴建物跡の覆土及び総社砂層漸移層(基本層序V層)に構築された貼床。堅緻面が確認できた。**カマド** ブラン南東

隅に構築されていた。主軸方向はN-119°-E、全長102cm、最大幅48cmを測る。前面北側で灰の分布が検出された。**出土遺物** 須恵器(甕)破片、土師質土器(皿・杯・椀・甕?)破片、瓦(平瓦)破片、鉄製品(不明。釘?)が出土。**重複関係** 6号竪穴建物跡、1号溝跡、1号道路跡と重複する。本遺構が一番新しい。**時期** 11世紀前半と推定される。**その他** 5号ピット及びその北側で検出された堅緻面は、その位置から本遺構に属する可能性が考えられる。

17号竪穴建物跡 (Fig.18)

位置 X237・238、Y233グリッド。**主軸方向・形状等** 重複する竪穴建物により壊された床面の一部が検出されたもの。壁が確認できなかったため主軸方向は不明。確認できた床面の範囲は東西(1.80)m、南北(0.80)m。**床面** 総社砂層漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。堅緻面が確認された。**出土遺物** 須恵器(甕)破片、酸火焙焼成須恵器(坏)破片が出土。**重複関係** 9号・10号・20号竪穴建物跡と重複する。重複関係から本遺構が一番古い。**時期** 10世紀代か。

18号竪穴建物跡 (Fig.18, PL.6)

位置 X237・238、Y232・233グリッド。**主軸方向** 判然としながN-90°-E程度。**形状等** 北壁と考えられる立ち上がり確認できたが、他の壁は判然としなかった。そのため詳細なプランは不明であるが、床面と考えられる面の検出された範囲から、少なくとも東西・南北ともに約3.5m四方の規模はあったものと推定される。残存する壁の高さは最大18cm。**床面** 1号溝跡、21・23号竪穴建物跡覆土及び総社砂層漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。堅緻面が確認できた。**カマド** 未検出。調査区外か。**出土遺物** 須恵器(坏・甕・転用甕)破片、酸火焙焼成須恵器(椀・羽釜)破片、黒色土器(椀)破片、土師質土器(坏・土釜)破片、灰軸陶器(椀・瓶)破片、瓦(平瓦)破片、砥石が出土。**重複関係** 21号・22号・23号竪穴建物跡、1号・2号溝跡、1号道路跡、3号・6号・7号・9号・11号土坑、14号ピットと重複する。21号・22号・23号竪穴建物跡、1号・2号溝跡、1号道路跡、14号ピットよりも新しい。3号・6号・7号・9号・11号土坑よりも古い。**時期** 11世紀前半と推定される。

19号竪穴建物跡 (Fig.18, PL.6)

位置 X238、Y230グリッド。**主軸方向** N-97°-E。**形状等** 方形。東西(2.56)m、南北(1.10)m、壁高は最大26cm。**床面** 総社砂層漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。**カマド** 未検出。**出土遺物** 酸火焙焼成須恵器(坏・羽釜)破片、土師質土器(皿・杯)破片、瓦(平瓦)破片、軟質土器破片、鉄製品(不明)が出土。**重複関係** 14号竪穴建物跡と重複する。本遺構が古い。**時期** 10世紀後半と推定される。

20号竪穴建物跡 (Fig.18, PL.7)

位置 X238、Y233グリッド。**主軸方向** 判然としながN-90°-E程度。**形状等** 西壁が検出されたが、それ以外の壁は検出されていない。検出された壁の状況からプランは方形と推定される。東西(2.40)m、南北(1.50)m、壁高は最大8cm。**床面** 総社砂層漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。一部で堅緻面が検出された。**カマド** 未検出。調査区外か。**出土遺物** 須恵器(転用甕)破片及び小片、酸火焙焼成須恵器(坏・椀・羽釜)破片、土師質土器(坏)破片、灰軸陶器小片、黒色土器(椀)破片、瓦(平瓦)破片が出土。**重複関係** 10号・17号・18号・21号・23号竪穴建物跡、4号・8号・11号土坑と重複する。17号竪穴建物跡よりも新しい。10号竪穴建物跡、4号・8号・11号土坑よりも古い。21号・23号竪穴建物との新旧関係は判然としなが、本遺構が新しいと推定される。なお、18号竪穴建物跡との新旧関係は不明。**時期** 10世紀後半と推定される。

21号竪穴建物跡 (Fig.18, PL.6)

位置 X238、Y232グリッド。**主軸方向** N-78°-E。**形状等** 方形と推定される。北東隅と考えられる立ち上がり確認できた。確認できた範囲は東西[4.80]m、南北(2.10)m、壁高は最大5cm。**床面** 総社砂

層漸移層（基本層序V層）に構築された地山床。カマド 未検出。出土遺物 土師器（小甕？）破片、須恵器（甕）破片、酸化焰焼成須恵器（坏）破片、土師質土器（皿・羽釜？）破片、黒色土器（椀）破片が出土。重複関係 10号・18号・20号竪穴建物跡、11号土坑と重複する。本遺構が一番古い。時期 10世紀前半と推定される。

22号竪穴建物跡 (Fig.19, PL, 7)

位置 X238, Y231・232グリッド。主軸方向 N-3°-E。形状等 方形。東西3.14m、南北4.60m、壁高は最大36cm。床面 総土砂層（基本層序VI層）に構築された貼床。床面の硬化は認められなかった。カマド 東壁に構築されていたと推定されるが、1号・2号溝跡により破壊されたと考えられ不明。出土遺物 土師器（坏・小甕・甕）破片、須恵器（蓋・甕）破片が出土。重複関係 18号・21号竪穴建物跡、1号・2号溝跡、1号道路跡、5号・6号・7号・10号・12号土坑と重複する。本遺構が一番古い。時期 6世紀後半と考えられる。

23号竪穴建物跡 (Fig.18, PL, 7)

位置 X238, Y232グリッド。主軸方向 N-8°-W。形状等 西壁と考えられる立ち上がりを検出。それ以外のプランは判然としない。確認できた範囲は東西(0.60)m、南北(2.00)m、壁高は最大10cm。床面 総土砂層漸移層（基本層序V層）に構築された地山床。ピット等 本遺構に伴う可能性のあるピットが西壁沿いに2基確認された。規模等は計測表 (Tab.5) に記載。カマド 未検出。調査区外か。出土遺物 土師器（坏）破片、酸化焰焼成須恵器（坏・椀）破片、土師質土器（皿・坏）破片、灰軸陶器（椀）破片、礫が出土。重複関係 18号竪穴建物跡と重複する。本遺構が古い。20号竪穴建物跡との新旧関係は判然としないが、本遺構が古いと推定される。時期 10世紀前半と推定される。

(2) 溝跡

1号溝跡 (Fig.20・21・22, 巻頭図版2・3・4, PL, 7)

位置 X236~238, Y231・232グリッド。本年度の調査では79トレンチを南西方向から北東方向へ抜けて検出されている。本遺構は元総社普海遺跡群 (95) 2号溝跡、平成28年度上野国府等範囲内確認調査47トレンチ2号溝跡及び令和元年度調査68トレンチ1号溝跡と同一の遺構である。主軸方向 E-13°-N。形状等 調査区内で検出された長さは約12m。断面は逆台形を呈し、最大上幅3.92m、最大下幅2.80m、深さ1.0m（西壁断面参考）。底面において2号溝跡が検出されたが、2号溝跡の覆土上位から本遺構底面にかけて土の締まりが強かった。重複関係 4号・5号・6号・7号・8号・10号・12号・13号・15号・16号・18号・21号・23号竪穴建物跡、2号溝跡、1号道路跡、2号井戸跡、3号・6号・7号・10号・12号土坑、5号・6号・14号ピット、1号竪穴建物跡と重複する。6号・12号・15号・22号竪穴建物跡、2号溝跡よりも新しい。その他の遺構よりも古い。出土遺物 石器（剥片）、土師器（坏・甕）破片、暗文を有する土師器（坏）破片、須恵器（蓋・坏・高坏・甕・円面碗・転用碗）破片、酸化焰焼成須恵器（坏・椀）破片、黒色土器（椀）破片、土師質土器（坏）破片、灰軸陶器（不明）破片、瓦（丸瓦・平瓦）破片、鉄製品（刀・刀子・釘？）破片、鉄滓、羽口破片、菰石状の礫が出土。時期 古代。掘削の時期は不明（8世紀代か）であるが、10世紀代には埋没していたと考えられる。

2号溝跡 (Fig.20・21・22, 巻頭図版2・3)

位置 X236~238, Y231・232グリッド。本年度の調査では79トレンチを南西方向から北東方向へ抜けて検出されている。本遺構は元総社普海遺跡群 (95) 3号溝跡、平成28年度上野国府等範囲内確認調査47トレンチ3号溝跡及び令和元年度調査67トレンチ1号溝跡と同一の遺構である。主軸方向 E-13°-N。形状等 本遺構は1号溝跡の底面で検出された。調査区内ではサブトレンチにより部分的に検出したが、調査区内で検出された長さは1号溝跡と同一で約12m。断面は逆台形を呈す。1号溝跡の掘削により壊されており、底面付近のみ

残存している。残存する部分の遺構の規模は最大上幅1.20m、最大下幅0.94m、深さ26cm。 **重複関係** 4号・5号・6号・7号・8号・10号・12号・13号・15号・16号・18号・21号・23号竪穴建物跡、1号溝跡、1号道路跡、2号井戸跡、3号・6号・7号・10号・12号土坑、5号・6号・14号ピット、1号竪穴建物跡と重複する。6号・12号・15号・22号竪穴建物跡よりも新しい。その他の遺構よりも古い。 **出土遺物** 土師器（坏）破片が出土。 **時期** 古代。掘削の時期は不明（8世紀代）。

(3) 道路跡

1号道路跡 (Fig.21、巻頭版4)

位置 X236・237、Y232グリッド。 **主軸方向** 硬化面が面的に検出された部分は概ねE—10°—N。1号及び2号溝跡と主軸方向は同様と考えられる。 **形状等** 1号溝跡覆土の上面が非常に硬く締まり、その断面では鉄分の沈着も確認できた。重複する本遺構よりも新しい遺構によって壊されている部分も多かったが、硬化面は带状に認められたことから道路跡と認定した。この硬化面は1号溝跡の上位に同軸で重複しているものと推定される。硬化面の幅は約2mで側溝等の付随する工作物は確認できなかった。 **重複関係** 4号・5号・6号・7号・8号・10号・12号・13号・15号・16号・18号・21号・23号竪穴建物跡、2号溝跡、1号道路跡、2号井戸跡、3号・6号・7号・10号・12号土坑、5号・6号・14号ピット、1号竪穴建物跡と重複する。6号・12号・15号・22号竪穴建物跡、1号・2号溝跡よりも新しい。その他の遺構よりも古い。 **出土遺物** 上面から須恵器（甕）破片、土師質土器（皿・椀）破片が出土。 **時期** 古代。10世紀代（前半か）と推定される。

(4) 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構 (Fig.21)

位置 X236・237、Y232グリッド。 **主軸方向・形状等** 古代の遺構の確認時に、覆土に浅間B軽石を含む方形の落ち込みが検出されたことから、後からこの落ち込みを竪穴状遺構と認定した。主軸はN—75°—Eで形状は方形を呈する。東西3.0m、南北1.8m。深さ10cm。 **重複関係** 10号竪穴建物跡、1号・2号溝跡、1号道路跡と重複する。本遺構が一番新しい。 **出土遺物** なし。 **時期** 中世以降と推定される。

(5) 井戸跡、土坑、ピット (Fig.23・24、PL.7・8)

井戸跡が2基、土坑が12基、ピットが14基検出された。各遺構の規模等については計測表 (Tab.5) に記載した。

80・81トレンチ

80トレンチは令和2年度に調査した74トレンチの東、81トレンチは74トレンチの西にそれぞれ隣接している。よって、各トレンチをまたいで検出されている遺構も存在することから、74・80・81トレンチの遺構番号は統一して付している。

(1) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (Fig.29、PL.10)

位置 X243・244、Y222・223グリッド。80トレンチで検出。 **主軸方向・形状等** N—3°—W。主軸方向や平面形状からは南北方向に長い建物と考えられるが、柱穴は四隅のみ。東西方向は1間で北辺南辺ともに1.00m、南北方向は1間で西辺は2.20m、東辺は2.10mを測る。 **柱穴** 南東隅のみ3基のピットが重複している状態であることから、柱を立て直していると考えられる。各柱穴の規模及び出土遺物については計測表 (Tab.5) に記載した。 **重複関係** 2号掘立柱建物跡 (柱穴列) と重複する。本遺構が新しい。 **時期** 中世以降 (近世か)。

2号掘立柱建物跡(柱穴列)(Fig.29, 巻頭図版4, PL.10・11)

位置 X243・244, Y222・223グリッド。80トレンチで検出。**主軸方向・形状等** N-74°-E。同軸上に並ぶピット2基と布掘りが検出されたことから、同一の建造物の柱穴列と判断したもの。**柱穴・柱間等** 柱穴は東から1号柱穴(P₁)、2号柱穴(P₂)で、次いで布掘りの中で底面が窪む箇所を東から3号柱穴(P₃)、4号柱穴(P₄)、5号柱穴(P₅)と番号を付した。柱穴の形状は1号柱穴が方形、2号柱穴が円形である以外は、基本的には長軸方向に長い方形に近い形状を呈する。1号柱穴の東端から布掘りの西端までの長さは7.2m、布掘りの規模は長さ4.25m、最大幅84cm、各柱穴の心心の距離は東からそれぞれ1.50m、1.80m、1.80m、1.70mを測る。各柱穴の規模は計測表(Tab.5)に記載した。柱穴の覆土中の特徴としては、1号柱穴は覆土中に握り拳大の礫が含まれていた。その他、布掘りのうち覆土上部の残存状態が良好だった3号柱穴の上部は締まりが強かった。**重複関係** 7号・8号・15号竪穴建物跡、1号掘立柱建物跡と重複する。7号竪穴建物跡よりも新しい。その他の遺構よりも古い。**出土遺物** 計測表(Tab.5)に記載した。**時期** 古代に属するが詳しい時期は不明。8世紀から9世紀にかけて存在したと考えられる。**その他** 4号柱穴と5号柱穴の中間と、5号柱穴の西側も底部が窪んでおり、柱穴状を呈していた。5号柱穴の西は7号竪穴建物跡(令和2年度調査74トレンチ)の範囲であり、7号竪穴建物跡は床面が硬化せず、発掘調査時は床下土坑と判断した土坑状の遺構が検出されていることから、2号掘立柱建物跡と同軸で、一部重複する別の建造物の柱穴列が存在する可能性が考えられる。

(2) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡

位置等 令和2年度調査時に74トレンチのX243, Y221グリッドで検出されたため、その西に隣接する80トレンチの調査で検出することが想定されたが、遺構は検出できなかった。表土掘削時に削り取ってしまった可能性が考えられる。

2号竪穴建物跡(Fig.27, PL.9)

位置 X242・243, Y221・222グリッド。74・80トレンチで検出。**主軸方向** N-97°-E。**形状等** 方形。検出された遺構の規模は、74トレンチの調査結果を含めると、東西3.45m、南北2.45m、残存する壁高は最大17cm。**床面** 総社砂層への漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。竪穴建物のプランの南半分で堅緻面が認められた。また、床面に被熱したスポットが2か所認められた。**ピット** 令和2年度調査でピットが8基検出された。令和4年度調査では関連すると考えられるピットが3基検出された。その規模等については計測表(Tab.5)に記載した。**カマド** 東壁の南端付近に構築されていた。カマドの主軸方向はN-105°-E。全長95cm、最大幅67cmを測る。両袖及び天井部に構築材の芯として凝灰質砂岩の切石と礫が認められた。**出土遺物** 酸化焙焼成須石器(椀・羽釜)破片、土師質土器(皿・高坏)破片、瓦(丸瓦・平瓦)破片、鉄製品(鎌)が出土。**重複関係** 5号・8号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番新しい。**時期** 10世紀後半と推定される。

3号竪穴建物跡(Fig.24, PL.9)

位置 X241・242, Y221・222グリッド。74・81トレンチで検出。**主軸方向** N-77°-E。**形状等** 方形。検出された遺構の規模は、74トレンチの調査結果を含め東西4.80m、南北3.30m、残存する壁高は土層堆積から55cm。**床面** 74トレンチ調査時では総社砂層漸移層(基本層序V層)に構築されていると考えられたが、令和4年度調査により総社砂層面(基本層序VI層)に構築された地山床であると判断された。堅緻面は認められなかった。**ピット等** 柱穴及び貯蔵穴と考えられるピットが検出されたほか、本遺構の範囲内で8基のピットが検出された。その規模等については計測表(Tab.5)に記載した。**壁周溝** 南辺及び南西隅で断続的に検出された。最大幅22cm、最大幅15cm、深さ5cm。**カマド** 東壁中央付近で検出された。カマドの主軸方向はN-75°-E。その規模は全長(80)cm、最大幅(60)cmを測る。焚口付近に構築材の破片と考えられる凝灰質砂岩

の破片が認められたほか、カマド前面に灰の分布が認められた。**出土遺物** 土師器（坏・甕）破片、須恵器（坏・短頸壺・甕）破片、酸化焰焼成須恵器（椀・羽釜）破片、土師質土器（皿）破片、灰軸陶器（椀）破片、瓦（平瓦）破片、菰福石、砂岩の小礫（被熱）、鉄製品（不明）、鉄滓が出土。**重複関係** 4号竪穴建物跡と重複する。本遺構が新しい。**時期** 6世紀後半と推定される。

4号竪穴建物跡 (Fig.24, PL.9)

位置 X241・242、Y221・222グリッド。74・81トレンチで検出。**主軸方向** N-69°-E。**形状等** 方形。検出された遺構の規模は、74トレンチの調査結果を含め東西4.60m、南北(3.10)m、残存する壁高は最大15.5cm。**床面** 74トレンチ調査時では総社砂層漸移層（基本層序V層）に構築されていると考えられたが、令和4年度調査により総社砂層面（基本層序VI層）に構築された地山床であると判断された。堅緻面は認められなかった。**ピット等** 柱穴と考えられるピットが認められたほか、本遺構の範囲内で5基のピットが認められた。その規模等については計測表 (Tab.5) に記載した。**壁周溝** 南辺及び西辺で断続的に検出された。最大幅35cm、最大下幅20cm、深さ16.5cm。**カマド** 東壁中央付近の床面で焼土の集中が検出されたのみで、カマド本体は検出できなかった。**出土遺物** 土師器（坏・甕）破片、須恵器（蓋・甕）破片、瓦（平瓦）破片、酸化焰焼成須恵器（椀・羽釜）破片、灰軸陶器（椀?）破片、瓦（平瓦）破片、縄文時代の剥片、菰福石?、鉄製品（釘?）が出土。**重複関係** 3号・6号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番古い。**時期** 6世紀後半と推定される。

5号竪穴建物跡

位置等 令和4年度調査では検出できなかった（令和2年度調査報告書を参照）。**出土遺物** 本遺構が想定される範囲で須恵器破片が出土した。

6号竪穴建物跡 (Fig.25, PL.9)

位置 X241・242、Y222・223グリッド。74・81トレンチで検出。**主軸方向** N-72°-E。**形状等** 方形。検出された遺構の規模は、74トレンチの調査結果を含め東西4.00m、南北(3.20)m、残存する壁高は最大5cm。**床面** 総社砂層への漸移層（基本層序V層）及び4号竪穴建物跡の覆土上に構築された床面。全体的に薄い貼床。竪穴建物の南半では堅緻面が認められた。床面中央やや北寄りでは被熱スポットを検出。**カマド** 東壁の南端付近に構築されていた。カマドの主軸方向はN-90°-E、全長70cm、最大幅90cmを測る。焚口前面に灰の分布が認められた（令和2年度調査）。**ピット等** 本遺構の範囲内で1基のピットが検出された。その規模等については計測表 (Tab.5) に記載した。**出土遺物** 土師器（坏・甕）破片、須恵器（甕）、酸化焰焼成須恵器（椀）破片、土師質土器（皿・坏）破片、瓦（平瓦）破片が出土。**重複関係** 4号・5号・13号竪穴建物跡、1号井戸跡と重複する。4号・5号竪穴建物跡よりも新しい。13号竪穴建物跡、1号井戸跡よりも古い。**時期** 11世紀前半代と推定される。

7号竪穴建物跡 (Fig.25・29, PL.9)

位置 X242・243、Y223グリッド。74・80・81トレンチで検出。**主軸方向** N-90°-E。**形状等** 方形。検出された遺構の規模は、74トレンチの調査結果を含め東西4.50m、南北(1.10)m、残存する壁高は最大25cm。**床面** 総社砂層面（基本層序VI層）に構築された貼床。ただし、硬化は弱い。**ピット等** 令和2年度調査時に床下土坑と判断したピット3基が検出されている。**壁周溝** 北壁に沿って部分的に壁周溝状の遺構が検出されたほか、令和4年度調査時に西壁沿いで壁周溝が検出された。最大上幅25cm、同下幅12cm、深さ6cmを測る。**カマド** 未検出。調査区外に存在すると推定される。**出土遺物** なし。**重複関係** 5号・8号・9号竪穴建物跡、2号掘立柱建物跡、1号井戸跡と重複する。9号竪穴建物跡よりも新しい。それ以外の遺構よりも古い。**時期** 7世紀後半と推定される。

8号竪穴建物跡 (Fig.27, PL.9)

位置 X243, Y222・223グリッド。74・80トレンチで検出。**主軸方向** N-99°-E。**形状等** 方形であるが、上底が北に位置する台形状。東西2.80m、南北2.50m、残存する壁高は最大22.5cm。**床面** 総社砂層漸移層(基本層序V層)、7号竪穴建物跡覆土及び2号掘立柱建物跡の布掘りに構築された地山床。カマドの前面に堅緻面が認められた。**ピット等** 本遺構の範囲内でピットが1基検出された。その規模等については計測表(Tab.5)に記載した。**カマド** 東壁の南端付近に構築されていた。主軸方向はN-93°-E、全長70cm、最大幅60cmを測る。煙道は明確であったが、焚口等は明確に検出することができなかった。**出土遺物** 土師器(坏・甕)破片、須恵器(甕)破片、酸化焰焼成須恵器(椀)破片、灰陶器(椀)、土師質土器(皿・坏)破片、瓦(平瓦)破片、鉄滓が出土。**重複関係** 2号・7号竪穴建物跡、2号掘立柱建物跡と重複する。7号竪穴建物跡、2号掘立柱建物跡よりも新しい。2号竪穴建物跡よりも古い。**時期** 10世紀前半代と推定される。

9号竪穴建物跡

位置(令和2年度調査時) X242, Y223グリッド。**概要** 令和2年度調査(74トレンチ)で検出。令和4年度調査において、積極的に本遺構とすることができる遺構は検出されていない。強いて言えば、どの遺構にも属さない3号竪穴建物跡と1号井戸跡の間のテラス状の遺構か。

10号竪穴建物跡 (Fig.26, PL.9)

位置 X243・244, Y221・222グリッド。80トレンチで検出。**主軸方向** N-103°-E。**形状等** 方形。東西3.10m、南北(3.06)m、残存する壁高は最大10cm。**床面** 総社砂層への漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。堅緻面は確認できなかった。**ピット等** 竪穴建物プランの南西隅で1基(貯蔵穴と推定される)、西壁沿いで1基検出された。その規模等については計測表(Tab.5)に記載した。**カマド** 検出できなかったが、カマドの構築材と推定される凝灰質砂岩の切石が南壁の東寄りて出土したことから、竪穴建物跡の南東隅付近に構築されていたと推定される。**出土遺物** 土師器(坏)破片、須恵器(甕?)破片、酸化焰焼成須恵器(椀・羽釜)破片、土師質土器(皿)破片、瓦(平瓦)破片、鉄滓、礫が出土。**重複関係** 11号・12号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番古いと考えられる。**時期** 10世紀後半と推定される。

11号竪穴建物跡 (Fig.26, PL.10)

位置 X243・244, Y222グリッド。80トレンチで検出。**主軸方向** N-97°-E。**形状等** 方形であるが、南壁は不明瞭(膨らむようなライン)。東西3.66m、南北(2.80)m、残存する壁高は最大16cm。**床面** 総社砂層への漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。堅緻面は確認できなかった。**ピット等** 南西隅に1基検出された。その規模等については計測表(Tab.5)に記載した。**カマド** 竪穴建物プラン南東隅に構築されていた。カマドの主軸方向はN-90°-E、全長1.00m、最大幅80cmを測る。カマドの北側床面に灰の分布が認められた。**出土遺物** 土師器(甕)破片、須恵器(甕)破片、瓦(平瓦)破片、酸化焰焼成須恵器(椀・羽釜)破片、黒色土器(椀)破片、灰陶器(瓶?)破片、土師質土器(皿・土釜?)破片が出土。**重複関係** 10号・12号・14号竪穴建物跡と重複する。10号・14号竪穴建物跡よりも新しい。12号竪穴建物との新旧関係は不明瞭。**時期** 11世紀前半と推定される。

12号竪穴建物跡 (Fig.26, PL.10)

位置 X243・244, Y221・222グリッド。80トレンチで検出。**主軸方向** N-90°-E(推定)。**形状等** 方形。南東隅及び南西隅に位置すると推定されるピットが1基検出されたのみで、詳細は不明。**床面** 総社砂層への漸移層(基本層序V層)に構築された地山床。一部で堅緻面が認められた。**カマド** 検出できなかったが、竪穴建物プランの南東隅付近においてカマドの焼土を若干含む粘質土の分布が認められたことから、東壁の南寄りに構築されていたと推定される。なお、令和3年度調査77トレンチで検出された複数の竪穴建物跡の焼土の集中部分は、本竪穴建物跡のカマド部分と考えられる。**出土遺物** 土師質土器(坏)破片、砥石が出土。

重複関係 10号・11号・14号竪穴建物跡、1号・2号土坑と重複する。10号竪穴建物跡よりも新しい。1号・2号土坑よりも古い。11号竪穴建物跡との新旧関係は不明瞭。 **時期** 11世紀前半と推定される。

13号竪穴建物跡 (Fig.25, PL.10)

位置 X241、Y222・223グリッド。81トレンチで検出。 **主軸方向** N-75°-E。 **形状等** 方形と推定される。調査区内で検出された規模は東西(2.50)m、南北(2.90)m、残存する壁高は最大22cm。 **床面** 総社砂層面(基本層序VI層)に構築された地山床。堅緻面は検出できなかった。 **ピット等** 5基検出された。その規模等については計測表 (Tab.5) に記載した。 **壁周溝** 北壁及びプラン北東隅にかけて検出された。最大上幅24cm、最大下幅14cm、最大深さ5cm。 **出土遺物** 土師器(坏・甕)破片、須恵器(蓋・甕)破片、酸化焰焼成須恵器(椀)破片、土師質土器(皿)破片、菰編石?が出土。 **重複関係** 6号竪穴建物跡と重複している。本遺構が古い。 **時期** 不明。10世紀代か。 **その他** 本竪穴建物跡は元総社普海遺跡群(65)の17号竪穴建物跡と同一の遺構と推定される。

14号竪穴建物跡 (Fig.26, PL.10)

位置 X244・245、Y222グリッド。80トレンチで検出。 **主軸方向・形状等** 硬化面及びカマドと推定される痕跡を確認したのみで、主軸方向の詳細は不明であるが、おおむね東西南北を意識した方位で構築されている。検出された範囲は東西(1.6)m、南北(3.8)m。 **床面** 総社砂層への漸移層(基本層序V層)及び15号掘立柱建物跡覆土上に構築された地山床。15号竪穴建物跡覆土上の部分に関しては堅緻面となっていた。また、床面の一部に焼土と灰の分布(焼土のスポット)が認められた。 **カマド** カマドの痕跡と考えられる焼土と灰の分布が、推定される竪穴建物プランの南東隅で認められた。 **出土遺物** 土師器(坏・甕)破片、須恵器(甕)破片、土師器小片、酸化焰焼成須恵器(羽釜)破片、土師質土器(皿・坏)破片。 **重複関係** 11号・12号・15号竪穴建物跡、1号土坑と重複する。本遺構が一番新しい。 **時期** 11世紀後半と推定される。

15号竪穴建物跡 (Fig.28, PL.10)

位置 X244・245、Y222・223グリッド。80トレンチで検出。 **主軸方向** N-65°-E。 **形状等** 北西隅及び床面を検出したのみであるが、その状態から方形と推定される。東西(3.7)m、南北(2.18)m、残存する壁高は最大27cm。 **床面** 総社砂層面(基本層序VI層)に構築された貼床。竪穴建物中央付近で堅緻面が検出された。 **出土遺物** 土師器(坏・埴・小甕・甕・瓶)破片、土師質土器(皿)破片が出土。 **重複関係** 14号・16号竪穴建物跡、2号掘立柱建物跡、1号溝跡、1号道路跡と重複する。本遺構が一番古い。 **時期** 6世紀後半と推定される。

16号竪穴建物跡 (Fig.28, PL.10)

位置 X244、Y223グリッド。80トレンチで検出。 **主軸方向・形状等** 西壁の一部及び床面が検出されたのみであるが、その状態から軸方向はN-90°-Eの正方位と推定され、遺構のプランも方形を呈すると推定される。調査区内で確認できた規模は東西(3.5)m、南北(4.0)m、残存する壁高は最大10cm。 **床面** 総社砂層への漸移層(基本層序V層)に構築された貼床。堅緻面は検出できなかった。なお、床面の2か所で焼土の分布(焼土のスポット)が認められた。 **出土遺物** 土師器小片、須恵器(蓋・坏)破片、酸化焰焼成須恵器(椀・甕)破片、黒色土器(椀)破片、土師質土器(皿)破片、磁器破片が出土。 **重複関係** 14号・15号竪穴建物跡、4号土坑と重複する。15号竪穴建物跡、4号土坑よりも本遺構が新しい。14号竪穴建物跡よりも本遺構が古い。 **時期** 10世紀後半と推定される。

(3) 溝跡

1号溝跡 (Fig.28)

位置 X245・246、Y222グリッド。80トレンチで検出。 **主軸方向** 80トレンチ内での主軸方向は南北方向に走ると考えられるが、北から西へ多少傾くと推定される。 **形状等** 溝の落ち込み始める部分のみの検出であ

ることから、形状等は不明。**重複関係** 15号竪穴建物跡、1号道路跡と重複する。15号竪穴建物跡よりも新しい。1号道路跡よりも古い。**出土遺物** なし。**時期** 中世。**その他** 令和3年度上野国府等範囲内容確認調査76トレンチ1号溝跡・77トレンチ1号溝跡と同一の溝と推定される。また、元総社蒼海遺跡群（98）の西端の調査区（擾乱と判断）はこの溝の一部を検出したものと考えられる。

(4) 道路跡

1号道路跡 (Fig.28)

位置 X245・246、Y222グリッド。**主軸方向・形状等** 1号溝跡の覆土上面の硬化面を道路面と認定したもの。硬化面の西端部分は南北方向に走っていたことから、南北方向に続いていたものと推定される。**重複関係** 15号竪穴建物跡、1号溝跡と重複する。本遺構が一番新しい。**出土遺物** 土師器（鉢？甕）破片、須恵器（甕）破片、土師質土器（皿）破片、羽口破片、瓦破片、鉄製品（不明）、小礫が出土。**時期** 中世もしくは中世以降と推定される。**その他** 本遺構は上記1号溝跡のプランと重複しており、溝の軸線上に重複した走行が想定できるが、令和3年度上野国府等範囲内容確認調査76トレンチ1号溝跡、元総社蒼海遺跡群（98）では溝跡の覆土上面において硬化面は検出されていない。

(5) 井戸跡、土坑、ピット (Fig.25・26・27・28・29、PL.11)

74トレンチの調査も含めて、井戸跡が1基、土坑が4基、ピットが29基検出された。各遺構の規模等については計測表 (Tab.5) に記載した。

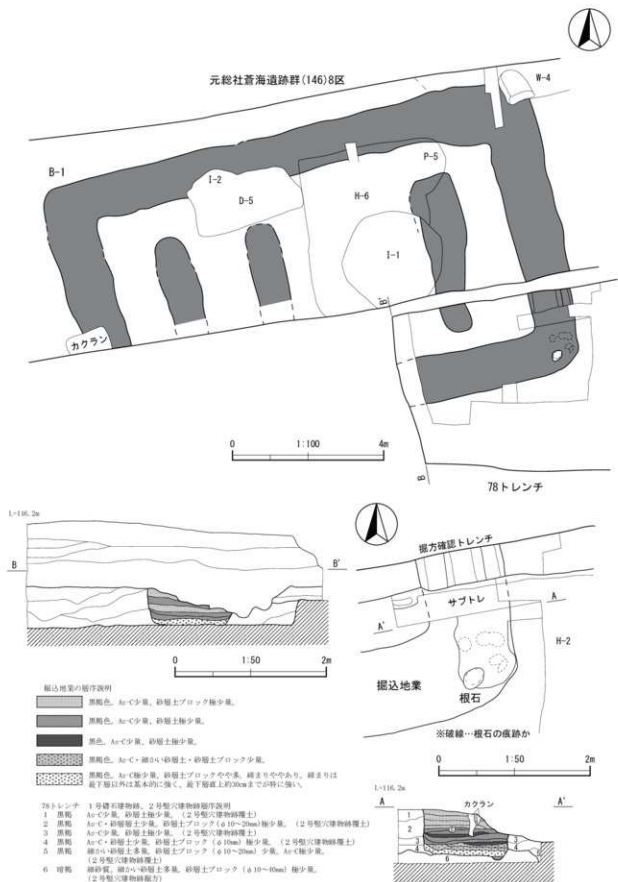


Fig. 10 78トレンチ各遺構(1)

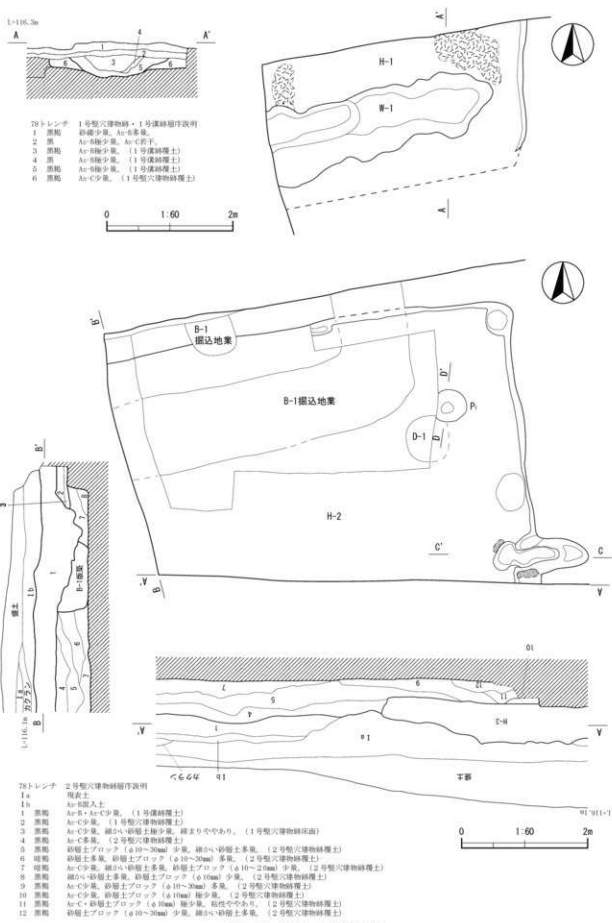


Fig. 11 78トレンチ各遺構(2)

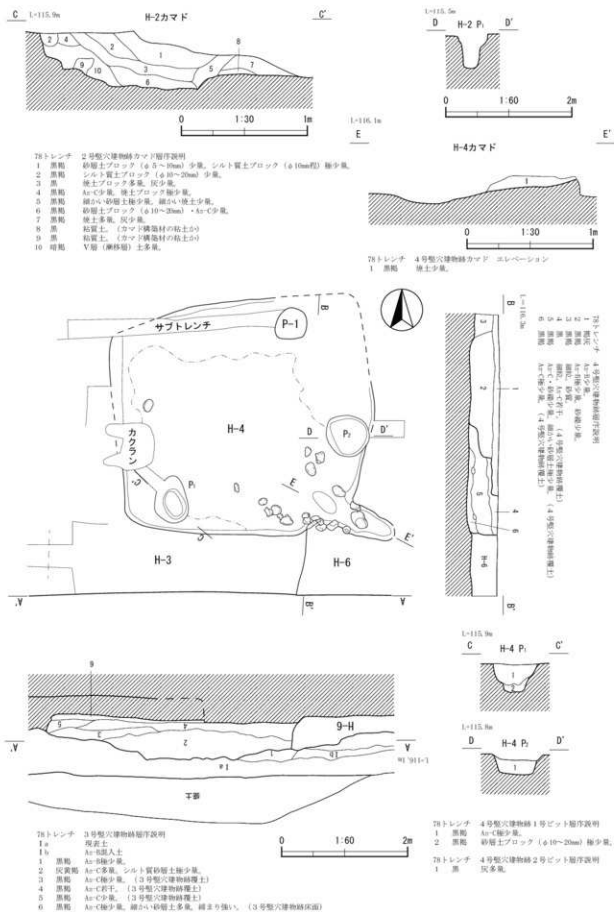
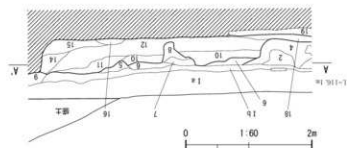
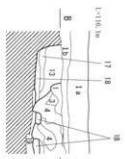
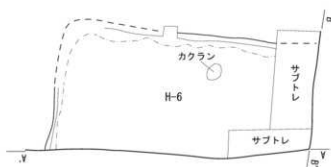
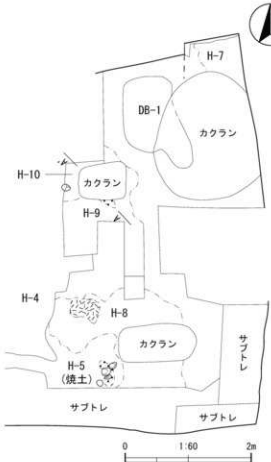


Fig. 12 78トレンチ各遺構(3)

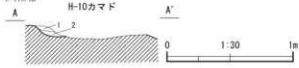


78トレンチ 6号型穴建物跡断序説明

- 1a 焼瓦土
- 1b Ac焼瓦土
- 1 黒 Ac-b多量
- 2 黒期 Ac-b少量 (カクランに近い土)
- 3 黒期 Ac-b少量
- 4 黒期 Ac-b少量, Ac-c若干
- 5 黒期 Ac-b極少量
- 6 黒期 Ac-c極少量
- 7 黒期 Ac-b少量
- 8 黒期 Ac-b少量
- 9 黒期 Ac-b極少量
- 10 黒期 Ac-c少量 (6号型穴建物跡覆土)
- 11 黒期 Ac-c少量 (6号型穴建物跡覆土)
- 12 黒期 Ac-c少量, 細い砂層土極少量 (6号型穴建物跡覆土)
- 13 黒期 Ac-c少量 (6号型穴建物跡覆土)
- 14 黒期 Ac-c少量 (6号型穴建物跡覆土)
- 15 黒期 Ac-c砂層土少量, 細い砂層土極少量 (6号型穴建物跡覆土)
- 16 黒期 細い砂層土極少量 (6号型穴建物跡覆土)
- 17 黒期 Ac-c若干 (6号型穴建物跡覆土)
- 18 黒期 細い砂層土少量, 結まりやあり (6号型穴建物跡断面)
- 19 黒期 細い砂層土多量 (6号型穴建物跡断面)

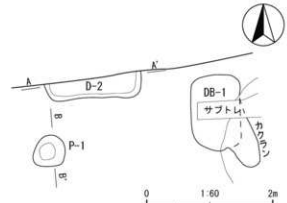


L=116.0m H-10カマド

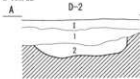


78トレンチ 10号型穴建物跡カマド断序説明

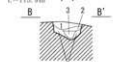
- 1 黒期 焼土多量
- 2 黒期 細粒, 砂質



L=116.5m



L=115.9m



78トレンチ 2号土坑断序説明

- 1 焼瓦土
- 2 黒 Ac-b極少量
- 3 黒 Ac-b極少量

78トレンチ 1号ピット断序説明

- 1 黒 Ac-c極少量
- 2 黒期 細い砂層土少量
- 3 黒 Ac-c極少量
- 4 黒期 砂層土多量

Fig. 13 78トレンチ各遺構(4)

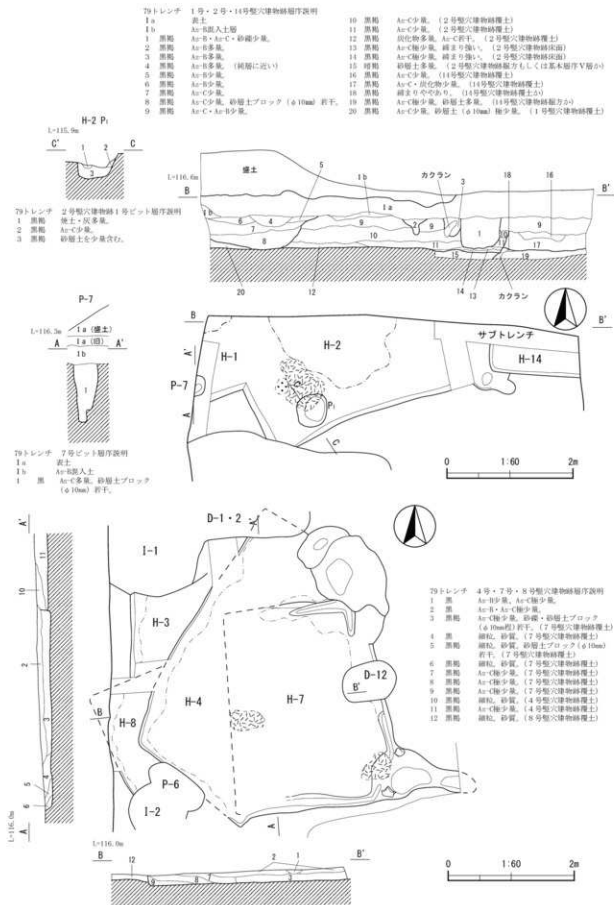


Fig. 14 79トレンチ各遺構(1)

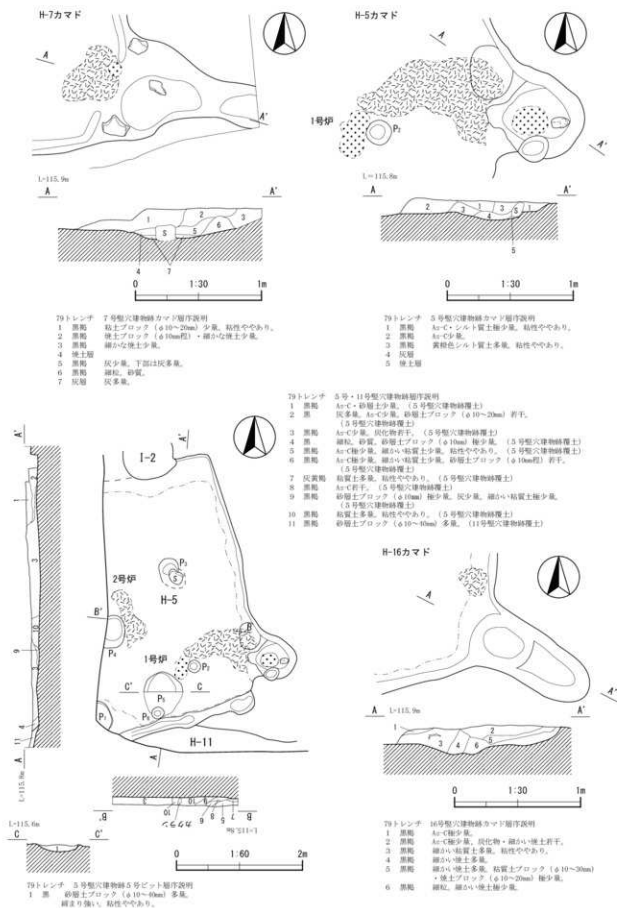


Fig. 15 79トレンチ各遺構(2)

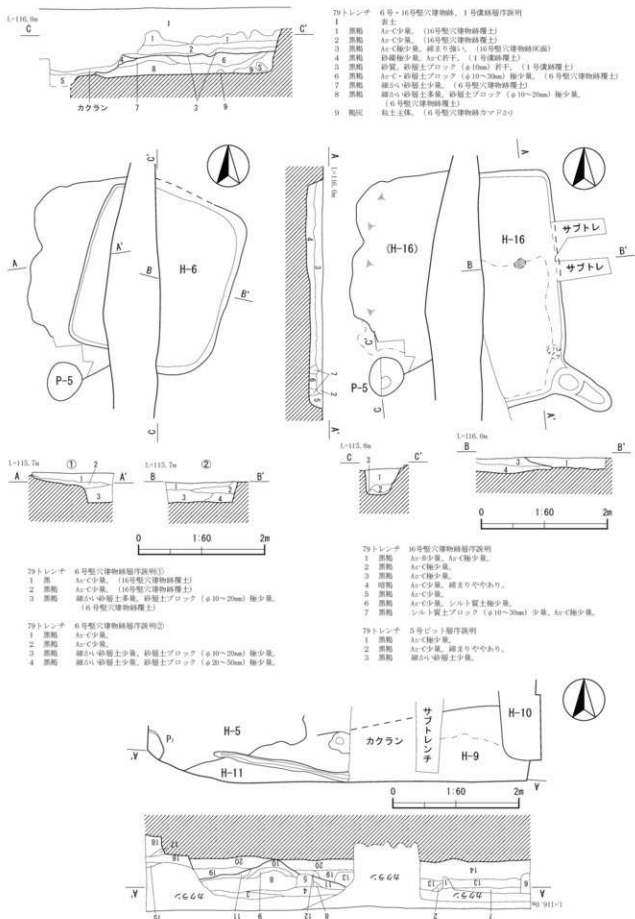
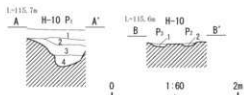


Fig. 16 79トレンチ各遺構(3)

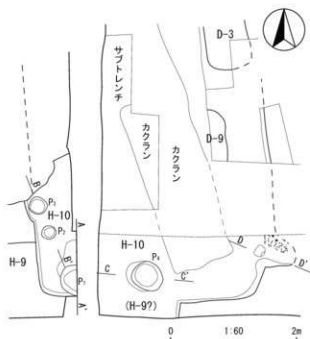


- 79トレンチ 10号型穴建物跡1号ピット層序説明
- 1 黒層 Ar-C少量。
 - 2 黒層 Ar-C少量。細かみ砂層土少量。網まりややあり。
 - 3 黒層 Ar-C少量。
 - 4 黒層 Ar-C少量。砂層土ブロック (φ10~20mm) 極少量。

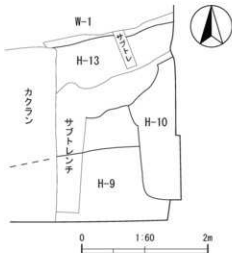
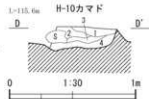
- 79トレンチ 10号型穴建物跡2号・3号ピット層序説明
- 1 黒層 Ar-C少量。
 - 2 黒層 Ar-C少量。



- 79トレンチ 10号型穴建物跡4号ピット層序説明
- 1 黒層 Ar-C極少量。
 - 2 黒層 灰少量。Ar-C極少量。



- 79トレンチ 10号型穴建物跡カマド層序説明
- 1 黒層 粘質土ブロック (φ10~30mm) 少量。
 - 2 黒層 細かみ粘土層少量。
 - 3 黒層 砂層土ブロック (φ10mm) 極少量。
 - 4 黒層 砂層土ブロック (φ10mm) 少量。網り砂層土極少量。



- 79トレンチ 5号・9号・11号型穴建物跡層序説明
- 1 黒層 Ar-C少量。
 - 2 黒層 Ar-C・砂層土少量。網まりややあり。
 - 3 黒層 Ar-C多量。網まり強い。
 - 4 黒層 Ar-C多量。網まりややあり。
 - 5 黒層 Ar-C多量。灰色の砂層土少量。
 - 6 黒層 Ar-C多量。段 (φ10mm~20mm) 少量。砂層土ブロック (φ10mm) 極少量。Ar-C少量。
 - 7 黒層 Ar-C多量。網まりややあり。(4層と同じか)
 - 8 黒層 Ar-C多量。一部Ar-Cの純層あり(二次産物か)。下記の網まり強い。
 - 9 黒層 Ar-C少量。網まりややあり。(若干平らな状態)
 - 10 黒層 Ar-C少量。網まり強い。
 - 11 黒層 Ar-C少量。網まり強い。
 - 12 黒層 Ar-C少量。砂層土少量。
 - 13 黒層 Ar-C少量。砂層土少量。
 - 14 黒層 Ar-C・砂層土ブロック (φ10mm) 少量。(9号型穴建物跡層土)
 - 15 黒層 細かみ砂層土極少量。やや網まりあり。(5号型穴建物跡層土)
 - 16 黒層 細かみ砂層土少量。砂層土ブロック (φ10mm~20mm) 極少量。(5号型穴建物跡層土)
 - 17 黒層 砂層土ブロック (φ10mm) 少量。(5号型穴建物跡層土)
 - 18 黒層 砂層土ブロック (φ10mm~20mm) 少量。(5号型穴建物跡層土)
 - 19 黒層 Ar-C少量。(11号型穴建物跡層土)
 - 20 黒層 Ar-C・砂層土ブロック (φ10mm~30mm) 少量。(11号型穴建物跡層土)



- 79トレンチ 12号型穴建物跡1号ピット層序説明
- 1 黒層 砂層土ブロック (φ10~20mm) 少量。
 - 2 黒層 砂層土ブロック (φ10~20mm) 少量。黒色土多量。
 - 3 灰白 砂層土主体。

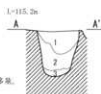


Fig. 17 79トレンチ各遺構(4)

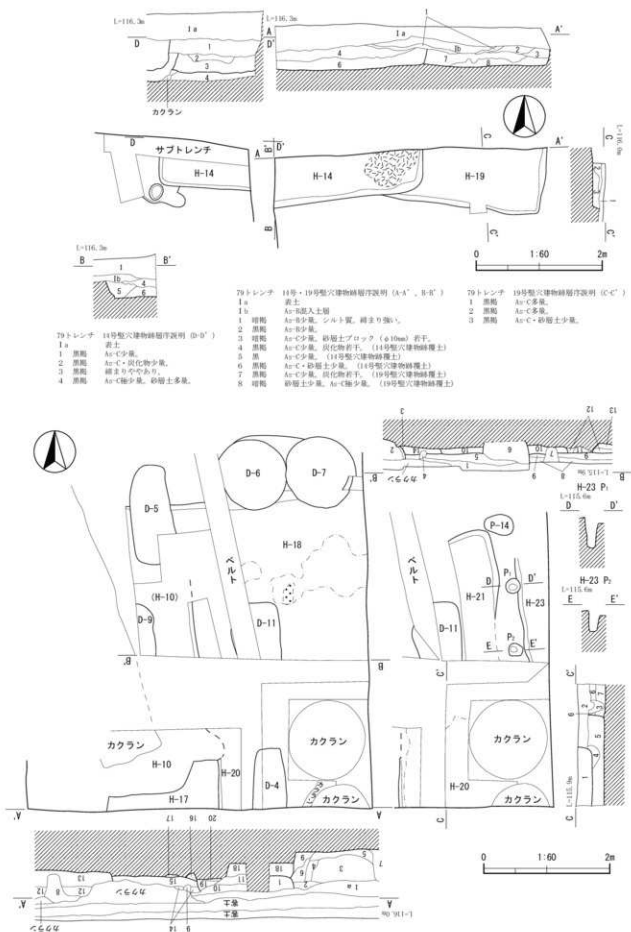


Fig. 18. 79トレンチ各遺構(5)

79トレンチ 17号・20号型穴建物跡層序説明 (A-A')

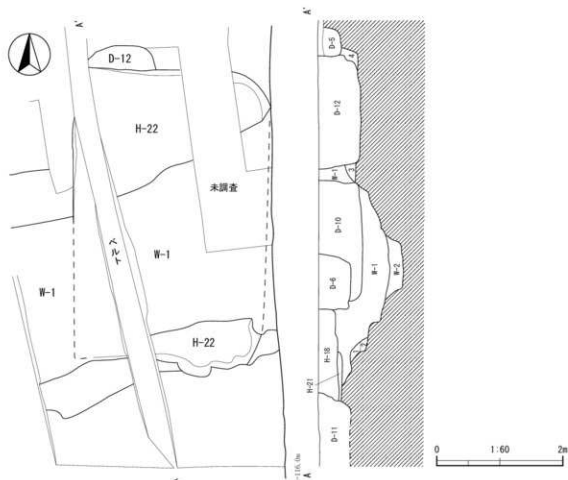
1	基	Aa-B多量。(4号土坑覆土)
2	黒陶	Aa-B少量。
3	黒	腐乱か。
4	黒	腐乱。結まり強い。腐乱か。
5	黒陶	砂質。腐乱か。
6	黒陶	Aa-B多量。(8号土坑覆土)
7	黒	Aa-B少量。(8号土坑覆土)
8	黒	Aa-B多量。
9	黒陶	腐乱。砂質。
10	黒陶	Aa-B少量。
11	黒陶	Aa-B少量。Aa-C極少量。
12	黒陶	Aa-C少量。(19号型穴建物跡層土)
13	黒陶	Aa-B若干。腐乱。(19号型穴建物跡層土)
14	黒陶	Aa-C極少量。(17号型穴建物跡層土)
15	黒陶	Aa-C少量。(17号型穴建物跡層土)
16	黒陶	Aa-C極少量。(17号型穴建物跡層土)
17	黒陶	腐乱。結まり強い。(17号型穴建物跡床面)
18	黒陶	Aa-C少量。(20号型穴建物跡層土)
19	黒陶	Aa-C少量。(遺構番号不明穴建物跡層土)
20	黒陶	腐乱。Aa-C少量。(遺構番号不明穴建物跡層土)

79トレンチ 10号・18号・21号・23号型穴建物跡層序説明 (B-B')

1	黒陶	Aa-B少量。
2	黒陶	Aa-C少量。(6号土坑覆土)
3	黒陶	腐乱。結まり強い。(9号土坑覆土)
4	黒	腐乱。Aa-B少量。
5	黒	Aa-B少量。
6	黒	Aa-B多量。
7	黒陶	Aa-C極少量。
8	黒陶	Aa-C少量。(21号型穴建物跡層土)
9	黒陶	Aa-C・結3-4・砂層土少量。(21号型穴建物跡層土)
10	黒陶	腐乱。(18号型穴建物跡層土)
11	黒陶	Aa-C少量。(18号型穴建物跡層土)
12	黒陶	腐乱。(22号型穴建物跡層土)
13	黒陶	Aa-C少量。結3-4・砂層土極少量。(23号型穴建物跡層土)
14	黒陶	Aa-C少量。結3-4・砂層土極少量。(23号型穴建物跡層土)

79トレンチ 20号・21号型穴建物跡。4号土坑層序説明 (C-C')

1	黒	Aa-B多量。(4号土坑覆土)
2	黒陶	結3-4・砂層土少量。Aa-C極少量。
3	黒陶	結3-4・砂層土少量。Aa-C極少量。
4	黒陶	砂質。結まりややあり。
5	黒陶	Aa-C少量。(20号型穴建物跡層土)
6	黒陶	Aa-C少量。(21号型穴建物跡層土)
7	黒陶	Aa-C・結3-4・砂層土少量。砂層土ブロック(φ10mm)若干。(18号型穴建物跡層土)



79トレンチ 22号型穴建物跡層序説明

1	黒陶	Aa-C少量。
2	黒陶	Aa-C少量。砂層土少量。
3	黒陶	Aa-C少量。砂層土ブロック(φ10mm)極少量。
4	黒陶	砂層土多量。Aa-C極少量。

Fig. 19 79トレンチ各遺構(6)

- 79トレンチ 1号・2号遺跡、1号遺跡詳細図(A-A')
- 1a
- 1 灰夾層 シルト質、砂礫土多量、砂層土ブロック(φ10mm)多量、Ac-B少量
 - 2 灰夾層 シルト質、砂礫土多量、砂層土ブロック(φ10mm)・Ac-B少量
 - 3 黒地 Ac-B少量
 - 4 黒地 Ac-B少量
 - 5 灰夾層 Ac-B少量
 - 6 灰夾層 Ac-B多量、(1号溝跡)
 - 7 黒地 Ac-B・Ac-C少量
 - 8 黒地 Ac-C少量、(15号型穴建物跡層土)
 - 9 黒地 砂層土ブロック(φ10mm)少量、(5号型穴建物跡層土)
 - 10 黒地 砂層土ブロック(φ10~20mm)極少量、(5号型穴建物跡層土)
 - 11 黒地 Ac-C若干、締まり強い、(5号型穴建物跡層土)
 - 12 黒地 Ac-C若干、灰多量、(15号型穴建物跡層土)
 - 13 黒地 Ac-C少量、砂層土ブロック(φ10mm)・炭化物若干、締まりややあり
 - 14 灰夾層 シルト質、Ac-C・砂礫少量、締まり強い、(1号遺跡踏込面)
 - 15 黒地 Ac-C・砂礫少量、締まり強い、(1号遺跡踏込面)
 - 15' 黒地 珪砂土質、締まりややあり、(1号遺跡踏込面)
 - 16 黒地 Ac-C少量、砂層土ブロック(φ10mm)若干
 - 17 黒地 Ac-C極少量、砂礫若干、締まりややあり、(1号遺跡層土)
 - 18 黒地 Ac-C極少量、ややシルト質、締まりややあり、(1号遺跡層土)
 - 19 増地 Ac-C極少量、ややシルト質、締まりややあり、(1号遺跡層土)
 - 20 増地 Ac-C極少量、砂礫少量、ややシルト質、締まりややあり、(1号遺跡層土)
 - 21 灰夾層 シルト質、Ac-C極少量、(1号遺跡層土)
 - 22 黒地 シルト質、Ac-C極少量、(1号遺跡層土)
 - 23 増地 珪砂土質、(1号遺跡層土)
 - 24 黒地 砂層土ブロック(φ10mm)極少量、(1号遺跡層土)
 - 25 黒地 Ac-C極少量、(1号遺跡層土)
 - 26 黒地 Ac-C少量、(1号遺跡層土)
 - 27 灰夾層 Ac-C極少量、シルト質、(1号遺跡層土)
 - 28 灰夾層 Ac-C極少量、砂層土ブロック(φ10mm)少量、締まり強い、(1号遺跡層土)
 - 29 灰夾層 Ac-C若干、砂礫・砂層土ブロック(φ10mm)少量、締まり強い、(1号遺跡層土)
 - 30 灰夾層 砂層土ブロック(φ10mm)少量、締まりややあり、(1号遺跡層土)
 - 31 黒地 珪砂土多量、Ac-C極少量、締まりややあり、(1号遺跡層土)
 - 32 黒地 砂層土ブロック(φ10mm)多量、締まりややあり、(2号遺跡層土)
 - 33 灰夾層 シルト質、(15号型穴建物跡層土)
 - 34 黄地 珪砂土多量、締まり強い、(15号型穴建物跡層土)
 - 35 黒地 Ac-C少量、砂層土ブロック(φ10mm)若干、珪砂土極少量、締まり強い、(15号型穴建物跡層土)
 - 36 広い灰地 珪砂土多量、砂層土ブロック(φ10mm)少量、(22号型穴建物跡層土)
 - 37 黒地 Ac-C少量、砂層土ブロック(φ10mm)極少量、(22号型穴建物跡層土)
 - 38 地 砂層土多量、(22号型穴建物跡層土)

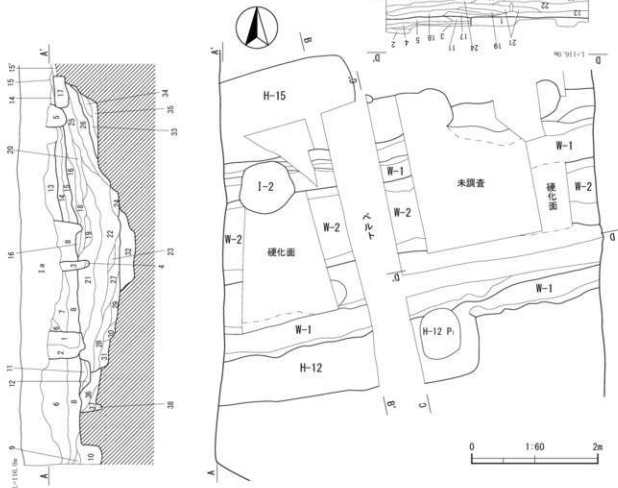
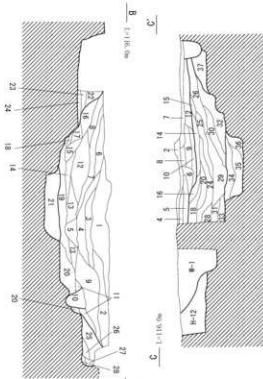


Fig. 20 79トレンチ各遺構(7)

79トレンチ	1号・2号溝跡(横断-ベルト西面) 層序説明(0-6')
1 黒層	Ae-C少量, 締まりややあり, (上部は1号道路跡路面)
2 黒層	Ae-C少量, (1号道路跡路面)
3 黒層	Ae-C少量, シルト質土多量, 砂少量, 締まりややあり, (1号道路跡路面)
4 灰黄層	Ae-C少量, シルト質土多量, 砂少量, 締まりややあり, (1号道路跡路面)
5 黒層	Ae-C少量, シルト質土多量, 締まりややあり, (1号道路跡路面)
6 黒層	Ae-C少量, 砂礫土多量でラニナを形成, 締まり強い, (上部は1号道路跡路面)
7 黒層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm) 極少量, 締まり強い, (上部は1号道路跡路面)
8 黒層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 極少量, (1号道路跡路面)
9 黒層	Ae-C極少量, (1号道路跡路面)
10 黒層	Ae-C極少量, (1号道路跡路面)
11 黒層	Ae-C若干, (1号道路跡路面)
12 黒層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm) 極少量, (1号道路跡路面)
13 黒層	Ae-C少量, (1号道路跡路面)
14 黒層	Ae-C極少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 少量, (1号道路跡路面)
15 黒層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 極少量, (1号道路跡路面)
16 黒層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm) 極少量, (1号道路跡路面)
17 黒層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 少量, (1号道路跡路面)
18 黒層	Ae-C極少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 極少量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
19 黒層	Ae-C極少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 少量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
20 黒層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 極少量, (1号道路跡路面)
21 黒層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 多量(特に上部は多量), 締まり強い, (1号道路跡路面)
22 黒層	Ae-C少量, 細い砂層土や中量, (15号型穴建物跡路面)
23 黒層	Ae-C少量, (15号型穴建物跡路面)
24 黒層	Ae-C極少量, (15号型穴建物跡路面)
25 黒層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 少量, (15号型穴建物跡路面)
26 黒	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 若干, (15号型穴建物跡路面)
27 黒	細い砂層土極少量, (15号型穴建物跡路面)
28 埋層	砂層土多量, (15号型穴建物跡路面)

79トレンチ	1号・2号溝跡(横断-ベルト東面) 層序説明(C'-C', D'-D')
1 黒層	Ae-C少量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
2 黒層	Ae-C若干, 砂少量, シルト質土多量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
3 黒層	Ae-C若干, 砂少量, シルト質土多量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
4 黒層	Ae-C若干, シルト質土極少量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
5 黒層	Ae-C若干, シルト質土極少量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
6 黒層	Ae-C若干, 砂礫土多量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
7 黒層	砂・シルト質土多量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
8 黒層	砂・シルト質土多量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
9 黒層	砂・シルト質土多量, Ae-C少量, ラニナを形成, 締まり強い, (1号道路跡路面)
10 黒層	砂多量, Ae-C少量, ラニナを形成, 締まり強い, (1号道路跡路面)
11 黒層	砂多量, Ae-C少量, ラニナを形成, 締まり強い, (1号道路跡路面)
12 埋層	ややシルト質, Ae-C少量, 締まりややあり, (1号道路跡路面)
13 埋層	Ae-C少量, (1号道路跡路面)
14 埋層	ややシルト質, Ae-C少量, 砂礫土極少量, (1号道路跡路面)
15 埋層	砂多量, Ae-C少量, ラニナを形成, 締まり強い, (1号道路跡路面)
16 埋層	シルト質, Ae-C若干, 砂層土ブロック(φ10mm) 極少量, (1号道路跡路面)
17 埋層	シルト質, Ae-C少量, (1号道路跡路面)
18 埋層	砂多量, Ae-C若干, ラニナを形成, 締まり強い, (1号道路跡路面)
19 埋層	シルト質, Ae-C少量, (1号道路跡路面)
20 埋層	砂多量, Ae-C極少量, ラニナを形成, 締まり強い, (1号道路跡路面)
21 埋層	シルト質, Ae-C少量, (1号道路跡路面)
22 埋層	砂質, 砂礫・Ae-C少量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
23 埋層	シルト質, 砂礫・Ae-C少量, 締まりややあり, (1号道路跡路面)
24 埋層	ややシルト質, Ae-C少量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
25 埋層	シルト質, Ae-C少量, 砂礫土多量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
26 埋層	シルト質, Ae-C少量, 砂多量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
27 埋層	シルト質, Ae-C少量, 砂多量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
28 埋層	砂礫土多量, 砂層土ブロック(φ10mm)・Ae-C極少量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
29 埋層	シルト質, 砂層土ブロック(φ10mm) 極少量, 締まり強い, (1号道路跡路面)
30 埋層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm) 極少量, (1号道路跡路面)
31 埋層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm) 若干, (1号道路跡路面)
32 埋層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm) 若干, 締まり強い, (1号道路跡路面)
33 埋層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm) 若干, 締まりややあり, (1号道路跡路面)
34 埋層	Ae-C少量, 砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 極少量, 締まりややあり, (2号道路跡路面)
35 埋層	砂層土ブロック(φ10mm~20mm) 多量, 締まり強い, (2号道路跡路面)
36 埋層	砂質, 細い砂層土少量, 締まりややあり, (2号道路跡路面)
37 埋層	砂質, 細い砂層土やや多量, 締まりややあり, (12号型穴建物跡路面)

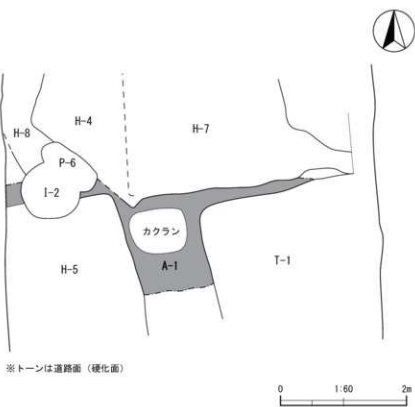


Fig. 21 79トレンチ各遺構(8)

79トレンチ 1号・2号遺跡跡面図

- 1 遺跡 Aa-C少量
- 2 遺跡 Aa-C多量
- 3 遺跡 Aa-C少量, Aa-C極少量, (6号土坑覆土)
- 4 遺跡 Aa-C少量, 締まり強い, (6号土坑覆土)
- 5 遺跡 Aa-C少量, Aa-C極少量, 締まり強い, (6号土坑覆土)
- 6 遺跡 Aa-C少量, Aa-C極少量, 砂層土ブロック (φ10m) 若干, 締まり強い, (6号土坑覆土)
- 7 遺跡 Aa-B・Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10m) 若干, (10号土坑覆土)
- 8 遺跡 Aa-B・Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10m) 若干, (10号土坑覆土)
- 9 遺跡 Aa-C少量, Aa-C若干, (10号土坑覆土)
- 10 遺跡 Aa-B・Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10~20m) 若干, (12号土坑覆土)
- 11 遺跡 Aa-B・Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10~50m) 若干, (12号土坑覆土)
- 12 遺跡 Aa-C極少量, 締まり強い, (12号土坑覆土)
- 13 遺跡 Aa-B・Aa-C極少量, 締まりやや強い, (12号土坑覆土)
- 14 遺跡 Aa-C少量, (11号土坑覆土)
- 15 遺跡 Aa-C少量, (11号土坑覆土)
- 17 遺跡 Aa-C少量
- 18 遺跡 Aa-C少量
- 19 遺跡 Aa-C少量, Aa-C極少量, (5号土坑覆土)
- 20 遺跡 Aa-C少量, 砂層土少量, (5号土坑覆土)
- 21 遺跡 Aa-C多量, (18号型穴建物跡区画)
- 22 遺跡 Aa-C極少量, 締まり強い, (18号型穴建物跡区画)

- 23 遺跡 Aa-C少量, (18号型穴建物跡区画東方2号)
- 24 遺跡 Aa-C極少量, (24号型穴建物跡覆土)
- 25 遺跡 Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10m) 極少量, (1号遺跡覆土)
- 26 遺跡 Aa-C少量, (1号遺跡覆土)
- 27 遺跡 砂層・Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10m) 若干, (1号遺跡覆土)
- 28 遺跡 Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10m) 若干, (1号遺跡覆土)
- 29 遺跡 Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10m) 若干, (1号遺跡覆土)
- 30 遺跡 Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10m) 若干, (1号遺跡覆土)
- 31 遺跡 Aa-C少量, (1号遺跡覆土)
- 32 遺跡 凝結, Aa-C少量, (1号遺跡覆土)
- 33 遺跡 凝結, 砂質, 凝 (φ100m大) 少量, Aa-C極少量, 粘性ややあり, (1号遺跡覆土)
- 34 遺跡 Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10m大) 若干, (1号遺跡覆土)
- 35 遺跡 Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10m大) 若干, (1号遺跡覆土)
- 36 遺跡 Aa-C・凝結・砂層土少量, 砂層土ブロック (φ10m大) 若干, (1号遺跡覆土)
- 37 遺跡 Aa-C少量, 砂層土ブロック (φ10m大) 若干, (1号遺跡覆土)
- 38 遺跡 凝結・砂層土・砂層土ブロック (φ10~40m大) 少量, 締まり強い, (1号遺跡覆土)
- 39 遺跡 砂層土ブロック (φ10~40m大) 多量, 締まり強い, (2号遺跡覆土)
- 40~43 (2号型穴建物跡覆土)

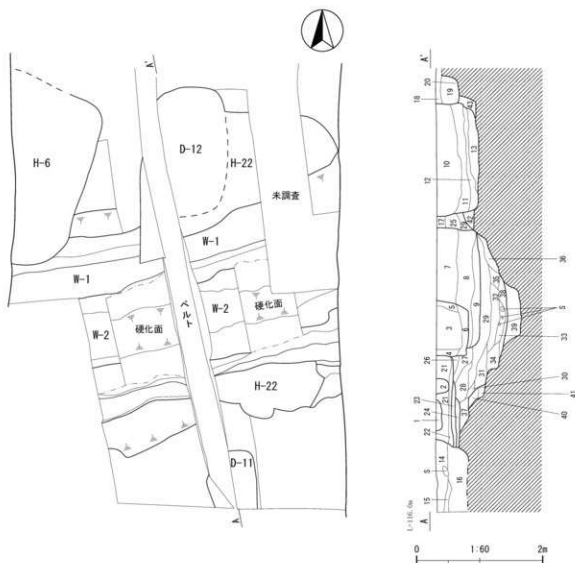


Fig. 22 79トレンチ各遺構(9)

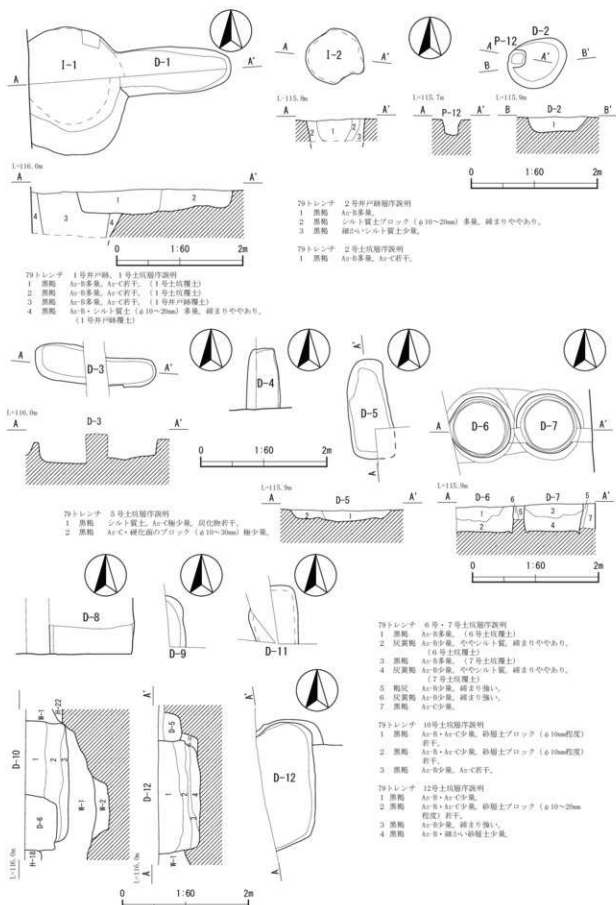
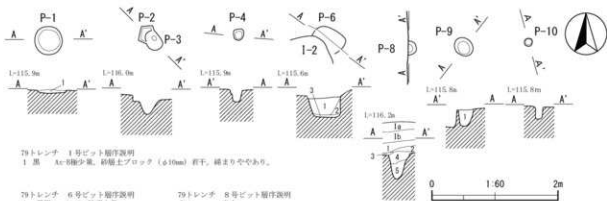


Fig. 23 79トレンチ各遺構跡

5 遺構と遺物



79トレンチ 1号ビット掘削説明

1 黒粘 黒C層少量、砂質土ブロック(φ10mm)若干、結まりややあり。

79トレンチ 6号ビット掘削説明

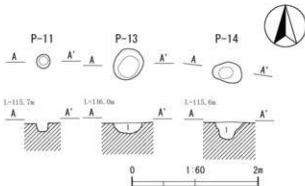
1 黒粘 黒C層少量、
2 黒粘 黒C層少量、
3 黒粘 砂質、結まりややあり。

79トレンチ 8号ビット掘削説明

1a 黄土
1b 黒粘 黒C層少量、
2 黒粘 黒C層少量、結まりややあり。
3 黒粘 結塊、結まり強い
4 黒粘 黒C層少量、結塊、砂質土少量、結まり強い
5 黒粘 黒C層少量、結塊、砂質土少量。

79トレンチ 9号ビット掘削説明

1 黒粘 黒C層少量、結まりややあり。



79トレンチ 13号ビット掘削説明

1 黒粘 黒B層少量、黒C層少量。

79トレンチ 14号ビット掘削説明

1 黒粘 砂質土ブロック(φ10mm)少量。

81トレンチ 3号型穴建物跡序説明

1 黄土
2 黒粘 黒B層少量、黒C層少量。
3 黒粘 黒B層少量。
4 黒粘 黒B層少量。
5 黒粘 黒B層少量、黒C層少量、結まり強い。
6 黒粘 結塊砂質、黒C層少量、結まり強い。
7 黒粘 黒B層少量、結まり強い。
8 黒粘 黒B層少量、炭化物若干。
9 黒粘 黒B層少量、シルト質土層少量。
10 黒粘 黒C層少量、砂質土ブロック(φ10~20mm) 極少量 (3号型穴建物跡覆土)
11 黒粘 黒C層少量、砂質土極少量 (3号型穴建物跡覆土)
12 黒粘 黒C層少量 (3号型穴建物跡覆土)
13 粘 結塊、砂質土少量、砂質土ブロック(φ10mm) 極少量、 (3号型穴建物跡覆土)
14 黒粘 粘土多量、炭化物少量、 (3号型穴建物跡覆土)
15 灰層 (3号型穴建物跡覆土)

L=115.7m



81トレンチ 3号型穴建物跡 2号ビット掘削説明

1 黒粘 黒C層少量。

L=115.7m

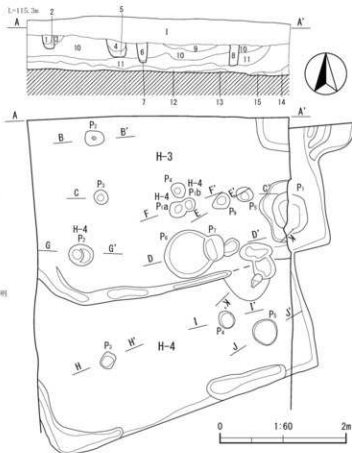


Fig. 24 79トレンチ各遺構01、80・81トレンチ各遺構(1)

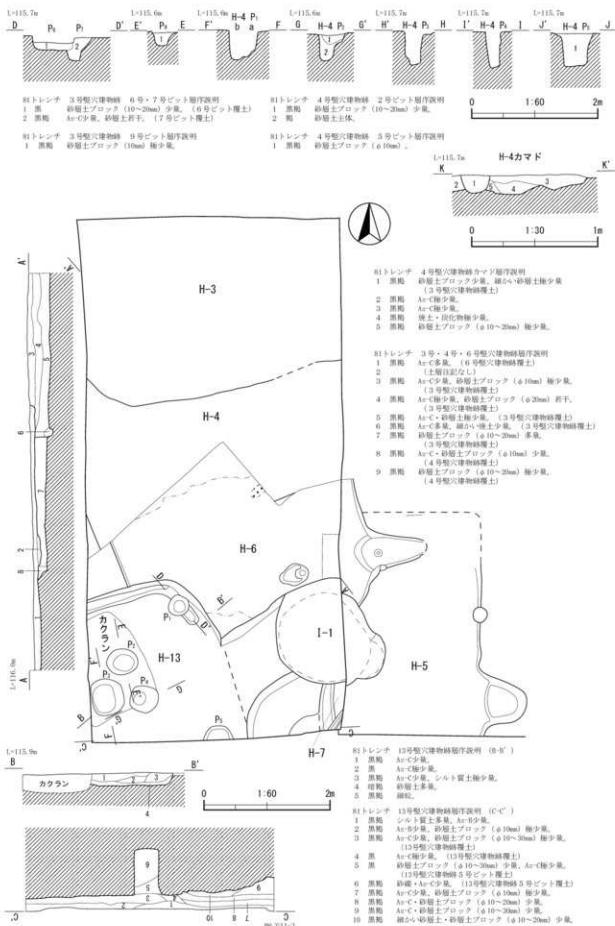


Fig. 25 80・81トレンチ各遺構(2)

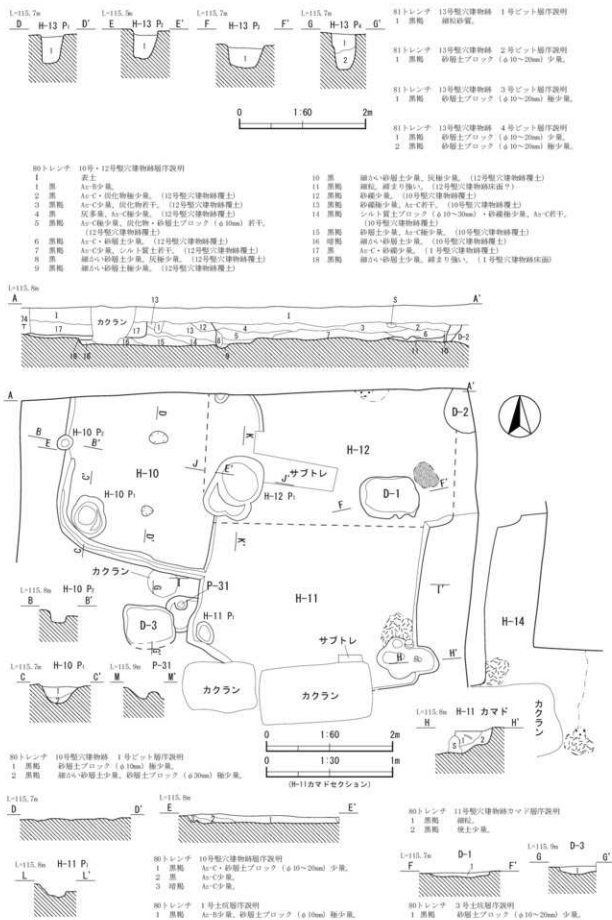


Fig. 26 80・81トレンチ各遺構(3)

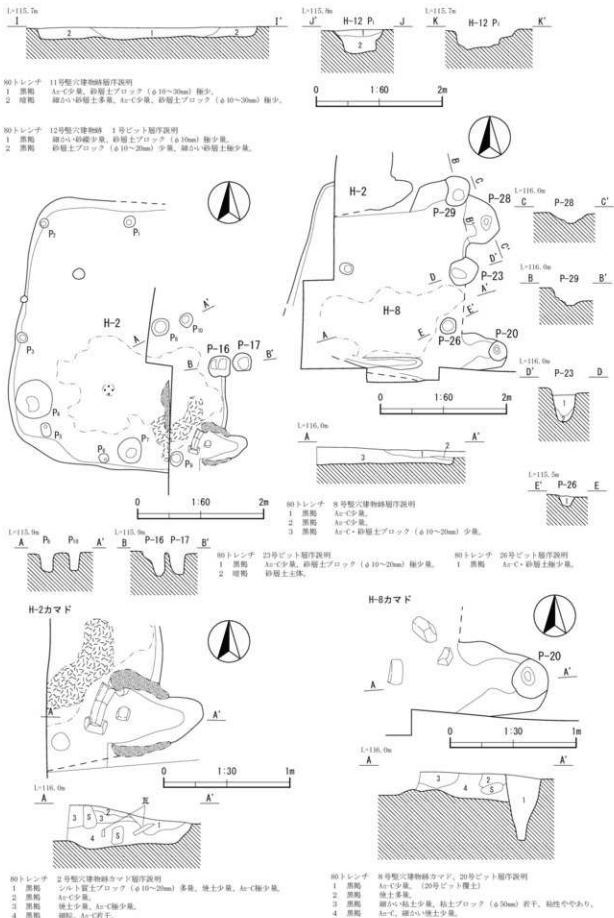
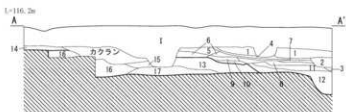


Fig. 27 80・81トレンチ各遺構(4)

80トレンチ 15号型穴建物跡、1号棟跡層序説明

- 1 面層 砂質、締まり強い。
- 2 に近い面層 砂質、締まりややあり。
- 3 に近い面層 砂質、締まり強い。
- 4 面層 砂質、締まり強い。
- 5 灰黄層 砂質、砂層土（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）極少量、締まり強い。
- 6 に近い面層 砂質、締り砂層土多量、砂層土（ $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ）少量、締まり強い。
- 7 灰黄層 砂質、締まり強い。
- 8 硬質 シルト質土、締まり強い。
- 9 灰黄層 砂質、締りい砂層土少量、締まり強い。

- 10 灰黄層 砂質、上部は砂層土多量、締まり強い。
- 11 面層 砂質、砂層土多量、砂層土ブロック（ $\phi 10\sim 30\text{mm}$ ）少量、締まり強い。
- 12 面層 砂質、Aa-B、砂層土ブロック（ $\phi 10\sim 50\text{mm}$ ）少量。
- 13 面層 砂質、Aa-B少量、砂層土ブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）・炭化物若干。
- 14 面層 Aa-B少量、Ac-C極少量、砂層土ブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）若干。
- 15 面層 Aa-C少量、砂層土極少量。
- 16 面層 Aa-C・砂層土ブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）少量。
- 17 面層 砂層土多量、下に沉。

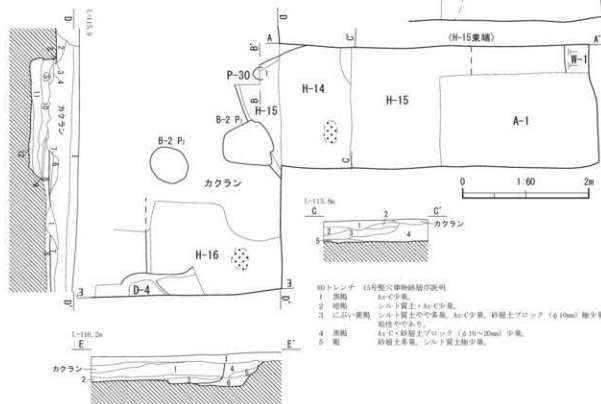
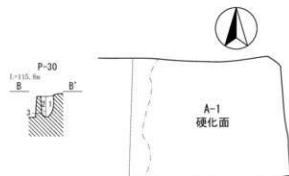


80トレンチ 30号ピット層序説明

- 1 面層 Aa-C少量、砂層土ブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）極少量。
- 2 面層 Aa-C・砂層土ブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）少量。
- 3 面層 締りい砂層土極少量。

80トレンチ 14号・15号・16号型穴建物跡層序説明

- 1 表土
- 1 面層 Aa-C少量。
- 2 面層 Aa-B少量、Aa-C若干。
- 3 硬質 (14号型穴建物跡層土)
- 4 硬質 砂質、Aa-C極少量、締まり強い。(14号型穴建物跡床面)
- 5 面 やや砂質、締まり強い。(14号型穴建物跡床面)
- 6 面層 Aa-C少量。(16号型穴建物跡層土)
- 7 面層 締りい砂層土・Aa-C少量。(16号型穴建物跡層土)
- 8 面層 砂層土少量、Aa-C若干、締まりややあり。(16号型穴建物跡床面)
- 9 面層 砂層土少量、Aa-C極少量、締まりややあり。(16号型穴建物跡床面)
- 10 面層 Aa-C少量、砂層土ブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）極少量 (15号型穴建物跡層土)
- 11 面層 Aa-C極少量、砂層土ブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）若干。(15号型穴建物跡層土)
- 12 面層 砂層土多量。(15号型穴建物跡層土)



80トレンチ 15号型穴建物跡層序説明

- 1 面層 Aa-C少量。
- 2 面層 シルト質土・Aa-C少量。
- 3 に近い面層 シルト質土やや多量、Aa-C少量、砂層土ブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）極少量、粘性ややあり。
- 4 面層 Aa-C・砂層土ブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）少量。
- 5 面 砂層土多量、シルト質土極少量。

80トレンチ 16号型穴建物跡、4号土坑層序説明

- 1 表土
- 1 面層 Aa-C・締りい砂層土少量。(16号型穴建物跡層土)
- 2 面層 砂層土少量、Aa-C・機土若干、締まりややあり。(16号型穴建物跡床面)
- 3 面層 砂層土・砂層土ブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）少量。(16号型穴建物跡層土)
- 4 面層 砂層土ブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）極少量、Aa-C若干。(4号土坑層土)
- 5 面層 硬質、シルト質土少量。(4号土坑層土)
- 6 面層 砂層土ブロック（ $\phi 10\sim 20\text{mm}$ ）少量。(4号土坑層土)

Fig. 28 80・81トレンチ各遺構(5)

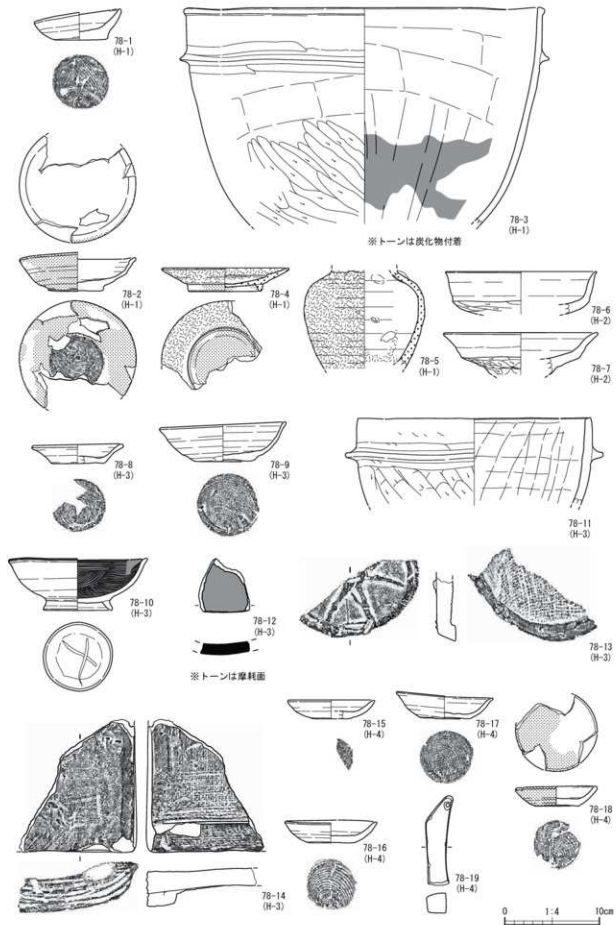


Fig. 30 遺物実測図 (78トレンチ①)

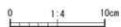
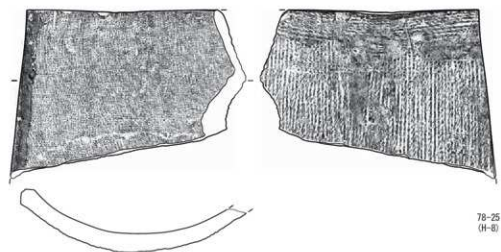
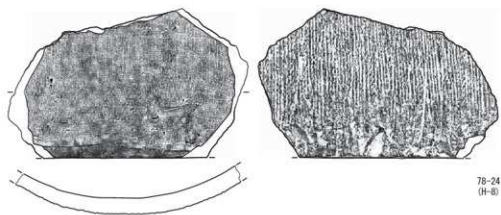
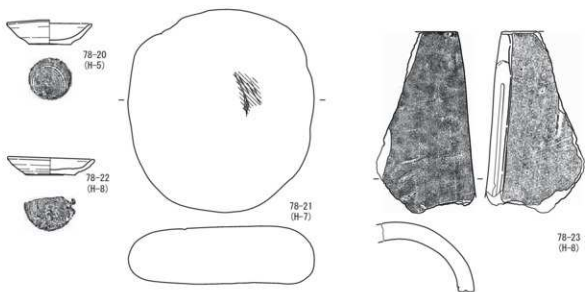


Fig. 31 遺物実測図 (78トレンチ②)

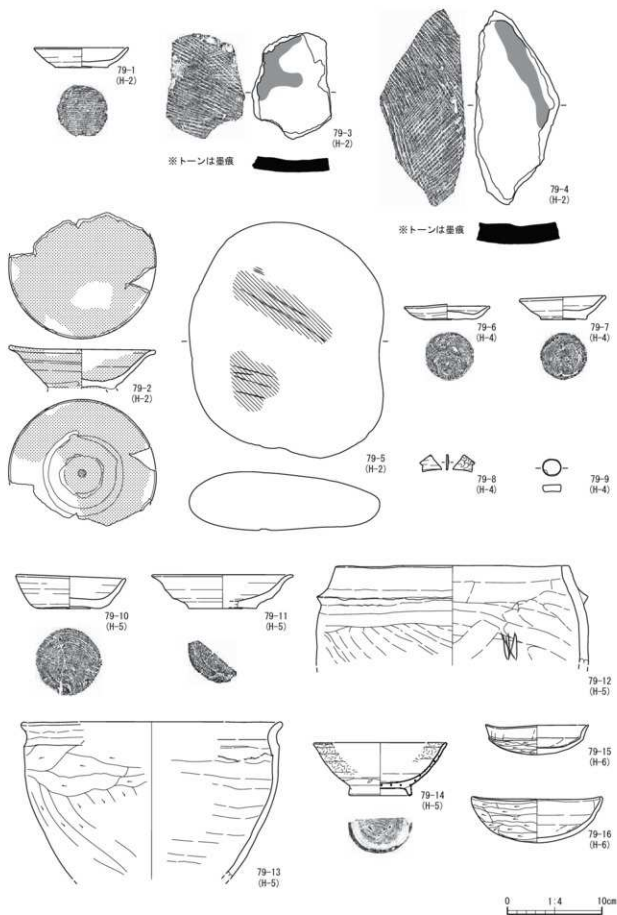


Fig. 32 遺物実測図 (79トレンチ①)

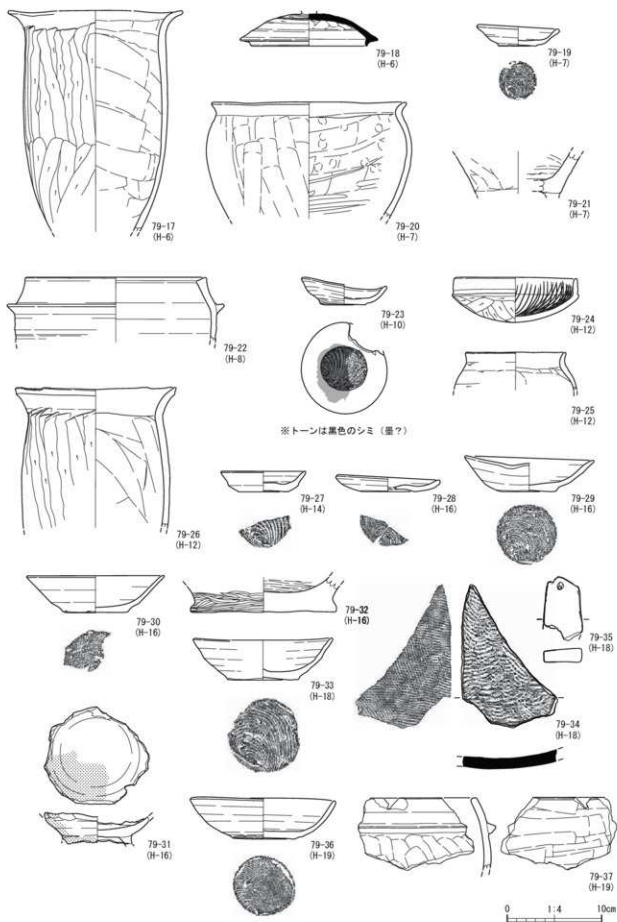


Fig. 33 遺物実測図 (79トレンチ②)

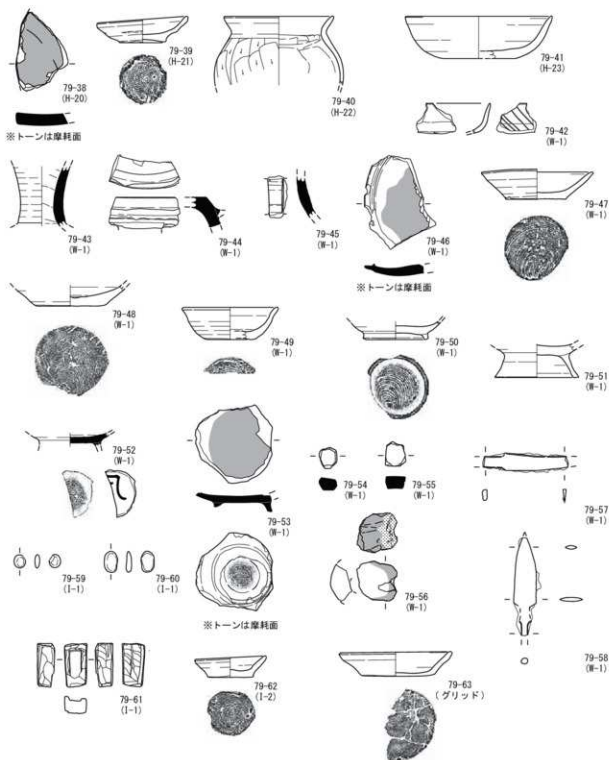
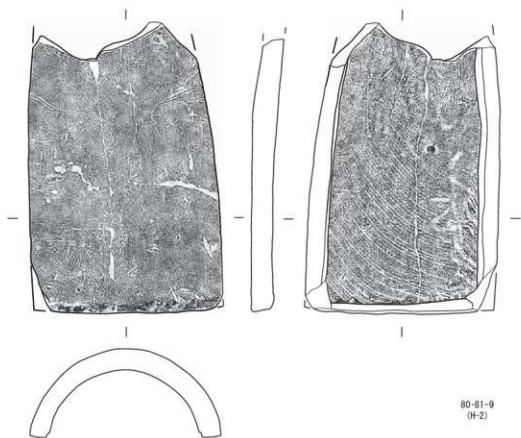
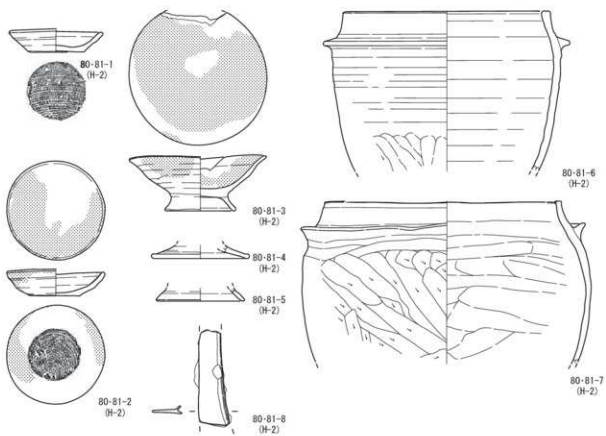


Fig. 34 遺物実測図 (79トレンチ③)



0 1:4 10cm

Fig. 35 遺物実測図 (80・81トレンチ①)

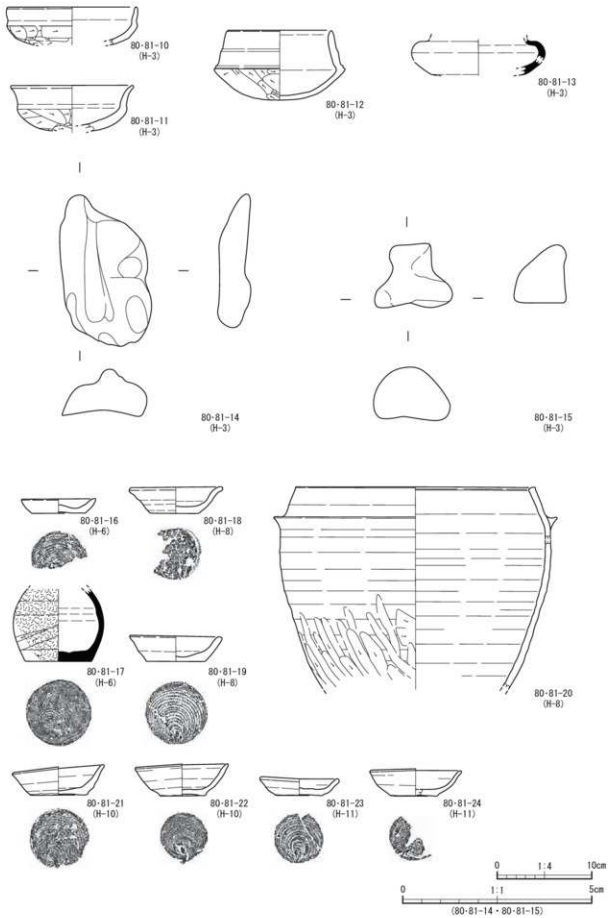


Fig. 36 遺物実測図 (80・81トレンチ②)

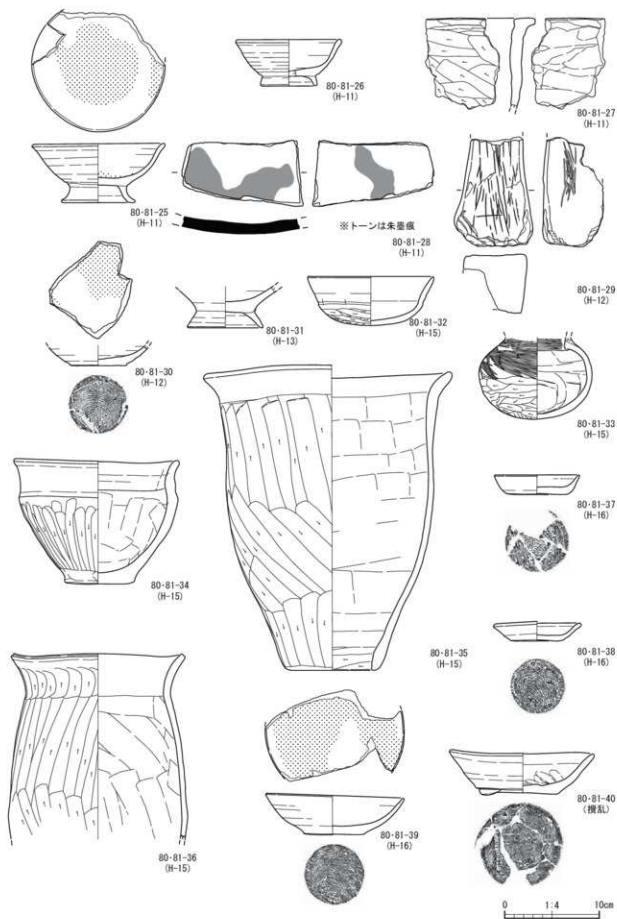


Fig. 37 遺物実測図 (80・81トレンチ③)

Tab. 5 遺構計測表

78トレンチ

2号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X235 Y229	50.0	(45.0)	54.0	円形	なし。	柱穴

4号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X235 Y229	73.0	55.0	47.0	楕円形	土師器小片、酸化焙成須恵器(坏・輪)破片、土師質土器(皿)破片、瓦(平瓦)破片、礎。	貯蔵穴
P ₂	X236 Y229	70.0	65.0	33.0	円形	酸化焙成(坏・輪・羽釜)破片、土師質土器(皿)、瓦(平瓦)破片、砥石。	

土坑

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
D-1	X235 Y229	73.0	—	30.0	楕円形	なし。	中世
D-2	X236 Y228	153.0	40.0	16.0	方形	須恵器(甗)破片、酸化焙成須恵器(坏・羽釜)、土師質土器(坏・皿)、瓦(平瓦)破片。	中世

土壌墓

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
DB-1	X236・237 Y228	122.0	78.0	—	方形	古銭。	中世。重複?

ピット

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P-1	X236 Y228	50.0	50.0	30.0	円形	土師器小片、礎。	古代

79トレンチ

2号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X236 Y230	55.0	50.0	24.0	円形	なし。	

5号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X236 Y233	—	—	31.5	円形?	瓦(丸瓦)破片、土師質土器小片。	
P ₂	X236 Y233	20.0	20.0	27.0	円形	土師器(坏)破片、土師質土器(輪)破片。	
P ₃	X236 Y232	[50.0]	[35.0]	19.0	円形?	なし。	礎含む
P ₄	X236 Y232・233	50.0	(35.0)	21.5	円形	なし。	灰多量に堆積
P ₅	X236 Y233	70.0	65.0	12.0	円形	なし。	床下土坑か
P ₆	X236 Y233	20.0	18.0	19.5	円形	なし。	
1号炉	X236 Y233	38.0	18.0	—	—	なし。	
2号炉	X236 Y232・233	85.0	40.0	—	—	土師質土器(皿)破片。	

10号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X237 Y233	48.0	(25.0)	37.0	円形	須恵器(甗)破片、土師質土器(皿)破片。	
P ₂	X237 Y233	23.0	20.0	5.0	円形	なし。	
P ₃	X237 Y233	28.0	28.0	4.0	円形	なし。	
P ₄	X237 Y233	58.0	45.0	32.0	円形	なし。	

12号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X236 Y232	78.0	64.0	72.5	方形	土師器(甗)破片。	貯蔵穴
P ₂	X236 Y232	45.0	(20.0)	(10.0)	円形	なし。	柱穴

15号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X236 Y232	18.0	18.0	50.0	円形	なし。	

23号窟六建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X238 Y232	23.0	23.0	40.0	円形	なし。	
P ₂	X238 Y232	23.0	20.0	28.0	円形	須恵器(甕)破片。	

井戸跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
I-1	X236 Y230・231	202.0	(155.0)	(63.5)	円形	土師器(甕)破片、須恵器(甕)破片、酸化塩化須恵器(椀・羽釜)破片、土師質土器(皿)破片、灰釉陶器小片、軟質土器(内耳簍・鉢)破片、石製品(基石・砥石・硯?)、織片。	近世
I-2	X236 Y232	92.0	90.0	(35.5)	円形	土師器小片、須恵器(甕)破片、土師質土器(杯・椀)破片、中世土師器(皿)、織片。	近世

土坑

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
D-1	X236 Y231	(175.0)	75.0	34.0	楕円形	なし。	中世
D-2	X236・237 Y231	95.0	78.0	21.0	楕円形	なし。	中世
D-3	X237・238 Y231	192.0	60.0	35.0	楕円形	なし。	中世
D-4	X238 Y233	95.0	50.0	23.0	長方形	酸化塩化須恵器小片、土師質土器(杯・羽釜?)破片、瓦(平瓦)破片。	中世
D-5	X238 Y232	158.0	70.0	19.0	長方形	土師器(杯)破片、須恵器(甕)破片、酸化塩化須恵器小片、土師質土器小片。	中世
D-6	X238 Y232	95.0	95.0	40.0	円形	土師質土器(椀・羽釜?)破片、壺体破片、軟質土器破片、近世以後の陶磁器破片。	近世以後
D-7	X238 Y232	95.0	95.0	40.0	円形	酸化塩化須恵器(杯・椀・羽釜?)破片、須恵器(甕)破片、灰釉陶器小片、軟質土器小片、陶器小片、鉄製品(釘?)	近世以後
D-8	X238 Y233	(35.0)	185.0	45.5	円形	酸化塩化須恵器・土師質土器小片。	近世以後
D-9	X238 Y232	(80.0)	(25.0)	24.0	長方形	土師質土器小片、軟質土器(内耳簍)破片、陶器小片。	中世
D-10	X238 Y231・232	(190.0)	—	70.0	長方形	酸化塩化須恵器・土師質土器小片。	近世以後
D-11	X238 Y232	(90.0)	(78.0)	(10.0)	長方形	土師質土器小片。	中世
D-12	X238 Y232	[203.0]	(110.0)	65.0	長方形	土師器(杯)破片、須恵器(甕?)破片、土師質土器小片、灰釉陶器(椀?)破片。	近世以後

ピット

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P-1	X236・237 Y231	45.0	45.0	3.0	円形	土師器(杯)破片。	中世
P-2	X237 Y230	25.0	15.0	8.5	方形	なし。	中世
P-3	X237 Y230	30.0	25.0	24.0	楕円形	なし。	中世
P-4	X236 Y230	18.0	15.0	21.0	円形	須恵器・土師質土器小片。	中世
P-5	X237 Y231	60.0	(55.0)	40.0	楕円形	須恵器・土師質土器小片。	古代
P-6	X236 Y232	50.0	(15.0)	30.0	楕円形	土師器(杯)破片、土師質土器(皿)破片、須恵器小片。	古代
P-7	X236 Y230	35.0	(15.0)	90.0	円形	なし。	古代
P-8	X236 Y231	20.0	(12.0)	45.0	円形	なし。	古代
P-9	X236 Y230	30.0	27.0	28.5	楕円形	土師器・須恵器小片。	中世
P-10	X237 Y231	13.0	13.0	18.5	円形	なし。	中世
P-11	X237 Y231	20.0	20.0	13.0	円形	なし。	中世
P-12	X236 Y231	28.0	25.0	43.5	方形	なし。	中世
P-13	X238 Y230・231	50.0	45.0	19.5	円形	軟質土器?(不明)小片。	中世以降
P-14	X238 Y232	45.0	30.0	24.5	楕円形	土師器(杯)破片、酸化塩化須恵器(椀)破片、須恵器(甕)破片、黒色土器(椀)破片。	

80・81トレンチ
1号竪立柱建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X243 Y222	20.0	20.0	33.5	円形	なし。	
P ₂	X243・244 Y223	20.0	20.0	8.5	円形	なし。	
P ₃	X244 Y223	58.0	25.0	29.0	円形	なし。	3基の重複
P ₄	X244 Y222	25.0	22.0	29.0	円形	土師質土器(皿)破片。	

2号竪立柱建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X244 Y222	(80.0)	78.0	35.0	方形	なし。	
P ₂	X244 Y222・223	64.0	54.0	29.5	円形	なし。	
P ₃	X244 Y223	(425.0)	84.0	80.0	(方形)	土師器(杯・甕)破片、須恵器(甕)破片。	布張り状
P ₄	X243 Y223			48.0	(不整形)	須恵器(甕)破片。	布張り状
P ₅	X243 Y223			48.0	(方形)	土師器(杯・甕)破片。	布張り状

2号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₉	X243 Y222	30.0	28.0	28.5	円形	土師質土器(皿)破片。	
P ₉	X243 Y222	25.0	20.0	9.0	円形	なし。	
P ₁₀	X243 Y222	20.0	20.0	28.0	円形	土師器(杯)破片、土師質土器(杯)破片。	

3号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X242 Y221	(60.0)	(50.0)	66.5	方形	土師質土器小片。	貯蔵穴か
P ₂	X241 Y221	30.0	24.0	31.5	円形	なし。	断面漏斗状
P ₃	X241 Y221	22.0	22.0	57.0	円形	なし。	
P ₄	X241 Y221	25.0	20.0	37.0	円形	なし。	
P ₅	X242 Y221	27.0	22.0	44.5	円形	なし。	
P ₆	X241 Y221・222	75.0	—	25.5	円形	土師器(杯)破片、瓦礫石。	床下土坑
P ₇	X241 Y221・222	40.0	35.0	39.0	楕円形	なし。	
P ₈	—	—	—	—	—	なし。	H-4のP ₇ へ変更
P ₉	X241・242 Y221	30.0	25.0	21.0	円形	なし。	

4号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁ a	X241 Y221	20.0	—	46.5	円形	なし。	
P ₁ b	X241 Y221	25.0	—	40.5	円形	なし。	
P ₂	X241 Y221・222	40.0	33.0	44.5	円形	なし。	H-3のP ₁ を変更
P ₃	X241 Y222	25.0	20.0	55.0	円形	なし。	
P ₄	X241・242 Y222	28.0	25.0	58.5	円形	なし。	
P ₅	X242 Y222	40.0	40.0	53.0	円形	土師器小片。	

6号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X242 Y222	45.0	33.0	26.5	円形	なし。	

8号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X243 Y223	22.0	18.0	34.0	円形	土師器小片。	

10号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X243 Y221・222	65.0	55.0	34.5	円形	なし。	
P ₂	X243 Y221	25.0	25.0	21.0	円形	なし。	

11号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X243 Y222	[35.0]	25.0	6.5	精円形	なし。	

12号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X243・244 Y221	80.0	80.0	33.0	円形	土師質土器 (碗) 破片。	

13号竪穴建物跡

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P ₁	X241 Y222・223	33.0	30.0	51.0	方形	土師器 (坏・甕) 破片。土師器小片。酸火焙焼成須恵器 (坏・碗) 破片。黒色土器 (碗) 破片。	
P ₂	X241 Y223	50.0	40.0	[57.0]	円形	土師器 (甕) 破片。酸火焙焼成須恵器 (羽釜) 破片。	
P ₃	X241 Y223	55.0	50.0	[53.0]	円形	土師器 (坏・甕) 破片。	
P ₄	X241 Y223	45.0	40.0	[57.0]	円形	なし。	
P ₅	X241 Y223	50.0	—	74.0	円形	土師器 (坏・甕) 破片。	

井戸跡

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備 考
I-1	X242 Y222・223	165.0	(108.0)	(48.0)	円形	土師器 (甕) 破片。須恵器 (蓋・甕) 破片。酸火焙焼成須恵器 (碗・羽釜) 破片。黒色土器 (碗) 破片。軟質土器 (焙烙等) 破片。陶器 (磁鉢等) 破片。磁器 (皿・碗等) 破片。	

土坑

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備 考
D-1	X244 Y221	93.0	65.0	8.5	長方形	なし。	中世
D-2	X244 Y221	(70.0)	(60.0)	9.0	長方形?	なし。	中世
D-3	X243 Y222	80.0	(60.0)	12.5	長方形	なし。	中・近世
D-4	X244 Y223	[80.0]	(35.0)	32.0	方形?	土師器 (坏) 破片。酸火焙焼成須恵器 (坏) 破片。	古代

ピット

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	主な出土遺物	備 考
P-16	X243 Y222	35.0	30.0	36.0	円形	なし。	古代
P-17	X243 Y222	30.0	30.0	32.5	円形	土師器 (坏・甕) 破片。	古代
P-18	—	—	—	—	—	—	欠番
P-19	X244 Y223	38.0	32.0	51.5	円形	土師器 (坏) 破片。	古代
P-20	X243 Y223	30.0	30.0	105.0	円形	須恵器 (蓋) 破片。酸火焙焼成須恵器 (坏) 破片。磁石。	古代
P-21	—	—	—	—	—	—	B-2のPに包含
P-22	X244 Y223	80.0	50.0	57.5	円形	なし。	古代
P-23	X243 Y223	45.0	40.0	69.0	円形	土師器・酸火焙焼成須恵器小片。	古代
P-24	X244 Y223	30.0	25.0	42.5	精円形	なし。	古代
P-25	X244 Y223	25.0	25.0	18.0	精円形	土師器 (甕) 破片。	古代
P-26	X243 Y223	23.0	20.0	16.5	円形	なし。	古代
P-27	X243 Y223	23.0	20.0	16.5	円形	なし。	古代
P-28	X243 Y222	(60.0)	(40.0)	18.5	精円形	なし。	古代
P-29	X243 Y222	(45.0)	(45.0)	18.5	円形	なし。	古代
P-30	X244 Y222	20.0	—	32.0	円形	なし。	
P-31	X243 Y222	20.0	20.0	18.5	円形	なし。	中世?

79トレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底径 ③高さ ④つまみ径	①胎土 ②色調	③焼成 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考	
79-1	H-2 床直	土師質 皿	① 10.0 ② 5.6	② 2.1	①細粒 ③灰白	②良好 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は静止糸切り未調整。	7	
79-2	H-2 床直	土師質 椀	① 15.6 ③ 一	②(4.6)	①細粒 ③にぶい黄緑	②良好 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横ナデで調整。内外面が薄く底が凸。	1,9 10	
79-3	H-2 覆土	須恵器 転用瓿	長(11.4) 幅(8.4) 厚(1.6)	①細粒 ③黄灰	②良好 ④破片?	須恵器大甕の体部の破片の転用瓿。内面(使用面)は当て具が残る程度に摩耗し、一部に黒痕と考えられる黒色のシミが残る。	12	79-4と 接合	
79-4	H-2 覆土	須恵器 転用瓿	長(20.7) 幅(9.0) 厚(2.2)	①細粒 ③黄灰	②良好 ④破片?	須恵器大甕の体部の破片の転用瓿。内面(使用面)は当て具が残る程度に摩耗し、一部に黒痕と考えられる黒色のシミが残る。	4	79-3と 接合	
79-5	H-2 床直	石製品 砥石	長 25.0 幅 20.6 厚 6.2			安山岩製の川原石。扁平な面の一部に使用痕(面的な摩耗面と線状の擦痕)が認められた。	8		
79-6	H-4 床直	土師質 皿	① 9.1 ③ 5.2	② 1.6	①細粒 ③にぶい橙	②良好 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。	2	
79-7	H-4 床直	土師質 皿	① 9.2 ③ 4.9	② 2.6	①細粒 ③浅黄橙	②良好 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。	1	
79-8	H-4 覆土	銅製品 不明	長(1.8) 厚(0.2)	幅(2.3)		銅製品の破片。銅線の破片か?			
79-9	H-4 覆土	土製品 円盤	長 1.8 幅 2.0 厚 0.7		①細粒 ③灰白	②良好 ④完形	土師質土器の破片の周囲を磨ることで円形に加工したもの。		
79-10	H-5 床直	土師質 杯	① 11.7 ③ 6.9	② 3.6	①細粒 ③浅黄橙	②良好 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。	5	
79-11	H-5 床直	土師質 杯	①[15.0] ③[7.2]	② 3.6	①細粒(中粒含) ③にぶい橙	②良好 ④1/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。		
79-12	H-5 床直	土師質 羽釜	①[24.8] ③ 一	②(10.5)	①中粒 ③にぶい黄	②良好 ④破片	口縁部付の破片。内面は緩い斜方向の笠ナデで整形。外面は横ナデで整形し、髭を接着後、口縁部内外面とともに回転横ナデで調整。	6	
79-13	H-5 床直	土師質 土釜	①[27.7] ③ 一	②(16.6)	①中粒 ③灰黄	②良好 ④破片	口縁部から体部にかけての破片。体部内面及び口縁部内外面は回転横ナデで調整。胴部外面は斜方向の笠ナデで整形。体部内面に発成後の線刻あり。	3,11	
79-14	H-5 カマド	灰輪陶器 椀	①[14.1] ③ 6.7	② 5.6	①細粒 ③灰白	②良好 ④1/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横ナデで調整。釉薬は塗けがけ。		
79-15	H-6 床直	土師器 杯	① 10.9 ③ 一	② 3.2	①細粒 ③橙	②良好 ④3/4	体部外面は笠ナデで整形。体部内面及び口縁部内外面は横ナデで調整。	3	
79-16	H-6 床直	土師器 杯	① 14.0 ③ 一	② 4.9	①細粒 ③橙	②良好 ④ほぼ完形	体部及び口縁部外面は笠ナデで整形。体部及び口縁部内面は横ナデで調整。	4	
79-17	H-6 床直	土師器 甕	① 18.6 ③ 一	②(23.3)	①細粒 ③にぶい黄緑	②良好 ④2/3	口縁部内外面を横ナデで調整。体部外面は縦方向の笠ナデで整形し、体部内面は緩い斜方向の笠ナデで整形。	1	
79-18	H-6 床直	須恵器 蓋	①[14.6] ③ 一	②(3.4)	①細粒 ③灰白	②良好 ④1/3	外面は回転横ナデの後に天井部を回転笠ナデで整形。内面は天井部をナデで整形し口縁部を回転横ナデで整形。	5	
79-19	H-7 床直	土師質 皿	① 8.7 ③ 4.0	② 2.3	①細粒 ③明赤褐	②良好 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。	1	
79-20	H-7 カマド	土師質 土釜	①[20.6] ③ 一	②(12.3)	①細粒 ③にぶい黄緑	②良好 ④破片	体部内面は緩い斜方向の笠ナデで整形。口縁部内外面は回転横ナデで調整。	2	
79-21	H-7 覆土	土師質 鉢	① 一 ③[9.2]	②(4.4)	①細粒 ③灰黄橙	②普通 ④底部付近破片	底部から体部下にかけての破片。体部内外面は緩い斜方向のナデで調整。底部は高台を接着後回転横ナデで調整。		
79-22	H-8 床直	須恵器 羽釜	①[19.2] ③ 一	②(6.9)	①細粒 ③にぶい黄緑	②良好 ④破片	口縁部付の破片。内外面ともに回転横ナデで調整。髭は接着後回転横ナデで調整。	1	酸化腐
79-23	H-10 床直	土師質 皿	① 9.1 ③ 4.9	② 2.9	①細粒 ③灰黄	②良好 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。底部外面の一部が黒色化。	3	
79-24	H-12 床直	土師器 杯	① 13.1 ③ 一	② 4.8	①細粒 ③にぶい橙	②普通 ④7/8	体部外面は笠ナデで整形。体部内面及び口縁部内外面は横ナデで調整。	1	
79-25	H-12 覆土	土師器 小甕	①[10.6] ③ 一	②(4.0)	①細粒 ③にぶい黄	②良好 ④破片	口縁部付の破片。体部内外面ともに横ナデで整形。口縁部は横ナデで調整。		
79-26	H-12 床直	土師器 甕	①[17.0] ③ 一	②(14.9)	①細粒(中粒含) ③にぶい黄緑	②良好 ④破片	体部から口縁部にかけての破片。内面は体部を斜方向の笠ナデで整形し、口縁部を横ナデで調整。外面は口縁部を横ナデで調整し、体部を縦方向の笠ナデで整形。	2	
79-27	H-14 床直	土師質 皿	①[9.0] ③ 5.4	② 2.2	①細粒 ③浅黄橙	②良好 ④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。	2	
79-28	H-16 覆土	土師質 皿	①[11.0] ③[6.0]	② 1.8	①細粒(中粒含) ③にぶい黄緑	②良好 ④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。		
79-29	H-16 床直	土師質 杯	① 13.7 ③ 6.4	② 3.8	①中粒 ③にぶい橙	②普通 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。	3,5	胎土に 赤褐色 粒を含む

番号	出土遺構 部位	器種名	①口径 ②底径 ③[14.6] ④[6.9]	②器高 ④つまみ径	①胎土 ②色調 ③にぶい度	②焼成 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
79-30	H-16 覆土	土師質 杯	① [14.6] ③ [6.9]	② 3.9	①細粒 ③にぶい度	②良好 ④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り未調整。		胎土に 赤褐色 粒含む
79-31	H-16 カマド	土師質 椀	① — ③ —	② (3.4)	①細粒 ③にぶい度	②良好 ④底部のみ	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は高台を接する後に回転横ナデで調整。体部内面と高台部内面に薄く黒が付着。口縁部及び高台部端は打ち欠く。	カマ ド6	
79-32	H-16 カマド	土師質 大甕?	① — ③ [15.4]	② (3.7)	①中粒・粗粒 ③にぶい黄橙	②普通 ④底部片	底部の破片。内面はナデで調整。外面は磨きにより調整。底面は未調整(指頭圧痕のような連続的な窪みあり)。	カマ ド5	
79-33	H-18 覆土	須恵器 杯	① [14.8] ③ 7.6	② 4.4	①細粒 ③灰黄褐	②良好 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。	2	酸化焰
79-34	H-18 床直	須恵器 転用瓶	① [15.1] ③ 2.9	② (10.1)	①細粒 ③灰	②良好 ④破片	須恵器大甕の体部破片の内面の全面が当てられ痕を残す程度に摩耗していることから転用瓶とした。	1	
79-35	H-18 床直	石製品 砥石	長(6.7) 幅(4.2)	厚(1.5)	流紋岩製か。端部に孔を穿つ。反対側の端部は折れ。全体的に被熱により赤茶色く変色。				
79-36	H-19 覆土	土師質 杯	① 15.4 ③ 6.5	② 4.5	①細粒 ③粗粒	②良好 ④4/5	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。	5	胎土に 赤褐色 粒含む
79-37	H-19 床直	土師質 羽釜	① — ③ —	② (7.6)	①細粒 ③にぶい度	②良好 ④破片	口縁部付近の破片。内面は縦方向の罫ナデで整形。外面は縦方向の罫ナデで整形の後に罫を接着し口縁部とともに回転横ナデで調整。	3	
79-38	H-20 覆土	須恵器 転用瓶	長(8.3) 幅(5.5) 厚(1.4)		①細粒 ③灰	②良好 ④破片	須恵器大甕の体部破片の転用瓶。内面全体が使用により摩耗。		
79-39	H-21 床直	土師質 皿	① 9.7 ③ 5.0	② 2.8	①中粒 ③にぶい黄橙	②良好 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。	1	
79-40	H-22 床直	土師器 小甕	① [11.6] ③ —	② (7.3)	①細粒(中粒含) ③にぶい黄橙	②良好 ④口縁付近	口縁部から体部にかけての破片。体部外面は縦方向の罫削りで整形。体部内面は急な斜方向のナデで調整。口縁部内外面は回転横ナデで調整。	1	
79-41	H-23 覆土	須恵器 杯	① [15.6] ③ [7.6]	② [4.5]	①細粒 ③灰黄褐	②不良 ④1/5	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部の状況は焼成不良のため不明。		酸化焰
79-42	W-1 覆土	土師質 杯	① — ③ —	② (3.2)	①細粒 ③にぶい度	②良好 ④破片	底部から口縁部にかけての破片。底部・体部の外面は罫削りで整形し。内面はナデによる整形の後に放射状細文を穿す。口縁部は急な斜方向のナデにより整形。		
79-43	W-1 覆土	須恵器 長甕	① — ③ —	② (6.3)	①細粒 ③灰白	②良好 ④頸部破片	頸部の破片。回転横ナデで整形。		
79-44	W-1 覆土	須恵器 片面瓶	① — ③ —	② (3.3)	①細粒 ③灰	②良好 ④破片	膝部及び外へ突出した外堤(欠損)部分の破片。透かし孔が認められる。		
79-45	W-1 覆土	須恵器 片面瓶?	① — ③ —	② (4.4)	①細粒 ③灰黄	②良好 ④破片	膝部の破片。透かし孔が認められる。回転横ナデで整形。		
79-46	W-1 覆土	須恵器 転用瓶	長(9.9) 幅(7.6) 厚(1.2)		①細粒 ③灰	②良好 ④1/3	須恵器蓋の転用瓶。内面が使用により摩耗。須恵器蓋は回転横ナデで整形し、外面天井部と同端部は回転罫削りで整形。		
79-47	W-1 覆土	土師質 杯	① [11.8] ③ 6.5	② 3.2	①細粒 ③にぶい度	②良好 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(左回転)未調整。	11	胎土に 赤褐色 粒含む
79-48	W-1 覆土	土師質 杯	① — ③ 7.6	② (2.2)	①細粒 ③にぶい黄橙	②良好 ④底部片	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整。	10	
79-49	W-1 覆土	土師質 杯	① [10.2] ③ [5.7]	② 3.4	①細粒 ③粗粒	②良好 ④1/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り未調整。		
79-50	W-1 覆土	土師質 椀	① — ③ 6.9	② (1.9)	①細粒 ③灰黄	②良好 ④底部片	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整で高台を接着し回転横ナデで整形。		
79-51	W-1 覆土	土師質 椀	① — ③ [8.9]	② (3.6)	①細粒(中粒含) ③にぶい黄橙	②良好 ④底部付近	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は高台を接着し回転横ナデで調整。		
79-52	W-1 覆土	須恵器 椀	① — ③ —	② (1.4)	①細粒 ③灰白	②良好 ④底部片	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り(右回転)未調整で高台を接着し回転横ナデで整形。底部外面に墨書あり。(文字は不明)		
79-53	W-1 覆土	須恵器 転用瓶	長(8.3) 幅(8.2) 厚(2.6)		①細粒 ③灰	②良好 ④底部片 (完形?)	須恵器椀の転用瓶。体部内面が使用により摩耗。椀自体は体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横ナデで調整。	7	
79-54	W-1 覆土	須恵器 転用品	長(2.2) 幅(1.3) 厚(1.3)		①細粒 ③黒	②良好 ④完形	須恵器大甕の破片の周辺を打ち欠き円盤型に整形したもの。		
79-55	W-1 覆土	須恵器 転用品	長(2.6) 幅(2.2) 厚(1.3)		①細粒 ③灰・黒	②良好 ④完形?	須恵器大甕の破片の周辺を打ち欠き円盤型に整形したもの。		
79-56	W-1 覆土	羽口	長(4.3) 幅(4.2) 厚(2.3)		①細粒 ③粗粒	②良好 ④破片	羽口の破片。		
79-57	W-1 覆土	鉄製品 刀子	全長(9.0) 刃部幅1.9 基部幅1.2	同厚0.3 同厚0.5			刃部先端・基部末端を欠損。	1	

番号	出土遺構 部位	器種名	①口径 ③底径	②器高 ④つまみ径	①胎土 ③色調	②焼成 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
79-58	W-1 覆土	鉄製品 覆土	全長(10.3) 刃部幅2.4 基部幅0.7	同厚0.4 同厚0.6			刃部先端・基部末端を欠損。	2	
79-59	1-1 覆土	石製品 礫石	長 1.4 厚 0.5	幅 1.2			黒色の頁岩の円鏡。		
79-60	1-1 覆土	石製品 礫石?	長 2.2 厚 0.6	幅 1.4			黒色の頁岩?の円鏡。形状は扁平な楕円形。		
79-61	1-1 覆土	石製品 礫?	長 4.6 厚 1.8	幅 2.4			淡い緑色の切石(礫石か)を彫刻し現状の形状に仕上げたもの。		
79-62	1-2 覆土	土師質 かわらけ	① 7.6 ③ 4.9	② 2.3		①細粒 ②良好 ③にぶい黄褐色 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(左回転)未調整。		
79-63	グリッド	土師質 埴	① 12.0 ③ 7.9	② 2.6		①細粒 ②良好 ③粗 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(左回転)未調整。		X288, Y231 胎土に 赤褐色 粒含む

80・81トレンチ

番号	出土遺構 部位	器種名	①口径 ③底径	②器高 ④つまみ径	①胎土 ③色調	②焼成 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
80・81 -1	H-2 床直	土師質 皿	① 10.0 ③ 6.1	② 2.5		①細粒 ②良好 ③浅黄褐色 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は静止系切り未調整。	11	
80・81 -2	H-2 覆土	土師質 皿	① 10.4 ③ 5.5	② 2.8		①細粒 ②良好 ③にぶい濁 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。口縁部から体部にかけて内外面に條が付着。	21	
80・81 -3	H-2 カマド	須恵器 椀	① 14.6 ③ 7.5	② 5.9		①細粒 ②良好 ③にぶい濁④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は高台を接着後に回転横ナデで調整。口縁部から体部にかけて内外面に條が付着。	24, 29 カマド1	酸化燻
80・81 -4	H-2 カマド	土師質 高坪	① — ③[10.4]	②(1.4)		①細粒 ②良好 ③にぶい黄褐色④破片	脚部の端部と考えられる破片。内外面ともに回転横ナデで整形。	18	胎土に 赤褐色 粒含む
80・81 -5	H-2 覆土	土師質 高坪	① — ③[9.4]	②(1.4)		①細粒 ②良好 ③灰黄濁 ④破片	脚部の端部と考えられる破片。内外面ともに回転横ナデで整形。		
80・81 -6	H-2 カマド	須恵器 羽釜	①[22.0] ③ —	②(16.9)		①細粒 ②良好 ③粗 ④口縁・体部残	口縁部から体部にかけての破片。体部及び口縁部は内外面ともに回転横ナデ。体部外周下部はその後接削りで整形。鈎は接着後に回転横ナデで調整。	2,13	酸化燻
80・81 -7	H-2 床直	須恵器 羽釜	①[25.1] ③ —	②(17.2)		①中粒 ②良好 ③にぶい赤濁 ④口縁・体部残	口縁部から体部にかけての破片。体部内面は横方向の篋ナデで調整。体部外周は斜方向の篋削りで整形し鈎を接着後に回転横ナデで調整。口縁部内外面は回転横ナデで整形。	5	酸化燻
80・81 -8	H-2 カマド	鉄製品 籠	長(10.0) 厚(0.5)	幅(3.2)			櫛方部の破片(柄に装着する部位)か。	14	
80・81 -9	H-2 カマド	瓦 丸瓦	長(30.8) 厚 2.7	幅[20.0]		①中粒 ②良好 ③にぶい黄濁 ④4/5	完形に近い丸瓦。凹面は布目、凸面は縦方向の篋削り及びナデで調整。端面は未加工。	3,15 17	
80・81 -10	H-3 覆土	土師質 埴	①[13.6] ③ —	②(4.0)		①細粒 ②良好 ③粗 ④1/5	体部外周は篋削りで整形。体部内面及び口縁部内外面は横ナデで調整。		
80・81 -11	H-3 覆土	土師質 埴	①[12.8] ③ —	②(4.8)		①中粒 ②良好 ③赤濁 ④1/4	体部外周は篋削りで整形。体部内面及び口縁部内外面は横ナデで調整。		
80・81 -12	H-3 覆土	土師質 埴	①[10.9] ③受口径[13.9]	② 7.4		①細粒 ②良好 ③灰黄濁 ④2/5	体部外周は篋削りで整形。体部内面及び口縁部内外面は横ナデで調整。		
80・81 -13	H-3 覆土	須恵器 短須恵	①[14.2] ③ —	②(3.8)		①細粒 ②良好 ③灰濁 ④1/5	体部の破片。回転横ナデで整形。		
80・81 -14	H-3 覆土	礫	長 4.0 厚 1.5	幅 2.4 重 7.4g			砂岩の礫で生物痕あり。被熱により赤化している。		
80・81 -15	H-3 覆土	礫	長 2.1 厚 1.4	幅 1.7 重 2.0g			砂岩の礫で生物痕あり。被熱により赤化している。		
80・81 -16	H-6 床直	土師質 皿	① 7.8 ③ 5.6	② 1.5		①細粒 ②良好 ③浅黄褐色 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。		
80・81 -17	H-6 床直	須恵器 小皿	①体部幅[9.6] ②(7.6) ③ 7.0			①細粒(緻密)②良好 ③灰濁 ④2/3	体部の内外面は回転横ナデで整形。底部からの立ち上り外面は篋ナデで調整。底部は回転系切り(右回転)未調整。	2,3	
80・81 -18	H-8 カマド	須恵器 埴	① 10.0 ③ 5.0	② 2.8		①細粒 ②良好 ③にぶい濁④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。	5	酸化燻
80・81 -19	H-8 カマド	須恵器 埴	① 9.8 ③ 6.2	② 2.8		①細粒 ②良好 ③粗 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。	13	酸化燻
80・81 -20	H-8 カマド	須恵器 羽釜	①[25.4] ③ —	②[21.4]		①細粒 ②良好 ③にぶい黄濁・粗 ④口縁・体部	体部外周は鈎接着後に回転横ナデ後に下部のみ篋削りで整形。体部内面及び口縁部は回転横ナデで整形。	2,3, 4,7	酸化燻
80・81 -21	H-10 床直	土師質 埴	① 9.8 ③ 6.2	② 3.2		①細粒 ②普通 ③にぶい黄濁 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。	1	
80・81 -22	H-10 床直	土師質 埴	① 9.9 ③ 5.0	② 3.4		①細粒 ②良好 ③浅黄濁 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。	2	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ③底径	②器高 ④つまみ径	①胎土 ③色調	②焼成 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
80-81 -23	H-11 床直	土師質 皿	① 8.4 ③ 5.2	② 2.0	①細粒 ③にぶい粒	②良好 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。		
80-81 -24	H-11 カマド	土師質 坪	① 9.8 ③ 5.0	② 2.9	①細粒 ③にぶい黄粒	②良好 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。	カマ ド5	
80-81 -25	H-11 床直	土師質 椀	① 14.1 ③ 7.8	② 6.3	①細粒 ③にぶい黄粒	②普通 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は高台を接着後に回転横ナデで調整。器体内面に煤が付着。	2	
80-81 -26	H-11 カマド	土師質 椀	①[11.2] ③ 6.0	② 4.9	①中粒 ③粗	②良好 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は高台を接着後に回転横ナデで調整。	カマ ド2, 3,4	胎土に 赤褐色 粒含む
80-81 -27	H-11 土釜?	土師質 土釜?	① — ③ —	②(9.6)	①中粒 ③にぶい粒	②良好 ④破片	外面は塗削りで整形。内面は笥ナデで調整。総じて作りは粗い。		
80-81 -28	H-11 カマド	須恵器 転用規	長(7.0) 幅(12.9)		①細粒 ③灰灰	②良好 ④破片?	須恵器製の体部破片の転用規。内面全体が使用により摩耗。内面及び断面(割れ面?)の一部に朱墨痕あり。	カマ ド1	
80-81 -29	H-12 床直	石製品 砥石	長(11.6) 幅(8.3) 厚 6.5		流紋岩製の砥石。被熱により赤色化。一部欠損(被熱により一部が壊れたか)。			1	
80-81 -30	H-12 床直	土師質 坪	① — ③ 6.0	②(2.2)	①細粒 ③にぶい黄粒	②良好 ④口縁部欠	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。内面及び断面の一部に煤が付着。	2	
80-81 -31	H-13 覆土	須恵器 椀	① — ③ 8.0	②(4.4)	①細・中粒 ③にぶい橙赤底部付近	②良好 ④良好	体部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は高台を接着し回転横ナデで調整。	2	酸化燻
80-81 -32	H-15 覆土	土師質 坪	①[13.4] ③ —	② 5.2	①細粒 ③明赤褐	②良好 ④1/2	体部外面は塗削りで整形。体部内面及び口縁部内外面は横ナデで調整。		
80-81 -33	H-15 床直	土師器 埴	頸部径 6.9 体部 径 12.0 高(8.7)		①細・中粒 ③明赤褐	②良好 ④口縁部欠	体部外面は塗削りで整形の後に肩部から頸部の付け根にかけては磨きで調整。体部内面は横ナデで調整。	8	
80-81 -34	H-15 床直	土師器 小甕	① 17.5 ③ 7.3	② 13.3	①中粒 ③粗	②良好 ④ほぼ完形	体部外面は縦方向の塗削り及び立ち上がりは横ナデで整形。体部内面は縦方向の笥ナデで整形。口縁部内外面は横ナデで調整。	9	胎土に 赤褐色 粒含む
80-81 -35	H-15 床直	土師器 瓶	① 26.4 孔径8.3	② 32.3 ③10.0	①中粒 ③にぶい黄粒	②良好 ④3/4	体部内面及び口縁部内外面を横方向のナデで整形し、体部外面を縦方向の塗削りで整形。底部の孔は横方向の塗削りで整形。	1, 2, 3 6-a	
80-81 -36	H-15 床直	土師器 甕	① 18.5 ③ —	②(19.6)	①中粒(粗粒含) ③にぶい黄粒	②良好 ④口縁・体部残	体部内面は斜方向の笥ナデ、口縁部内外面を横ナデで整形し、体部外面を縦方向の塗削りで整形。	4, 5 6-b	
80-81 -37	H-16 床直	土師質 皿	①[9.0] ③ 6.5	② 2.1	①細粒 ③灰白	②普通 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。	1	
80-81 -38	H-16 床直	土師質 皿	① 9.3 ③ 5.7	② 2.1	①中粒 ③粗	②良好 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。	4	
80-81 -39	H-16 床直	土師質 坪	① 14.7 ③ 6.4	② 4.4	①細粒 ③にぶい粒	②良好 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。内面に薄く煤が付着。	3	
80-81 -40	覆瓦	土師質 坪	①[15.4] ③ 8.8	② 4.8	①細粒 ③にぶい黄粒	②普通 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横ナデで整形。底部は回転系切り(右回転)未調整。		

6 まとめ

宮鍋神社周辺の様相について

(1) 建物跡について

①礎石建物跡 (SB036) の調査成果

i. 規模と他の礎石建物跡との関係について

78トレンチの調査は、調査区北側に隣接する元総社普海遺跡群 (143) 8区の1号礎石建物跡の範囲内容確認を目的として実施した。結果として、礎石建物の側柱部分 (枠形) の布地業の南辺、東辺及び南東隅を検出することができた。これにより布地業の規模が東西 (桁行方向) 約13m、南北 (梁行方向) 約8mであることが判明した。この規模はこれまでにこの周辺で検出されている推定上野国府28トレンチ (平成26年度) (SB014)、元総社普海遺跡群 (136) B-1号建物跡 (SB033) の布地業と同規模である。特に元総社普海遺跡群 (136) B-1号建物跡 (SB033) とは側柱部分 (枠形) の布地業の内側にも布地業を持つ点でも共通し、掘込地業が同軸上に直列することから、連続的に同様の建物が建てられたと推定される。

ii. 礎石の痕跡について

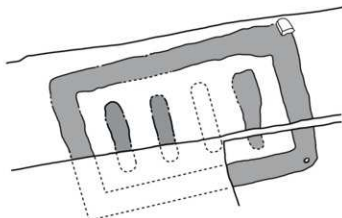
なお、今回の調査では検出した版築上で川原石が1点検出された。この川原石は側柱部分 (枠形) の布地業の南東隅で検出された。川原石の周囲を精査した結果、土の軟らかい部分が認められた点や、これらが検出された位置が側柱部分の布地業の隅に当たることから、川原石は礎石の根石で土の軟らかい部分は根石の痕跡である可能性が高い。宮鍋神社周辺における発掘調査において、後世の遺構から礎石の可能性が高い石が出土した例は幾つか確認されているが、礎石の痕跡は今までに確認されていないことから、こうした遺構の検出は、礎石建物の構造や当時の地表面を推定する上で重要であると考えられる。

②80トレンチ検出の柱穴列について

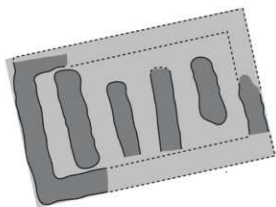
80トレンチの2号掘立柱建物跡 (柱穴列) は、同軸上に並ぶ2基のピットと布掘り状の柱穴で構成されている。この柱穴列の規模は、1号柱穴から布掘り状の遺構の5号柱穴までの距離は6.8mで、その柱間は1.5m、1.8m、1.8m、1.7mと均一ではなく、各柱穴の深さも均一ではない。また、保存状態の良好であった3号柱穴は覆土上部が非常に強く締まっていたのが特徴的であった。この現象の解釈として柱穴列に蓋地業が施されていた可能性も考えられるが、3号柱穴上面において礎石を据えた痕跡は認められなかった点や、他の柱穴では3号柱穴のような土層堆積が認められない点、さらには宮鍋神社周辺では掘立柱建物をそのままの位置で礎石建物に建て直した例が確認できない^{※1)} 状況など、蓋地業と考えるににくい要素も多い。

なお、この柱穴列は北から東へ74度傾くが、この走行は宮鍋神社周辺で検出されている建物群や区画溝と近似している。また、この柱穴列の時期は重複関係から6世紀代の15号竪穴建物跡よりも新しく10世紀代の8号竪穴建物跡よりも古いことから、礎石建物群と同時期に存在していたと考えられる。

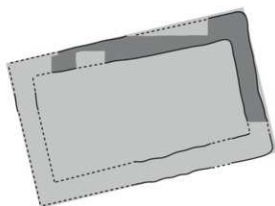
ちなみに、布掘り状の柱穴列のうち5号柱穴列では柱痕状の土層堆積が認められたが、4号柱穴と5号柱穴の間にもピットの底面状の平坦面が確認されている。この平坦面と柱痕状の土層堆積状態から、4号柱穴と5号柱穴の間にも柱穴が存在していたと考えられる。ここで注意したいのが令和2年度に調査した74トレンチの7号竪穴建物跡である。この竪穴建物の床面は硬化が認められなかったほか、報告している3基のピットは床面の精査時に明確な柱穴が認められたわけではなく、床面をピンボールド探査した結果認められたものを調査したが、これらはその状況から床下土坑と推定された (前橋市教育委員会 2022)。2号掘立柱建物跡 (柱穴列) と7号竪穴建物跡のピットの位置関係を確認すると、柱穴列とほぼ同軸上に3基のピットが並ぶようにも見える (Fig.39)。7号竪穴建物跡は遺物から7世紀代と推定され、仮に柱穴列が重複するならば、この柱穴列によって7号竪穴建物の床面が壊されていた (ゆえに床面が硬化していなかった) と考えられなくもないが、7号竪穴



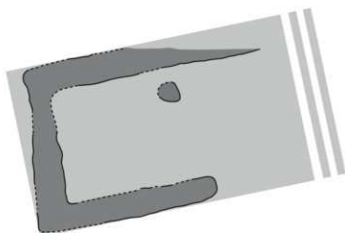
元総社蒼海遺跡群 (148) 8区B-1号礎石建物跡
上野国府78トレンチ1号礎石建物跡 (SB036)



元総社蒼海遺跡群 (136) A区1号建物跡 (SB033)



上野国府28・35トレンチ1号建物跡 (SB014)



上野国府73トレンチ1号礎石建物跡 (SB035)

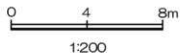


Fig. 38 礎石建物跡 (SB036) と類似した礎石建物跡

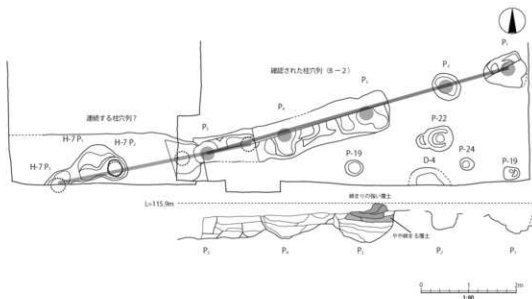


Fig. 39 80トレンチ検出の柱穴列

建物跡の床面のうち3基のピットの東側に当たる位置において土師器環が出土していることから、現時点では柱穴列の延伸が存在する可能性を指摘するにとどめておきたい。

今後の検討課題として、この柱穴列が掘立柱建物跡の柱穴であるとするならば、この柱穴列の北側では柱穴が検出できなかった点から、その南側に未検出の柱穴列（側柱）の存在が想定できる。今後の調査でさらなる柱穴が検出されれば、この柱穴列によって構成される建造物の規模や性格を明らかにすることができると考えられる。

(2) 区画溝について

宮鍋神社周辺では礎石建物・掘立柱建物群の周囲に区画溝がめぐることが判明しているが、令和4年度調査ではこの区画溝のうち、南区画溝の範囲内容確認を実施した。この南区画溝は、元総社普海遺跡群（95）で初めて検出された遺構で、その後実施した推定上野国府47トレンチ（平成28年度調査）、同67・68トレンチ（令和元年度調査）と、調査を継続することにより範囲内容確認に努めてきた遺構である。また、令和4年度調査の地点は、推定上野国府73トレンチで検出された1号道路跡の延伸上との交点付近に当たることから倉庫群への入口施設の有無の確認も行った。

①南区画溝で検出された2条の区画溝の解釈

南区画溝の調査の結果、既調査の成果の追認も含めて判明した点は以下のとおりである。

- i. 上幅約4m、下幅約2mの区画溝（1号溝跡）の底部に、上幅1.2m、下幅約0.9mの区画溝（2号溝跡）が検出された。こうした状況は既調査の3か所の調査地点（普海（95）、国府47トレンチ・67トレンチ）と同様である。
- ii. 上段の区画溝の底面付近の土が硬化していた。下段の溝跡はその下層となるが、下段の溝跡の覆土上部も硬化した覆土から連続するように締まりが強い。こうした状況は上段の溝が検出されている他の2か所の調査地点（普海（95）、国府47トレンチ）でも同様である。なお、下段の溝跡の覆土には砂層土（基本層序VI層）ブロックが比較的多く含まれている。
- iii. 上段の区画溝がほぼ埋没した時点で、区画溝と軸線をなぞるように硬化面（道路面）が形成されている。
- iv. 区画溝埋没後に形成された硬化面（道路面）を壊して堅穴建物が構築される。その時期は10世紀後半以降と考えられる。

上記4点の成果について、以下のとおりを考えたい。

まず、i・iiに関しては、南区画溝は上段の区画溝（1号溝跡）と下段の区画溝（2号溝跡）の新田2条が存在する。この状況は過去の調査地点においても確認されているほか、土層観察のみで正式な報告はなされていないが、推定上野国府47トレンチよりも西約90mの地点で、「下段の区画溝」と推定される小規模な区画溝が、切り崩された断面の観察により確認されている[※]。この新田2条の区画溝は本来的には別の区画溝と考えられ、まず先行して下段の区画溝（2号溝跡）が掘削され、その後、それを掘り広げるように上段の区画溝（1号区画溝）が掘削されたと考えられる。なお、2号溝跡の覆土に砂層土のブロックが多く含まれている点や覆土上部から1号溝跡底面付近にかけて締まった状態であることから、2号溝は区画溝を掘り広げる際に若干埋められたものと考えられる。

②西区画溝との比較

宮鍋神社周辺では、これまでの発掘調査で南区画溝のほかに西区画溝が検出されている。この西区画溝に該当する区画溝は元総社普海道跡群（14）5トレンチおよび推定上野国府6トレンチ（平成23年度調査）で検出されているほか、推定上野国府6トレンチ以南においてもこの同軸上で古代の溝が点々と検出されている（元総社普海道跡群（21）・（23）、推定上野国府40トレンチ）。区画溝上部が削り取られているために詳細な規模は不明であるが、残存する遺構の状況から多少は規模が小さくなるような印象を受ける。なお北側の延伸については調査が進んでいないため不明である。これら溝の検出地点のうち、元総社普海道跡群（14）5トレンチおよび推定上野国府6トレンチの溝は断面形が逆台形を呈し上幅約5m、下幅約3.5mの規模で、その検出状態は南区画溝のうちの「上段の区画溝」に近似している。西区画溝と南区画溝の異なる点としては、西区画溝は南区画溝のように新旧の区画溝が重なる状況が認められなかった点である。

③前期区画溝に関する予察

西区画溝を考えるにあたり、推定上野国府79トレンチの北西約300mに位置する元総社普海道跡（143）で検出された2号溝跡と、その北に隣接する元総社普海道跡群（104）の4号溝跡についても触れなくてはならない。

両調査区は上層が削り取られ表土の下層が総社砂層となっていたため、検出された古代の溝跡は底部に近い部分のみであった。元総社普海道跡群（143）2号溝跡は北から西へ6度傾き、その規模は確認面での上幅が1m弱を測るが、報告中で本来的には上幅1.5m、深さ1m程度の規模が想定される。断面形状は浅い皿形や逆台形など多様で、底面には所々に土坑状の窪みやテラスを有する地点も存在し、その形状は一定していない。なお、途中で溝が2.5m程途切れる部分があるが、残存状態によるものか意図的な掘り残し（土橋？）かは不明としている。この区画溝の時期は遺構との重複関係から8世紀代から9世紀代にかけて機能していたと推定される。なお、この区画溝は元総社普海道跡群（104）では4号溝跡として確認されており、その調査地内で東へ105°（北から東へ75度の傾き）曲がることが確認されている。

ここで、この溝と前期南区画溝（下段の区画溝）とを比較してみた（Tab. 7）。区画溝はともに上部が削られているため比較が難しい部分もあるが、その特徴は大きくかけ離れた状況にはないと考えられる。

Tab. 7 元総社普海道跡群（143）2号溝跡と前期南区画溝（下段の区画溝）との比較

	元総社普海道跡群（143）2号溝跡	前期南区画溝（下段の区画溝）
主軸方向	N-6°-W	E-13°-N
断面	浅い皿形・逆台形など多様 土坑状の窪みやテラスなど形状は一定しない。	基本的に逆台形 幅は多少増減する。
規模	遺構確認面での上幅1m 上幅1.5m、深さ1m（推定）	最大上幅1.20m、最大下幅0.94m 上幅約2.5m、深さ約1m（推定）
時期	8世紀から9世紀代	8世紀代（掘り直されている）

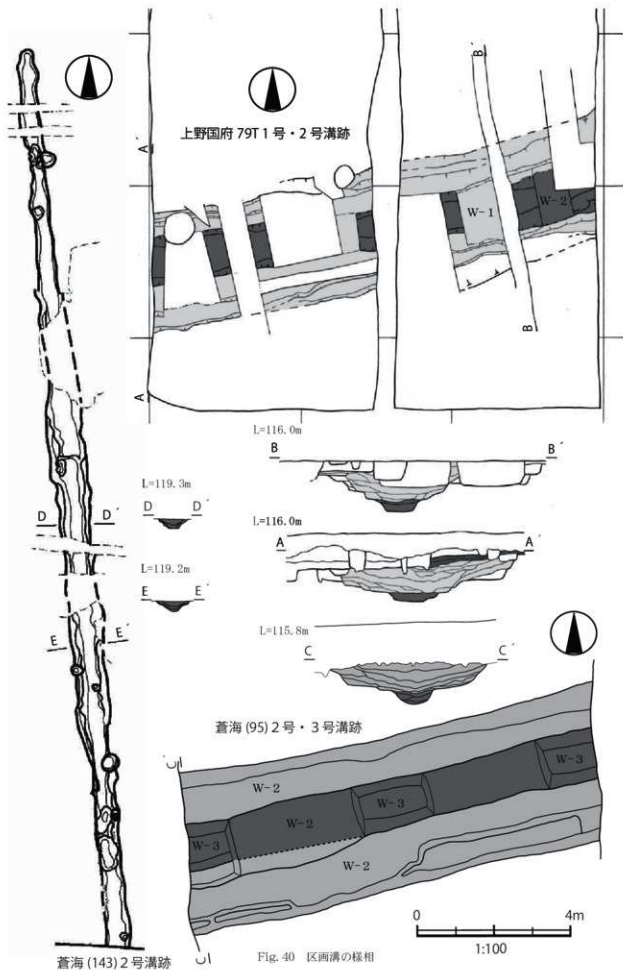


Fig. 40 区画溝の様相

元総社普海道跡群 (143) 2号溝跡を前期西区画溝とした場合、西区画溝は東へ約30m位置をずらし方向も多少改めて掘り直しているが、南区画溝についてははずさずにそのままの位置で掘り直したと考えられる。前期区画溝よりも掘り直した後期区画溝のほうが、溝の幅も広くしっかりと掘り方をもつ印象を受ける。倉庫群全体の再整備の結果と解釈すべきなのだろうか。むしろ、前期区画溝は礎石建物や掘立柱建物と方位が近く周囲を平行四辺形に囲んでいるが、後期区画溝は西側区画溝の走行が改められたことにより周囲を台形に囲んでいるように見える。

④区画溝上位の硬化面（道路跡）から

i. 73トレンチ1号道路跡について

当初その検出が調査目的であった73トレンチ1号道路跡に関して述べたいが、この道路跡は北から西へ6度傾き、時期的に上限は不明であるが下限は10世紀前半の竪穴建物により硬化面が掘り込まれていることから10世紀代には機能していなかったと考えられる。1号道路跡の延伸については73トレンチの南の38トレンチでは検出されている（調査報告書では硬化面の範囲の記載はあるが遺構番号なし）が、その南の推定上野国府27トレンチ、元総社普海道跡群 (146) 8区では中世など後世の遺構との重複によるものか検出されていない。78及び79トレンチはさらにその南に位置する調査区であるが、その延伸は確認できなかった。また79トレンチの調査では南区画溝との交点付近において門や橋など入口施設に関連する遺構は検出されなかった。

ii. 79トレンチ1号道路跡の検討から～区画溝と道路～

79トレンチでは南区画溝の上位で硬化面（道路跡）が検出されたが、南区画溝の存在する付近は上部が削られていることが多いため、これまでの調査で硬化面は報告されていない。この道路跡は5号・7号竪穴建物跡と重複しているが、両竪穴建物はこの道路面を掘り込んで構築されていた。5号竪穴建物跡が11世紀前半、7号竪穴建物跡が11世紀後半と推定されることから、道路の下限は10世紀代と考えられる。その上限については南区画溝（1号溝跡）廃絶後となるわけだが、南区画溝が機能を失った時期は9世紀後半と考えられることから、それ以後に道路として使用されたものと推定される。

推定上野国府城では、古代の区画溝が埋没する過程もしくはほぼ埋没した時点で硬化面が形成（道路として使用）される例が認められる。西区画溝（推定上野国府6トレンチ2号溝跡）でも覆土中位で硬化面が認められたほか、牛池川左岸の元総社普海道跡群 (134) 1号溝跡（閑泉樋遺跡で検出された区画溝と同一の区画溝）では、区画溝がほぼ埋没した時点で道路と考えられる硬化面が形成されており、この硬化面の上位に薄く間層を挟んで浅間B軽石の堆積が認められた。これら区画溝中の硬化面（道路）は調査地点の残存状況に依るところもあるが、区画溝が検出された時に必ずしも検出されるものでもなく、近接した位置で連続的に検出された例はむしろ少ないことから、この硬化面（道）の全体像を浮き彫りにすることは困難な状況にある。

西区画溝（推定上野国府6トレンチ2号溝跡）の硬化面については、その北の延伸上に位置する元総社普海道跡群 (141) において検出されたA区R-1号道路状遺構の存在が重要と考えられる。この遺構は調査区北側を東西に流れる牛池川へと降りるスロープ状の遺構で、その時期は9世紀後半から10世紀後半と推測される（中村 2020）。この道路状遺構の南の延伸は前述のとおり元総社普海道跡群17街区、同 (30) で検出された道路跡を通りながら西区画溝（推定上野国府6トレンチ）へと続く一連の遺構と考えられる。また区画溝の連続性を考慮すれば、南区画溝も西区画溝上層と同時期に道路が存在したことも想像に難しくなく、79トレンチで検出された南区画溝上層の硬化面の存続時期もそれと一致している。このことから、9世紀代後半に区画溝のラインをなぞるように道路が形成されていたと考えられ、その北の端は岸辺に降りる形で牛池川へ到達していたと考えられる。

ちなみに、この元総社普海道跡群 (141) の北側付近は、国分僧寺方面から尼寺の南を通過して東西に走る両側溝の道路の東端でもある。そうした現象の一因として可能性を考えておきたいのは、牛池川が内陸交通に使用され、この地点に津が存在した可能性である。ただし、現状ではこれは推測の域を脱することはできない。

普海地区では区画溝をなぞるような道路の他に、前述の73トレンチ1号道路跡のような区画溝上層に形成されない道路も確認されている。73トレンチ1号道路跡も10世紀代の竪穴建物によって壊されていることから、区画溝をなぞる道路と同時期に存在したと考えられる。こうした各道路のラインを復元していくことは、ミクロな視点では、宮鍋神社周辺の倉庫群が廃絶する時期における土地の利用状況、マクロな視点では9世紀から10世紀にかけての国府城の構造を考えるうえでの重要な要素になり得るものと考えられる。

(3) 「倉庫群」付近の様相について

①宮鍋神社周辺の倉庫群の状況

これまでの調査で宮鍋神社周辺において確認された官衙関連と思われる倉庫群の状況について、ここでまとめておく。

令和4年度区画整理に伴う調査（元総社普海遺跡群（147）で、礎石建物跡が新たに2棟検出された。これによりこれまでの調査で検出された倉庫群関連遺構は、礎石建物跡10棟及び掘立柱建物跡3棟となった。また、これらの建物跡の南側及び西側で区画施設と考えられる溝跡が確認されている。そのほか元総社普海遺跡群（95）の調査では、南区画溝の南側で掘立柱建物跡が2棟確認されているが、これは区画溝によって区画される範囲の外側に位置する。

令和4年度までの調査で宮鍋神社周辺において検出された礎石建物跡及び掘立柱建物跡の概要を下表にまとめた。

Tab. 8 宮鍋神社周辺の礎石建物跡一覧

遺構略称	地業種別	主軸方向	掘込地業の規模等	遺跡・調査区名
SB014	布地業	N-13°-W	12.9m×7.8mの東西棟。口の字状	国府28トレ
SB016	布地業	N-11°-W	規模不明。口の字状か	普海（99）・（147）、国府33トレ
SB017	総地業	N-9°-W	一辺12m以上の正方形か	普海（99）・（122）、国府33トレ
SB031	総地業	N-2°-W	一辺13mのほぼ正方形	普海（127）・（133）
SB032	総地業	N-10°-W	一辺11m以上の正方形か	普海（136）A区
SB033	布地業	N-11°-W	13m×8mの東西棟。口の字状	普海（136）A区
SB035	布地業	N-10°-W	13.2m×8.8mの東西棟。口の字状か	国府73トレ
SB036	布地業	N-12°-W	13m×8mの東西棟。口の字状	普海（146）8区、国府78トレ
SB037	総地業	N-12°-W	東西11m×南北4m以上	普海（147）1区
SB038	布地業	不明	規模不明	普海（147）1区

Tab. 9 宮鍋神社周辺の掘立柱建物跡一覧

遺構略称	建物種別	主軸方向	建物規模	遺跡・調査区名
SB012	床束建物	N-19°-W	桁行3間（5m）×梁行2間（5m）	普海（95）※区画施設の外側
SB013	床束建物	N-13°-W	桁行4間（7.7m）×梁行3間（4.8m）	普海（95）※区画施設の外側
SB019	側柱建物	N-5°-W	桁行2間（4.2m）×梁行2間（5.5m）	国府38トレ
SB030	側柱建物	N-13°-W	桁行3間（8m）以上×梁行2間（5.4m）	普海（127）・（133）
SB034	総柱建物	N-13°-W	桁行3間（4m）以上×梁行2間（6m）以上	普海（136）A区

※1 「遺構略称」は、前橋市教育委員会で行っている上野国府関連遺構の集成において付番したもの

※2 「普海」は元総社普海遺跡群、「国府」は上野国府等範囲内確認調査の略

南区画溝は、前節に記載のとおり新旧の溝が重複しており、上段の溝が上幅4mほど、下段の溝が上幅1mほどで、確認された溝の総延長は約140mを測り、N-77°-Eの傾きで東西に走行する。また、西区画溝は上幅5mほどで、確認された総延長は約230mを測り、N-10°-Wの傾きで南北に走行する。



Fig. 41 宮鍋神社周辺の様相 (令和4年度調査終了時点)

倉庫群の北側については確実な区画施設は確認されていないものの、宮鍋神社の北西約190mの地点で東西方向の道路状遺構が検出されている（元総社普海遺跡群（31）及び（38）7区）。この遺構は、幅2m、深さ30cmほどで掘り方の断面は浅いU字形を呈し、覆土中及び底面に断続的に硬化面が確認されていることから道路状遺構とされているもので、N-88°-Eの傾きで東西方向に走行する。この遺構の性格については更なる調査・検討を要するものの、走行方向が正方位に近いことから比較的新しい時期の遺構で、前節の③で述べた後期区画溝と同じ時期に倉庫群北側を区画していた可能性が考えられる。いずれにしても、今後の調査において注意を要する遺構である。なお、東側の区画施設については、これまでの調査で手掛かりとなるような遺構は検出されていない。

建物跡については、①建物の主軸方向について北から西へ10度から15度程度傾くものと正方位に近いものがあること、②礎石建物の掘込地業の工法について布地業と総地業があることなどがこれまでの調査報告で既に指摘されている（前橋市教育委員会 2022）。ただし、①の建物の主軸方向は、礎石建物についてはいずれも掘込地業の形状から求めているため、実際の上に乗る建物の方向とは誤差が生じていることが考えられる。例えば、正方位に近いとされるSB031は、総地業の掘り方の南辺と東辺は1～3度程度の傾きであるのに対し、北辺は7度程度とやや歪んだ形状を呈しており、N-2°-Wと報告されている掘込地業の傾きと実際の建物の傾きとは異なる可能性がある。今回、78トレンチのSB036の調査で礎石掘付痕と考えられる遺構を検出したが、建物の正確な傾きを把握し、倉庫群の変遷を検討する上でもこのような建物の柱位置が特定できる遺構は重要である。

倉庫群の変遷については、SB032（総地業）の下層からSB034（掘立柱建物）が検出されていること、重複関係からSB038（布地業）よりSB037（総地業）が新しいことなどから、①掘立柱建物→②布地業の礎石建物→③総地業の礎石建物という流れが推定される。また、SB033とSB036は、いずれも口の字状を呈する布地業の内側に、南北方向の布地業が4条施されるという特徴のある構造の礎石建物で、その規模や傾きも同じであり、側柱の筋を描える形で東西に並列して配置されることから同時期に併存していた可能性が高い。現状ではこれ以上詳細な倉庫群の変遷を論じることは難しく、今後の調査の進展を待つ必要がある。

②宮鍋神社付近における竪穴建物跡の分布状況

上野国府域における竪穴建物の分布に関する分析については、上野国府の平成23年度調査報告以来度々行われており、宮鍋神社周辺においては8世紀・9世紀は竪穴建物が皆無であるが、10世紀代から再度認められるという傾向が指摘されている（眞下 2013、中村 2016、日沖 2016）。平成23年度調査報告から10年以上が経過し、上野国府等範囲内容確認調査のほか元総社普海遺跡群の調査成果も蓄積された。特に宮鍋神社周辺における発掘調査が進捗したことから、広い調査対象での竪穴建物の分布の検討が可能となった。さらには宮鍋神社周辺には区画溝を伴う官衙関連遺構の存在が確実となってきたことから、竪穴建物の分布を検討することにより、官衙関連施設の範囲に関する予察が可能となった。

そうした点から、令和4年度段階での宮鍋神社周辺における竪穴建物跡の分布状況を確認することにより、土地利用の変遷状況を再検討することとしたい。なお、再検討にあたっては、その対象範囲は宮鍋神社周辺を中心とした地域とし、その時期は「倉庫群」成立前夜の7世紀代から、施設廃絶後と考えられる10世紀までとしたい。

1. 7世紀代

この時期は前述のとおり倉庫群成立前夜となるが、その前の6世紀代から引き続きように竪穴建物が密ではないが分布している。なお、竪穴建物から特筆される遺物は出土していない。

この時期に該当する溝が検出されているが、この溝は断面が逆台形を呈し北から東へ32度の傾きをもつ。水流の形跡が認められず、覆土中に硬化面が少なくとも2面認められることから、埋没する過程で道路として使用されたと考えられる。この溝はその形状から区画溝的な要素が考えられるが、この溝と連続する溝や関連する遺構は認められない。また、倉庫群の礎石建物や掘立柱建物および区画溝と走行が異なる点や、溝の上位に礎石建物

が建てられている点から、倉庫群設置以前の溝と考えられる。

また宮鍋神社周辺では、遺構の重複関係から6世紀代よりも新しく、10世紀から11世紀代頃には埋没していた溝がもう1条検出されている（推定上野国府13トレンチ1号溝跡）。検出された位置は宮鍋神社の北西に隣接する地点で、この溝の走行は基本的に南北方向軸をとるが、西へ向けて緩く弧を描くように湾曲している。溝の断面は逆台形ではなく中央が深く窪むが両端が浅いU字状を呈し、覆土中位以下の覆土が強く締まる。この溝は6世紀後半の竪穴建物を壊して掘削され、硬化面の上位で11世紀代の推定される竪穴建物が構築されていることから、その間に掘削されていることが考えられる。推定される存在時期は宮鍋神社周辺で検出されている区画溝と同一であるが、走行、断面形状及び覆土の状態も異なることから、他の溝とは性格が異なることも考えられる。また、溝が掘削されている位置も倉庫群が設置された台地の端で牛池川沿いの低地面に地点で検出されている。溝の北の延伸は断絶（中世以降の土取りか？）しており、南の延伸も検出されていないことから全体の規模も不明であるが、区画溝というよりも、道路の暗渠として掘削されたと考えるほうが自然であろうか。

ii. 8世紀代

この時期は宮鍋神社周辺に倉庫群が営まれ始めた時期と推定される。この時期は宮鍋神社周辺だけではなく、その北の牛池川右岸（南岸）付近などにおいても竪穴建物は認められないが、倉庫群の範囲内で2軒の竪穴建物が検出されている。

iii. 9世紀代

8世紀代の竪穴建物が希薄な状態は9世紀代になっても続き、牛池川左岸（南岸）付近で希薄な分布が認められるが、宮鍋神社周辺では竪穴建物は認められない。

iv. 10世紀代

この時期になると、爆発的に竪穴建物が増加し、発掘調査でも竪穴建物がかなり重複した状態で検出される。倉庫群との関係については、礎石建物の掘込地業を掘り込んでこの時期の竪穴建物が構築されている点や、埋没した状態の区画溝の上位に竪穴建物が構築されることなどから、この時期には倉庫群は廃絶していたと考えられる。

v. まとめ

宮鍋神社周辺における竪穴建物跡の分布について、その状況を概観してみたが、これまでの検討でも指摘されてきたとおり、8世紀から9世紀にかけて竪穴建物が分布しなくなる時期が存在し、その時期に礎石建物によって構成される官衙関連遺構（倉庫群）が存在していたと考えて間違いはあるまい。また、10世紀以降に竪穴建物がお互い重複しながら爆発的に構築されるが、その時期の遺構からは特殊な遺物はさほど出土していない。むしろその後の11世紀以降の竪穴建物の覆土から、緑軸陶器や白磁の破片、さらには廃絶し埋没を開始した竪穴建物の窪みに土師質の皿や環が多量に廃棄された遺構など、特徴的な遺物が出土する。その様相はまさに上野国府にふさわしい内容と言っても過言ではない。ただ、この時期の遺構は、やはり竪穴建物跡が中心で、館のような掘立柱建物は確認されていない。

8・9世紀代の竪穴建物が疎らな状態は、官衙関連遺構が存在することの裏返しの様相として理解できるが、その後の10世紀以降の状況をどう捉えるのかが今後の課題である。

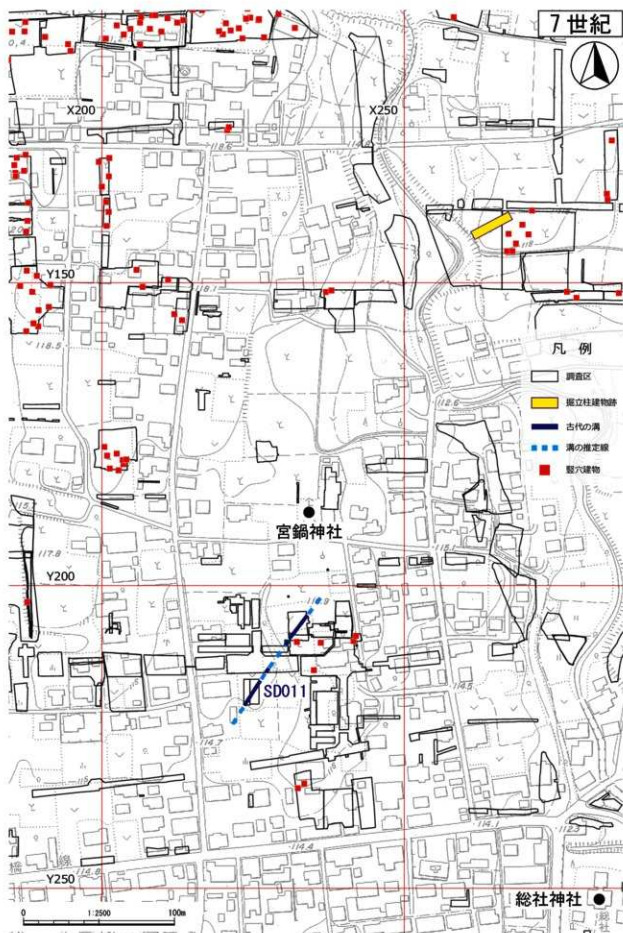


Fig. 42 宮鍋神社周辺の竪穴建物の分布（7世紀代）

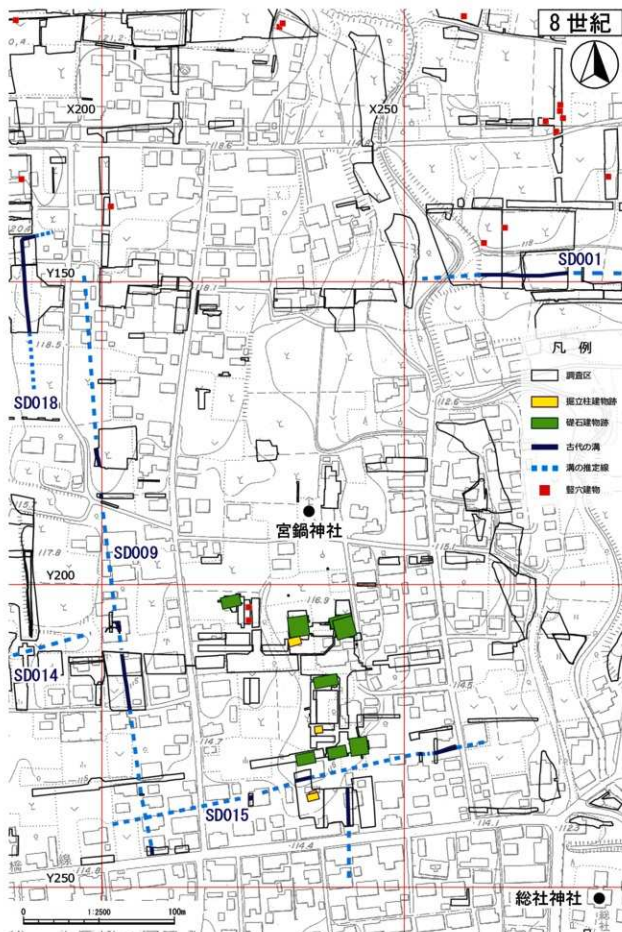


Fig. 43 宮鍋神社周辺の竪穴建物の分布 (8世紀代)



Fig. 44 宮鍋神社周辺の竪穴建物の分布（9世紀代）

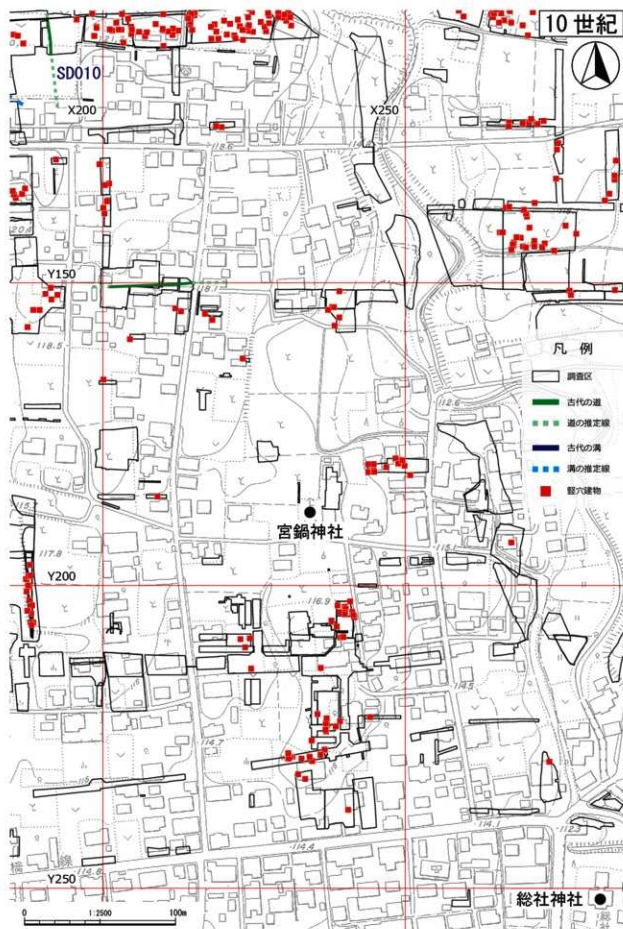


Fig. 45 宮鍋神社周辺の竪穴建物の分布 (10世紀代)

(4) まとめ

令和4年度の調査の調査成果として、元総社蒼海遺跡群の調査成果ともあわせて、宮鍋神社付近に存在する倉庫群についてさらに踏み込んだ解釈をすることができた。また、それにより新たな課題も浮き彫りとなった。

①「倉庫群」の区画溝について

現時点で区画溝が確認できているのは西側と南側である。

東側については牛池川が東区画溝の役目を果たしていたと考えられなくもないが、区画溝が掘削されているとするならば当然牛池川に至る手前に掘削されていたであろうが、この付近はかなり土が削り取られ現表土の下層が総社砂層面となっていることから、すでに区画溝が削り取られている可能性も考えられ、その検出は非常に困難であると考えられる^{※①}。

北区画溝についても現時点でもその位置は不明である。北区画溝については、前期区画溝と後期区画溝でその位置も異なることから、今後両方の区画溝の確認が必要である。

また、南区画溝については、元総社蒼海遺跡群(95)の調査で検出された南北方向の区画溝である1号溝跡との関係を明らかにする必要がある。その交点は未調査であるため詳細は不明であるが、1号溝跡は10世紀代の竪穴建物と重複していることから、南区画溝と時期を同じくして廃絶していることも考えられる。南区画溝以南の溝跡や建物跡は正方位を意識して設置されていることから、宮鍋神社周辺の倉庫群とそれ以南の施設との前後関係や有機的な関係を考えるうえで、1号溝跡との関係は重要であると考えられる。

②「倉庫群」を構成する建物について

宮鍋神社周辺の倉庫群の範囲内では、令和4年度調査が終了した時点で、礎石建物10棟、掘立柱建物5棟が検出されている。これらの建物間では、規模や構造が同一の建物や、直列する建物など、その有機的な関係が考えられるものも認められる。しかし、そうした建物はむしろ少数で、その解釈が未だ定まらない建物も多く存在する。今後の調査で倉庫群に関連する建物が検出されることは十分に考えられることから、その検出に努め、さらに、これら建物の有機的関連性を整理することが、宮鍋神社周辺の倉庫群を上野国府に付属する倉庫群とするべきなのか、群馬郡家の関連施設として解釈すべきなのかを判断する糸口となるのかも知れない。

註

- (1) 元総社蒼海遺跡群(136)では総地業の基礎状遺構の下層で礎柱の掘立柱建物である2号建物跡が検出されているが、位置的に2号建物跡は基礎状遺構の位置から南東方向へ若干ずれた位置において検出されている。
- (2) 平成28年度に47トレンチの西への延伸80mの地点で宅地造成に伴い立ち合いを行った際に、土層断面において区画溝と推定される遺構が検出された。この遺構は総社砂層(基本層序VI層)に掘り込まれ、残存する規模は上幅約50cm、深さ約20cmであった。なお、遺構の上面が後世の整地により削り取られており、その遺構部分の上位は表土であった。
- (3) 令和元年度上野国府等範囲内容確認調査の67トレンチにおいて前期南区画溝と考えられる1号溝跡が検出されたが、東へ行くに従い浅くなり、途中から完全に削り取られて消滅していた。

【主要参考文献】

- 伊勢崎市教育委員会 2010 『三軒屋遺跡Ⅱ—上野国佐位郡街正倉跡発掘調査報告書—』
- 群馬県教育委員会 1988 『史跡上野国分寺跡』
- 永井 智教 2023 『IX発掘調査の成果と課題』『元総社蒼海遺跡群(143)』前橋市教育委員会
- 中村 岳彦 2016 『VI発掘調査の成果と課題』『元総社蒼海遺跡群(65)』前橋市教育委員会
- 中村 岳彦 2018 『「推定上野国府」周辺の古代景観—元総社蒼海遺跡群の溝と道—』『群馬文化』332
- 中村 岳彦 2020 『IV発掘調査の成果と課題』『元総社蒼海遺跡群(141)』前橋市教育委員会
- 日沖 剛史 2016 『群馬県前橋市元総社地域における地形の形成と土地利用』『地域考古学』1 地域考古学研究会
- 前橋市教育委員会 2022 『推定上野国府—令和2年度調査報告—』上野国府等範囲内容確認調査報告書X
- 眞下 晃 2013 『元総社蒼海遺跡群内における7～10世紀の住居跡分布』『推定上野国府—平成23年度調査報告—』上野国府等範囲内容確認調査報告書1

写 真 图 版



1 78トレンチ全景 (南東から)



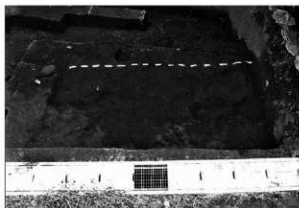
2 78トレンチ1号礎石建物跡根石検出状態①(南から)



3 78トレンチ1号礎石建物跡根石検出状態②(東から)



4 78トレンチ1号礎石建物跡南辺掘込地菓断面(東から)



5 78トレンチ1号竪穴建物跡・1号溝跡全景(北から)



1 78トレンチ2号竪穴建物跡全景（北から）



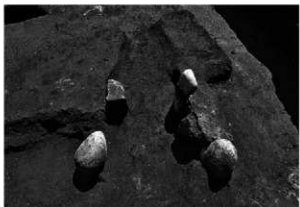
2 78トレンチ2号竪穴建物跡カマド全景（西から）



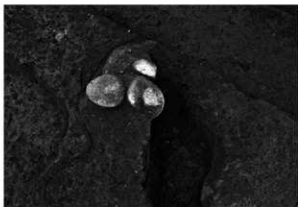
3 78トレンチ3号竪穴建物跡全景（北から）



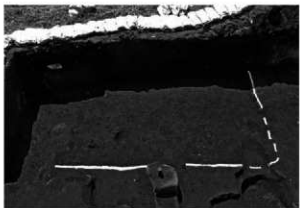
4 78トレンチ4号竪穴建物跡全景（北から）



5 78トレンチ4号竪穴建物跡カマド全景（北西から）



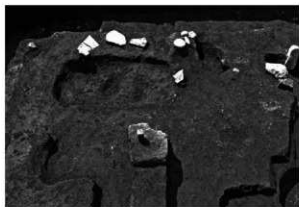
6 78トレンチ5号竪穴建物跡焼土分布状態（北から）



7 78トレンチ6号竪穴建物跡全景（北から）



8 78トレンチ7号竪穴建物跡全景（北から）



1 78トレンチ8号竪穴建物跡床面検出状態(北から)



2 78トレンチ9号・10号竪穴建物跡床面検出状態(西から)



3 78トレンチ2号土坑全景(北から)



4 78トレンチ1号土壙墓検出状態(東から)



5 79トレンチ西半全景(南から)



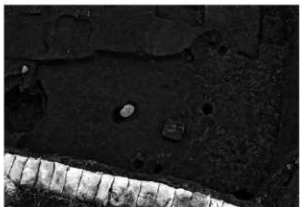
1 79トレンチ東半全景 (北から)



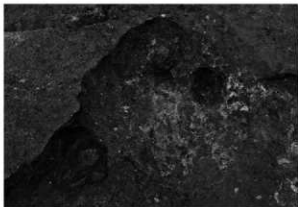
2 79トレンチ1号・2号竪穴建物跡全景 (北から)



3 79トレンチ3号・4号・7号・8号竪穴建物跡全景 (西から)



4 79トレンチ5号竪穴建物跡全景 (西から)



5 79トレンチ5号竪穴建物跡カマド全景 (西から)



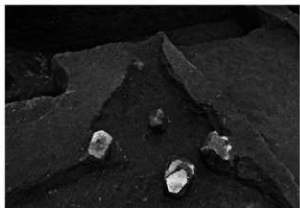
1 79トレンチ5号竪穴建物跡2号炉全景 (東から)



2 79トレンチ6号竪穴建物跡(西半)全景 (東から)



3 79トレンチ6号竪穴建物跡(東半)全景 (北から)



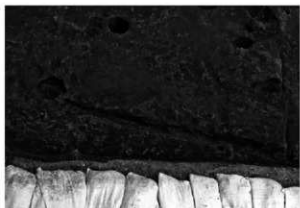
4 79トレンチ7号竪穴建物跡カマド全景 (西から)



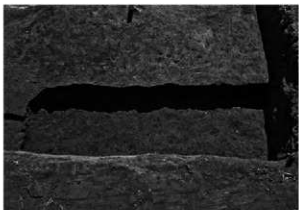
5 79トレンチ9号・10号(西半)竪穴建物跡全景(西から)



6 79トレンチ10号(東半)・17号竪穴建物跡全景(西から)



7 79トレンチ11号竪穴建物跡全景(南から)



1 79トレンチ14号竪穴建物跡(東半)全景(北から)



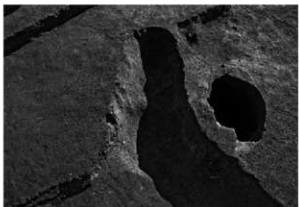
2 79トレンチ14号竪穴建物跡(西半)全景(北から)



3 79トレンチ15号竪穴建物跡全景(西から)



4 79トレンチ16号竪穴建物跡全景(西から)



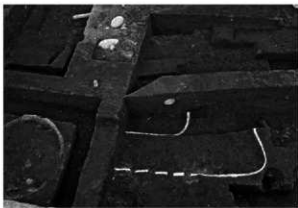
5 79トレンチ16号竪穴建物跡カマド全景(西から)



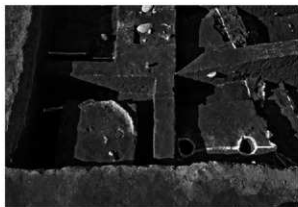
6 79トレンチ18号竪穴建物跡全景(東から)



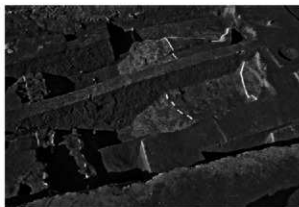
7 79トレンチ19号竪穴建物跡全景(北から)



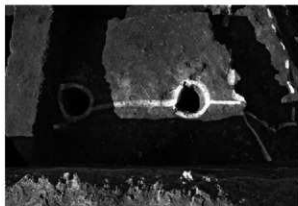
8 79トレンチ21号竪穴建物跡・11号土坑全景(東から)



1 79トレンチ20号・23号竪穴建物跡全景（東から）



2 79トレンチ22号竪穴建物跡全景（東から）



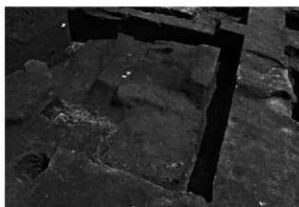
3 79トレンチ23号竪穴建物跡全景（東から）



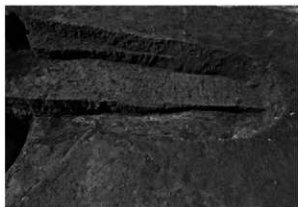
4 79トレンチ1号溝跡覆土の硬化部分土層堆積（北から）



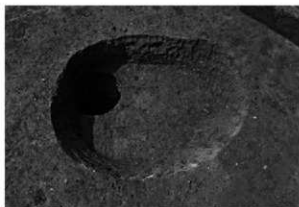
5 79トレンチ1号溝跡覆土の硬化部分（南東から）



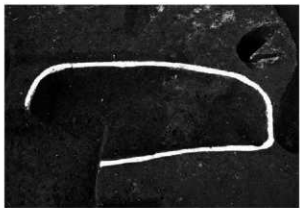
6 79トレンチ1号溝跡覆土の硬化部分（北西から）



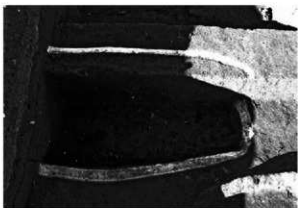
7 79トレンチ1号土坑全景（南から）



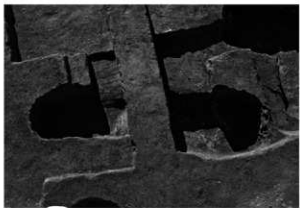
8 79トレンチ2号土坑全景（南から）



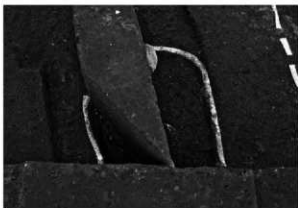
1 79トレンチ3号土坑全景 (東から)



2 79トレンチ4号土坑全景 (東から)



3 79トレンチ5号土坑全景 (北から)



4 79トレンチ11号土坑全景 (南から)



5 80トレンチ (北半) 全景 (東から)



6 80トレンチ (南半) 全景 (西から)



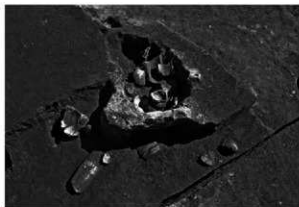
7 80トレンチ (拡張部) 全景 (南から)



8 81トレンチ全景 (南から)



1 80トレンチ2号竪穴建物跡全景 (西から)



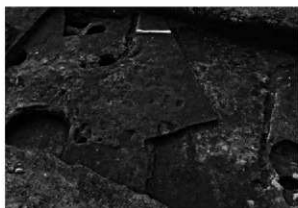
2 80トレンチ2号竪穴建物跡遺物出土状態 (北西から)



3 81トレンチ3号竪穴建物跡全景 (東から)



4 81トレンチ4号竪穴建物跡全景 (西から)



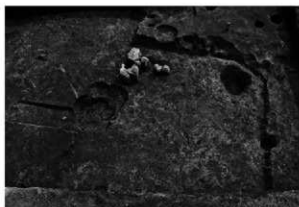
5 81トレンチ6号竪穴建物跡全景 (東から)



6 80トレンチ7号竪穴建物跡全景 (西から)



7 80トレンチ8号竪穴建物跡全景 (西から)



8 80トレンチ10号竪穴建物跡全景 (北から)



1 80トレンチ11号竪穴建物跡全景 (北から)



2 80トレンチ12号竪穴建物跡全景 (北から)



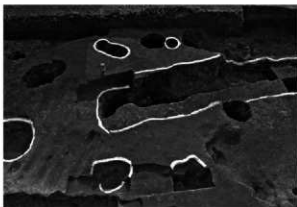
3 81トレンチ13号竪穴建物跡全景 (南から)



4 80トレンチ14号・15号竪穴建物跡横出状態 (南東から)



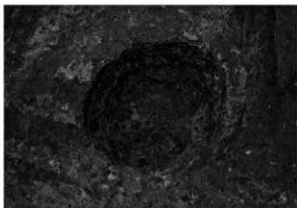
5 81トレンチ16号竪穴建物跡全景 (東から)



6 80トレンチ1号掘立柱建物跡全景 (北から)



7 80トレンチ2号掘立柱建物跡 (柱穴列) P₁土層堆積 (北西から)



8 80トレンチ2号掘立柱建物跡 (柱穴列) P₂全景 (東から)



1 80トレンチ2号掘立柱建物跡(柱穴列) P₅土層堆積 (北西から)



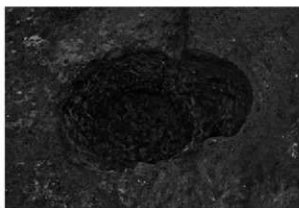
2 80トレンチ2号掘立柱建物跡(柱穴列) P₅土層堆積 (西から)



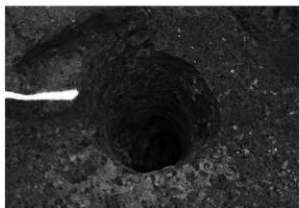
3 2号掘立柱建物跡(柱穴列) から78トレンチを望む



4 80トレンチ4号土坑全景 (南から)



5 80トレンチ22号ピット全景 (北から)



6 80トレンチ23号ピット全景 (西から)



7 調査風景 (78トレンチ)



78-10



78-13



78-14



78-19



79-1



79-2



79-6



79-7



79-9



79-10



79-15



79-16



79-17



79-18



79-23



79-24



79-36



79-39



79-52



79-35



79-59



79-60



79-61



80-81-1



80-81-2



80-81-3



80-81-12



80-81-14



80-81-15



80 · 81-9



80 · 81-17



80 · 81-18



80 · 81-19



80 · 81-21



80 · 81-25



80 · 80-29



80 · 81-22



80 · 81-23



80 · 81-32



80 · 81-33



80 · 81-34



80 · 81-38



80 · 81-35

抄 録

フリガナ	スイテイコウズケコクフ
書名	推定上野国府
副書名	令和4年度発掘調査報告書
シリーズ名	上野国府等範囲内容確認調査報告書
シリーズ番号	12
編著者名	阿久澤智和・阿久澤友之・池田史人・浅野孝利
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11-4
発行年月日	20240322

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
スイテイコウズケコクフ 推定上野国府	マエノシマシヨウソウジヤ 前橋市元総社 マエ 町2127-1ほか	10201	4A147	36°23'20" S 36°23'29"	139°02'08" E 139°02'10"	20220601 S 20230130	295m ²	範囲内容確認 調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
推定上野国府	集落	古墳	竪穴建物跡10	土師器、須志器	
	官衙	奈良、平安	礎石建物跡1、柱穴列1、溝跡2、竪穴建物跡40、土坑、ピット等	須志器、灰軸陶器、黒色土器、土師質土器、石製品、鉄製品	官衙関連施設(倉庫群)の南区画溝を調査。柱穴列を新たに検出。
	城郭	中世以降	大溝1 井戸跡1、土坑、ピット等	陶磁器等	

上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅻ

推定上野国府

令和4年度調査報告

2024年3月18日 印刷

2024年3月22日 発行

編集・発行／前橋市教育委員会文化財保護課

印刷／朝日印刷工業株式会社